

東北大学学術資源研究公開センター 2014 年度 年次報告



2015 年 3 月

東北大学総合学術博物館
東北大学史料館
東北大学植物園

目次

I 学術資源研究公開センターの概要	・・・(1)
1. 沿革	・・・(1)
2. 設立趣旨	・・・(1)
3. 組織	・・・(1)
4. 組織化以降の活動	・・・(1)
(1) 組織の整備	
(2) 学術資源研究公開センターの活動	
(3) 学内競争的資金（総長裁量経費）の申請と獲得	
(4) 図書館の業務に対する指導・支援	
(5) センター運営専門委員会	
(6) 各部会の活動	
5. 東北大学学術資源研究公開センター規程	・・・(6)
6. 東北大学学術資源研究公開センター各種委員，教職員等名簿	・・・(9)
II 総合学術博物館	
1. 組織概要	・・・(13)
(1) 沿革	・・・(13)
(2) 目的	
(3) 活動方針	
(4) 組織と運営	
(5) 施設	
(6) 運営経費	
2. 活動概要	・・・(14)
(1) 資料標本等収蔵関連事業（収蔵・データベース）	
(2) 展示関連事業	
3. 教育・教育支援・普及教育事業の概要	・・・(17)
(1) 学内教育への貢献	
(2) 学内教育・学外教育との連携	
(3) 講演会・公開講座等	
(4) 広報・その他	
4. 研究活動の概要	・・・(18)
(1) 学会活動	
(2) 博物館紀要	

(3) デジタル工房／マイクロトモグラフィセンター	
(4) 図書館の業務に対する指導・支援	
(5) 総合学術博物館教員の研究活動	
5. その他大学運営に関する活動等	・・・(21)
III 史料館	・・・(23)
1. 組織概要	・・・(23)
(1) 理念・目的と事業内容	
(2) 沿革	
(3) 収集・所蔵資料	
(4) 組織・スタッフ	
(5) 関係委員会等	
(6) 施設	
2. 運営概要	・・・(27)
(1) 組織・運営	
(2) 学内外からの事業資金獲得状況	
3. 資料の管理・公開（アーカイブ事業）	・・・(28)
(1) 資料の受入・整理	
(2) 資料利用者への対応	
4. 普及・社会教育事業	・・・(31)
(1) 展示会および関連企画の開催	
(2) 展示室の利用状況	
(3) 他機関開催の展示会への出陳	
5. 教育・研修・学習支援活動	・・・(32)
(1) 公開講演会の開催	
(2) 教育・学習活動における史料館の利用	
(3) 全学教育の担当	
(4) 職員研修の担当	
6. 調査・研究活動	・・・(32)
(1) 学術出版物の発行	
(2) 学会・研究会・研修会等への参加および報告	
(3) 研修会等への派遣	
7. その他	・・・(34)
(1) 広報・情報公開	
(2) インターネット等を利用した情報発信	

IV 植物園	・・・(35)
1. 植物園の概要	・・・(35)
(1) 沿革	
(2) 設立の経緯と趣旨	
(3) 組織と運営	
(4) 施設	
2. 運営概要	・・・(40)
(1) 補修・整備工事, 庶務報告等	
(2) 植物園部会の開催	
(3) 学内外からの事業資金獲得状況	
(4) その他	
3. 収蔵展示事業	・・・(42)
(1) 資料標本等収蔵事業	
(2) 展示関連事業	
4. 教育・教育支援・普及教育活動	・・・(44)
(1) 入園者統計等	
(2) 学内教育との連携	
(3) 学外機関の利用	
(4) 報道機関・一般社会人等への対応	
(5) 講演会・体験活動等	
(6) ニュースレター・ホームページ・出版	
5. 全学・学部・大学院生への指導	・・・(49)
(1) 授与した大学院学位	
(2) 担当講義	
6. 研究活動	・・・(50)
(1) 研究支援活動	
(2) 研究活動	
V 教員・協力研究員の研究教育活動	・・・(55)
1. 総合学術博物館	・・・(55)
2. 史料館	・・・(72)
3. 植物園	・・・(75)

I. 学術資源研究公開センター

1. 沿革

2005年、「教育研究機能強化のために、特化された目的を持って設置された、学内共同教育研究施設等について、中期計画期間中の適切な時期に学外の専門家を加えた評価等の結果を参考に、再編・拡充を図る。」という東北大学の中期目標にしたがって、東北大学の学術資源の収蔵、保管、利用、研究に関わる事業を統合的・効率的に遂行するための組織改編の検討が着手された。上記業務に関わる組織のうち図書館をのぞく、総合学術博物館、史料館、植物園の3学内共同利用施設の組織統合をめざし、具体的な検討が行われた。

2006年4月1日に、総合学術博物館、史料館、植物園の3学内共同利用施設を統合した組織として、「学術資源研究公開センター The Center for Academic Resources and Archives」が新たに設置された。学術資源研究公開センターは、教育基盤施設群に属し、上記3施設はそれぞれ同センターの業務組織として従前の業務にあたることとなった。また同時に、情報シナジーセンターの組織改編ともない、全学卒定員助手3名が新たに学術資源研究公開センターの教員として配置された。

この統合によって、学術資源研究公開センターの職員は、各業務組織に配置されていた教員、職員等と情報シナジーセンターより再配置の教員をあわせて、教授3、助教授3、助手7（うち全学卒定員5）、技術職員4となった。その後、2007年4月の教員制度改革により教授3、准教授3、助教7となっている。

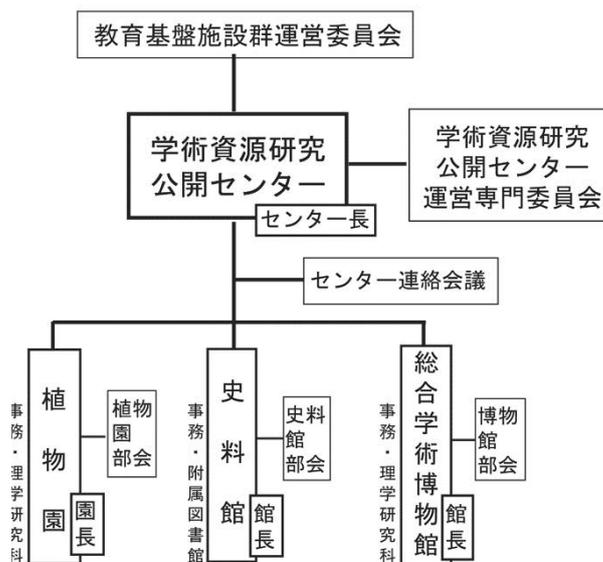
2. 設立趣旨

東北大学には、開学以来の「研究第一主義」の理念の下で生み出された、多くの新発見・発明の歴史があり、それらの研究の基礎となり、成果となった資料・標本・機器類の莫大な蓄積がある。総合学術博物館、史料館、植物園は、附属図書館などとともに、東北大学の学術研究・教育を支援し、大学の生命基盤ともいふべき、図書、情報技術、学術資料および史料などを運用する東北大学の共同教育研究施設の一部として、これらの貴重な資料・標本等の保管、植物園の敷地内に生育する生物資源の保全を行い、未来に継承するとともに、新たな研究・教育資源として活用できる環境を構築する責務を負ってきた。しかし、それらは財政基盤、施設、人員の配置のいずれもが規模が小さく、事業を行う上で責務を果たせる環境が十分に整っていなかった。そこで、業務性格に類似性のあるこれら3施設を統合して運営の合理化、業務ノウハウの共有化、資料標本等の統合的保全・活用を図るとともに、大学内部局としての自立性を高めることにより、資料標本に基づく研究教育の学内中核拠点となり、大学の知の発信基地としての機能を果たすことを目的とする。さらに、「開かれた大学」の窓として、東北大学の研究教育の現状を公開するとともに、大学に蓄積された知的資源を展示や講演会等により一般公開し、社会に還元することとする。

3. 組織

学術資源研究公開センターは、教育基盤施設群に属し、その事業組織として、総合学術博物館、史料館、植物園をおく。学術資源研究公開センターの組織、人事、予算その他基本的運営に関する事項は運営専門委員会において審議・決定される。また、各業務組織の運営を円滑に行わせるため、各業務組織に部会を置く。組織構成は付図のとおりである。

東北大学学術資源研究公開センター
組織運営図



4. 組織化以降の活動

2005年4月の学術資源研究公開センター発足後のセンターとしての活動について、2010年度以降の内容も含めながら述べる。

(1) 組織の整備

① 「東北大学学術資源研究公開センター運営内規」の制定

2006年4月～6月に組織の整備についての検討を行い、学術資源研究公開センターの運営上必要な連絡および調整を行うとともに運営専門委員会の議題整理を行うため、センター連絡会議を置くこととした。同連絡会議は、センター長、総合学術博物館長、史料館長、植物園長、各業務組織の教員各1名および世話部局事務職員若干名から組織される。また、センター長候補者の選考、各業務組織の運営のための部会に関する規則、協力研究員および協力調査員に関する規則等についても検討し、これらを「東北大学学術資源研究公開センター運営内規」として定めた(2006年7月10日制定)。

② 教員組織新制度の導入および移行に関する方針の検討

教員組織新制度の導入および移行に関する学術資源研究公開センターの方針を決定するために、2006年7月に教員制度の検討WGを6名の教員により発足させた。その後WGによる討議と数次にわたる案の全教員による検討をへて、2007年2月に最終案を決定した。

学術資源研究公開センターは、東北大学が所蔵する学術資料、標本、生物資源や歴史的公文書等の継続的収集・保管、研究を行い、これらを学内外の教育研究に資するばかりでなく、それらの成果等を広く一般に公開して社会教育の振興に寄与するまでを一体的に実現し得ることを目的として設置された学内共同教育研究施設である。この基本理念にたち、教員の職、および職務について決定した。新たに採用する助教については、学内外を問わず広く准教授、教授へつながるキャリアパスの第一段階に位置づけ、任期5年とする、ただし、その間の研究教育およびその他のセンター業務への貢献度などの実績を評価し、運営専門委員会の審議および議決により、再任可とすることとした。また、センター教員はそれぞれの専門分野を活かして大学院研究科・学部等の教育組織において協力講座担当・兼務教員あるいは協力教員等として参加できるものとした。

③ ホームページ・データベースの統合に関する検討

学術資源研究公開センターの業務の段階的統合、広報体制の強化のため、各業務組織において独自に設置されていたホームページ・データベースの統合を進めた。

④ 自己評価委員会の設置と評価作業

学術資源研究公開センターの業務の評価を行うために、平成25年度第1回学術資源研究公開センター運営専門委員会(2013年8月7日)において、2010～2012までの年次報告書等をもとに、自己評価報告書を作成すること、および外部評価準備委員会(自己評価委員会:総合学術博物館3名、史料2名、植物園2名の委員)を設け、同委員会が自己評価報告書についても作成することとした。同委員会はおよそ半年にわたり協議と資料整理にあたり、2014年1月に自己評価報告書(本報告)を作成した。

(2) 学術資源研究公開センターの活動

当センターの主要業務である資料の管理公開および教育研究等にかかる具体的状況については、業務組織である3施設が行っている。

(3) 学内競争的資金(総長裁量経費)の申請と獲得

「学術資源研究公開センター公開事業に関わる経費」として、本年度は16,000千円の配分を受け、学術財産の保管、学術資源化を図るためのデータベース構築とともに、その研究成果を広く学内外に公開し、社会に還元するための、学術資源研究公開センターが行うべき基本的事業である。

(4) 図書館の業務に対する指導・支援

学術資源研究公開センターに所属する、情報シナジーセンターから異動の教員3名は東北大学附属図書館協力研究員として活動してきたが、その活動はセンター異動後も継続してい

- る。主な活動は以下の通り。
- ・貴重図書選定・保存修復・目録データベース関連の委員，選定業務・目録作成等
 - ・図書館所蔵資料の展示関連事業への協力

(5) センター運営専門委員会

第1回

日時：平成26年7月1日（火）16時00分から17時11分

場所：植物園 1階 講義室

議事：

1. 平成25年度事業報告及び決算（案）
各業務組織の長及び所属委員から事業報告及び決算について説明がなされ，これを承認した。
2. 平成26年度事業計画及び予算（案）
各業務組織の長及び所属委員から次年度事業計画及び予算について説明がなされ，これを承認した。
3. 教員人事について
 - ①議長から，下記教員の辞職について説明があり，これを承認した。
総合学術博物館 助教 佐藤 慎一（平成26.7.31付け辞職予定）
静岡大学理学部准教授に採用のため

②総合学術博物館の教授及び助教選考に係る人事選考委員会の設置

議長から，総合学術博物館 柳田 俊雄 教授の平成27年3月31日付け定年退職及び佐藤慎一助教の平成26年7月31日付け辞職に伴う後任人事を進めるため，教授及び助教に係る人事選考委員会を設置し，申し合せの3. 1)に規定する委員，それぞれ3名を投票により選出したい旨の提案があり，これを承認した。なお，申し合せ3. 2)の委員それぞれ2名については，総合学術博物館部会において既に選出済みである旨付言があった。

続いて，それぞれ人事選考委員の投票を行い各々3名選出し，部会選出の委員と併せ，以下のとおり決定した。

- ・総合学術博物館 教授 人事選考委員会委員
西 弘嗣（運営委員会選出委員）
中静 透（運営委員会選出委員）
八鍬 友広（運営委員会選出委員）
*次点は阿古島 香 委員
井龍 康文（部会選出）
柳田 俊雄（部会選出）
- ・総合学術博物館 助教 人事選考委員会委員
西 弘嗣（運営委員会選出委員）
中静 透（運営委員会選出委員）
八鍬 友広（運営委員会選出委員）
*次点は佐々木 理委員
井龍 康文（部会選出）
柳田 俊雄（部会選出）

報告：

1. センター外部評価の実施報告について
2. 全学的基盤経費等について
3. 協力研究員の移植について
4. 旧青葉山ゴルフクラブ場の標本収蔵施設について（博物館）
5. 特定歴史公文書の収蔵施設について（史料館）

第2回

日時：平成26年12月11日（木）16時00分から16時46分

場所：植物園本館（1階）講義室

議題：

1. 平成26年度決算（案）について
各業務組織の長から、それぞれの平成26年度予算（案）について説明があった後、これを承認した。
2. 総合学術博物館の助教の任期に関する規定の変更について
議長から、「国立大学法人東北大学教員の任期に関する規定」の本センター助教に係る改定について提案がなされ、これを承認した。
3. 総合学術博物館の教授及び助教の人事について
 - ① 議長から、総合学術博物館の教授の任用について提案があった後、西人事選考委員長から、候補者である藤沢 敦氏の選考経過及び業績等について報告がなされ、投票により、これを承認した。
 - ② 議長から、総合学術博物館の助教の任用について提案があった後、西人事選考委員長から、候補者である黒柳 あずみ氏の選考経過及び業績等について報告がなされ、投票により、これを承認した。

報告：

1. 植物園内の枯損木・支障木対応について（博物館）
博物館副館長から、東日本大震災被災文化財等レスキュー事業等の被災地復興支援活動について報告がなされた。

(6) 各部会の活動

① 総合学術博物館部会

第1回

日時：平成26年6月11日（水）16時00分～17時15分

場所：理学部総合棟物理会議室743号室

議題：

1. 2013年度活動報告・決算書（案）について
委員長より、前回部会開催以降の活動報告及び決算書（案）について説明がなされ、これを承認した。
2. 2014年度活動方針（案）について
委員長より、活動方針（案）について説明がなされ、これを承認した。
なお、教員人事案件により部会開催日が前倒しとなったため、2014年度予算案については、後日メール審議を行う旨の説明があった。
3. 教員人事について
 - 1) 教員の異動について
委員長より、佐藤 慎一助教が平成26年8月1日付けで静岡大学理学研究科・准教授へ昇任について説明があった。
 - 2) 教員の後任人事について
委員長より、①退職教授後任、②助教後任選考について「学術資源研究公開センター教員選考に関する申し合せ」にもとづき実施する旨の説明があり、これを承認した。また、西委員より、退職教授が考古学専門であること、西はセンター長であること、委任状1件（委員長宛）は投票権を有することについて意見があり、これを了承した。その後、投票により部会推薦の選考委員2名を次のとおり選出した。
教授人事委員：柳田 俊雄・井龍 康文（次点・阿古島香）

助教人事委員：井龍 康文・柳田 俊雄（次点・佐々木理）

報 告：

1. センター外部評価実施について。
平成26年3月6日～7日，外部評価委員3名により，実施された旨の報告がなされた。
2. 全学的基盤経費について
平成26年度全学的基盤経費の配分について報告がなされた。
3. 旧青葉山ゴルフクラブ場の標本収蔵施設について
施設現状が非常に劣悪な環境であることが報告された。

第2回

日 時：平成27年2月13日（木） 16：30～17：15

場 所：理学部総合棟物理小会議室 743 号室

議 題：

1. 2014年度活動報告・決算見込みについて
委員長より説明がなされ，これを承認した。
2. 2015年度活動方針について
委員長より説明がなされ，これを承認した。
3. 総合学術博物館長の選考について
委員長より，「円た一規程」及び「平成18年7月10日付け，東北大学総合学術博物館長選考に関する申し合せ」について説明があり，これを了承した。
 - ① 博物館部会に委員5名からなる館長候補者推薦委員会を設ける。
 - ② 投票により，候補者推薦委員を次のように選出した。
井龍 康文・阿古島 香・掛川 武・柳田 俊雄・西 弘嗣
 - ③ 委員により推薦候補者を選定し，メール審議によって部会委員の承認を得て，候補者を選定することとした。

報 告：

4. 柳田 俊雄教授の名誉教授称号授与について
5. 総合学術博物館新営について
6. 第3回国連防災世界会議への取組みについて
7. 震災遺構に関する事業について（総長裁量経費）
8. 自然史標本館3階屋上防水工事の実施について
9. 委員の異動について

②史料館部会

第1回（平成26年6月25日（水））

場 所 文学部3階中会議室

出席者 八鍬委員長（館長），西尾（図・副館長），柳原（文），安達（文），
佐藤（災害），中川（高度教養），永田（史料館），曾根原（史料館）
大原（史料館）の各委員

欠席者 羽田（高度教養）

陪席者 加藤教育研究支援者（史料館），菊地附属図書館総務課総務係員

議 題 (1) 平成25年度事業報告および決算報告
(2) 学術資源研究公開センター外部評価について
(3) 史料館書庫（特定歴史公文書書庫）の問題について
(4) 平成26年度事業実施状況および予算について

第2回（平成27年2月24日（火））

場 所	附属図書館 1 号館 2 階小会議室
出席者	八鍬 議長（館長），西尾（図・副館長），安達（文），羽田（高度教養）， 中川（高度教養），永田（史料館），曾根原（史料館），大原（史料館）
欠席者	柳原（文），佐藤（災害研）
陪席者	加藤教育研究支援者（史料館），菊地附属図書館総務課総務係員
議題	(1) 平成 26 年度事業の実施状況について (2) 平成 27 年度事業計画について (3) その他

③植物園部会

2014 年度

第 1 回

平成 27 年 2 月 9 日（月） 9：00～9：49

植物園長室

出席者：中静委員長（生命）、
高橋（生命）、西谷（生命）、杉山（キャンパス）、藤澤（埋文）、牧（学術資源）、
米倉（学術資源）、大山（学術資源）の各委員

議題

1. 報告事項

(1) 平成 26 年度植物園の諸活動

大山委員から、資料 1 に基づき、平成 26 年度の植物園の活動報告について、および、
米倉委員から、資料 2 に基づき、八甲田分園の活動報告について報告があった。引き続
き、大山委員から、資料 3 に基づき、入園者数について報告があった。

(2) 平成 26 年度植物園予算及び執行状況

大山委員から、資料 4 に基づき、平成 26 年度決算（見込み）について報告があった。

2. 審議事項

(1) 平成 27 年度植物園の諸活動計画

大山委員から、資料 5 に基づき、平成 25 年度事業計画について説明があり、中静委員
長から諮り、これを承認した。

(2) 植物園長の選任について

中静委員長から、平成 27 年 3 月 31 日で現植物園長の任期満了に伴う次期植物園長候
補者を選考するため、「植物園長選考に関する申し合わせ」に基づき、植物園長候補者選
考委員会を設置したい旨の提案があり、これを承認した。
続いて、委員の選考を投票で行い、委員に牧、高橋、大山、西谷、杉山の各委員を選出し
た。

第 2 回

平成 27 年 2 月 9 日（月） 9：50～9：52

共通講義室

出席者：牧、高橋、大山、西谷、杉山の各委員

議題

1. 審議事項

(1) 委員長の選出

委員の互選により、牧委員を推薦委員会委員長に選出した。

(2) 園長候補者の選出

審議の結果、中静委員を次期園長候補者として部会に推薦することとした。

5. 東北大学学術資源研究公開センター規程

第 1 章 総則

（趣旨）

第 1 条 この規程は、東北大学学術資源研究公開センター（以下「センター」という。）の組織及び運

営について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、標本、本学の歴史に関する資料その他の本学が所蔵する学術資料の収集及び保管、第8条に規定する植物園の敷地内に生育する生物資源の保全並びに学術資料及び生物資源に関する研究を行い、もって学内の教育研究に資するとともに、広く一般に公開して社会教育の振興に寄与することを目的とする。

第2章 職及び職員

(職及び職員)

第3条 センターに、次の職及び職員を置く。

センター長

教授

准教授

講師

助教

事務職員

技術職員

その他の職員

(センター長)

第4条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 センター長の選考は、東北大学教育基盤施設群運営委員会の議に基づき、総長が行う。

4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(協力研究員及び協力調査員)

第5条 第3条に規定するもののほか、センターに、協力研究員及び協力調査員を置くことができる。

2 協力研究員は、センターの業務のうち特定の事項について調査研究及び公開を行い、協力調査員は、センターの業務のうち特定の事項について調査等を行う。

3 協力研究員は本学の専任の教員以外の研究者等をもって、協力調査員は本学の事務職員又は技術職員をもって充てる。

4 協力研究員及び協力調査員は、第9条に規定する運営専門委員会の推薦に基づき、センター長が委嘱する。

5 協力研究員及び協力調査員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

第3章 業務組織

(総合学術博物館)

第6条 センターに、業務組織として、総合学術博物館を置く。

2 総合学術博物館は、学術標本の収集、公開等を行う。

3 総合学術博物館に、館長を置く。

4 館長は、総合学術博物館の業務を掌理する。

5 館長は、本学の専任の教授をもって充てる。

6 館長の選考は、第9条に規定する運営専門委員会の議に基づき、センター長が行う。

7 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(史料館)

第7条 センターに、業務組織として、史料館を置く。

2 史料館は、本学の歴史資料としての価値を有する資料の収集、公開等を行う。

3 史料館に、館長を置く。

4 館長は、史料館の業務を掌理する。

5 館長は、本学の専任の教授をもって充てる。

6 館長の選考は、第9条に規定する運営専門委員会の議に基づき、センター長が行う。

7 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(植物園)

第8条 センターに、業務組織として、植物園を置く。

2 植物園は、園内に自生する植物の保護及び栽培を行うとともに、植物標本の収集、公開等を行う。

3 植物園に、園長を置く。

4 園長は、植物園の業務を掌理する。

5 園長は、本学の専任の教授をもって充てる。

6 園長の選考は、次条に規定する運営専門委員会の議に基づき、センター長が行う。

7 園長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

8 植物園に、八甲田山分園を置く。

第4章 運営専門委員会

(運営専門委員会)

第9条 センターに、その組織、人事、予算その他運営に関する事項を審議するため、運営専門委員会を置く。

(運営専門委員会の組織)

第10条 運営専門委員会は、委員長及び次に掲げる委員をもって組織する。

一 総合学術博物館長、史料館長及び植物園長

二 各研究科、教育情報学研究所、各附属研究所、東北アジア研究センター及び高等教育開発推進センターの教授又は准教授 各1人

三 センターの専任の教授及び准教授

四 その他運営専門委員会が必要と認めた者 若干人

(委員長)

第11条 委員長は、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第10条第2号及び第4号に掲げる委員は、センター長が委嘱する。

(任期)

第13条 第10条第2号及び第4号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(部会)

第14条 運営専門委員会に、各業務組織の運営を円滑に行わせるため、部会を置く。

2 部会は、委員若干人をもって組織する。

第5章 雑則

(事務)

第15条 センターの事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程(平成16年規第151号)の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 次に掲げる規程は、廃止する。

一 東北大学総合学術博物館規程(平成10年規第44号)

二 東北大学植物園規程(平成17年規第94号)

三 東北大学史料館規程(平成12年規第156号)

3 この規程施行の際現に前項の規定による廃止前の東北大学総合学術博物館規程の規定により平成18年4月1日に総合学術博物館長に併任されるものとして選考された者は、この規程施行の日において第6条第6項の規定により選考されたものとみなす。

4 この規程施行の際現に第2項の規定による廃止前の東北大学史料館規程の規定により史料館長の任

にある者は、この規程施行の日において第7条第3項に定める史料館長となったものとみなし、その任期は、同条第7項の規定にかかわらず、平成18年11月5日までとする。この場合において、史料館長の選考の範囲及び方法については、同条第5項及び第6項の規定は、適用しない。

- 5 この規程施行の日の翌日以後最初に選考される史料館長の任期は、第7条第7項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。
- 6 この規程施行の際現に第2項の規定による廃止前の東北大学植物園規程の規定により植物園長の任にある者は、この規程施行の日において第8条第6項の規定により植物園長となったものとみなす。
(平成18年4月1日施行、平成19年2月20日一部改正)

6. 東北大学学術資源研究公開センター各種委員、教職員等名簿

学術資源研究公開センター運営専門委員会

委員長	学術資源研究公開センター長	教授	西 弘嗣
委員	総合学術博物館長	教授	井龍 康文
委員	史料館長	教授	八鍬 友広
委員	植物園長	教授	中静 透
委員	文学研究科	教授	阿子島 香
委員	教育学研究科	准教授	池尾 恭一
委員	法学研究科	准教授	金谷 吉成
委員	経済学研究科	准教授	室井 芳史
委員	理学研究科	教授	掛川 武
委員	医学系研究科	教授	北本 哲之
委員	歯学研究科	教授	高橋 信博
委員	薬学研究科	教授	稲田 利文
委員	工学研究科	教授	高村 仁
委員	農学研究科	教授	中井 裕
委員	国際文化研究科	准教授	吉田 栄人
委員	情報科学研究科	教授	坂口 茂
委員	生命科学研究科	教授	河田 雅圭
委員	環境科学研究科	教授	境田 清隆
委員	医工学研究科	教授	阿部 高明
委員	教育情報学研究部	教授	村木 英治
委員	金属材料研究所	教授	佐々木孝彦
委員	加齢医学研究所	准教授	井上健太郎
委員	流体科学研究所	教授	小原 拓
委員	電気通信研究所	教授	庭野 道夫
委員	多元物質科学研究所	教授	高桑 雄二
委員	災害科学国際研究所	教授	日野 亮太
委員	東北アジア研究センター	教授	千葉 聡
委員	高度教養教育・学生支援機構	教授	吉本 啓
委員	学術資源研究公開センター	教授	(西 弘嗣)
委員	学術資源研究公開センター	教授	柳田 俊雄
委員	学術資源研究公開センター	教授	牧 雅之
委員	学術資源研究公開センター	准教授	佐々木 理
委員	学術資源研究公開センター	准教授	長瀬 敏郎
委員	学術資源研究公開センター	准教授	高嶋 礼詩
委員	学術資源研究公開センター	准教授	永田 英明

総合学術博物館部会

部会長・博物館長	教授	井龍 康文
委員	教授	阿子島 香
委員	教授	掛川 武
委員	教授	箕浦 幸治

委員	東北アジア研究センター	教授	石渡 明
委員	文学研究科	教授	長岡 龍作
委員	医学系研究科	教授	上条 桂樹
委員	学術資源研究公開センター	教授	柳田 俊雄
委員	学術資源研究公開センター	教授	西 弘嗣
委員	学術資源研究公開センター	准教授	佐々木 理
委員	学術資源研究公開センター	准教授	長瀬 敏郎
委員	学術資源研究公開センター	准教授	高嶋 礼詩
委員	学術資源研究公開センター	助教	佐藤 慎一
委員	学術資源研究公開センター	助教	小川 知幸

総合学術博物館教職員

教授	柳田 俊雄	技術職員	根本 潤 (理学研究科)
教授	西 弘嗣	研究支援推進員	鹿納 晴尚
准教授	佐々木 理	事務職員	佐藤 孝志 (理学研究科)
准教授	長瀬 敏郎	非常勤職員	長谷川せい子
准教授	高嶋 礼詩	パート職員	遠藤賀津子
助教	佐藤 慎一	パート職員	草野康子
助教	小川 知幸	パート職員	高玉久美子

客員准教授	カミル・ザゴルシェック博士 (チェコ, 2013年8月~2013年9月)
客員准教授	ダヴィデ・バッシ博士 (イタリア, 2013年12月~2014年3月)
客員准教授	フレデリック・ブルーネ博士 (フランス, 2014年2月~2014年3月)

総合学術博物館兼務教員

文学研究科	教授	阿子島 香
文学研究科	教授	長岡 龍作
文学研究科	教授	今泉 隆雄
文学研究科	特任准教授	藤沢 敦
理学研究科	准教授	中森 亨
医学研究科	講師	笠原 紳
歯学研究科	助教	鈴木 敏彦
薬学研究科	教授	倉田祥一朗
国際文化研究科	教授	深澤 百合子
国際文化研究科	教授	鈴木 道男
情報科学研究科	教授	根元 義章
生命科学研究科	助教	鈴木 孝男
環境科学研究科	教授	境田 清隆
東北アジア研究センター	准教授	鹿野 秀一
理学研究科	技術職員	根本 潤

総合学術博物館協力研究員

東北大学名誉教授	森 啓
東北大学名誉教授	谷口 宏充
東北大学名誉教授	蟹澤 聰史
東北大学名誉教授	井原 聰
東北大学名誉教授	百々 幸雄
東北大学名誉教授	永廣 昌之
東北大学名誉教授	高柳 洋吉
山形大学名誉教授	山野井 徹
東北大学名誉教授	斎藤 常正
東北大学名誉教授	尾田 太良
東北大学名誉教授	吉田 武義

物質材料研究機構名誉フェロー	中沢 弘基
長崎大学名誉教授	東 幹夫
高野山大学教授	奥山 直司
岩手県立大学博物館学芸員	大石 雅之
国立科学博物館学芸員	坂上 和弘

史料館部会

委員長	八鍬 友広 (教育学研究科教授・史料館長)
委員	中島 康治 (電気通信研究所教授 学術資源センター運営専門委員)
	西尾 剛 (農学研究科教授 附属図書館副館長)
	柳原 敏昭 (文学研究科教授)
	安達 宏昭 (文学研究科教授)
	佐藤 大介 (災害科学国際研究所准教授)
	羽田 貴史 (高度教養教育・学生支援機構教授)
	永田 英明 (学術資源研究公開センター准教授)
	曾根原 理 (学術資源研究公開センター助教)
	大原 理恵 (学術資源研究公開センター助教)

職員等

館長	八鍬 友広 (公文書室長・記念資料室長)
准教授	永田 英明
助教	曾根原 理
助教	大原 理恵
教育研究支援者	加藤 諭 (公文書室)
再雇用職員	川村 秀子
事務補佐員	高橋 早苗
事務補佐員	小林 由里 (公文書室)

協力スタッフ

兼務教員	安達 宏昭 文学研究科准教授
	羽田 貴史 高度教養教育・学生支援機構教授
	中川 学 高度教養教育・学生支援機構講師
	串本 剛 高度教養教育・学生支援機構講師
	高橋 禎雄 高度教養教育・学生支援機構助教
協力研究員	吉葉 恭行 秋田高等工業専門学校教授
	伊藤 大介 岩沼市史編纂室
事務補佐員	小幡 圭祐 大学院文学研究科博士後期課程学生
	大谷 瞭介 大学院文学研究科博士前期課程学生
	王 陶陶 大学院文学研究科博士前期課程学生

植物園部会

部会長・植物園長	教授 中静 透
委員 農学研究科	准教授 伊藤 幸博
委員 生命科学研究科	教授 高橋 秀幸
委員 生命科学研究科	教授 西谷 和彦
委員 文学研究科	教授 阿子島 香
委員 キャンパス計画室	特任教授 杉山 丞
委員 埋文調査室	特任准教授 藤澤 敦
委員 学術資源研究公開センター	教授 牧 雅之
委員 学術資源研究公開センター	助教 米倉 浩司
委員 学術資源研究公開センター	助教 大山 幹成

植物園教職員

園長	中静 透 (生命科学研究科教授)
教授	牧 雅之
助教	大山幹成 (本園担当)

助教 米倉浩司 (八甲田山分園担当)
 技術職員 津久井孝博
 技術職員 関 正典
 技術職員 小倉 祐
 技術職員 大内 匠
 事務員 (事務補佐員) 千葉正治
 事務員 (事務補佐員) 鈴木亜弓
 臨時用務員 佐々木きみこ
 事務補佐員 (標本作製担当) 桜井順子

植物園兼務教員

生命科学研究科	教授	西谷 和彦
生命科学研究科	講師	横山 隆亮
生命科学研究科	教授	占部城太郎
生命科学研究科	教授	中静 透
生命科学研究科	教授	彦坂 幸毅
生命科学研究科	准教授	酒井 聡樹
環境科学研究科	教授	境田 清隆
農学研究科	教授	清和 研二
農学研究科	准教授	陶山 佳久
農学研究科	准教授	昆野 安彦
高度教養教育・学生支援機構	准教授	田嶋 玄一

植物園協力研究員

東北大学名誉教授 (理学研究科)	大橋 広好
東北大学名誉教授	鈴木三男
石巻専修大学理工学部教授	根本 智行
福島大学共生システム理工学類准教授	黒沢 高秀
東北大学元准教授	片岡 博尚

II. 総合学術博物館

1. 組織概要

(1) 沿革

東北大学は、理科大学として発足以来の研究教育の過程で蓄積されてきた、240万点をこえる学術資料標本を有している。1965年4月16日、これらの学術資料標本を統合的に管理することを目的として、学長を委員長とする総合研究資料館設置準備委員会が開設された。同年6月1日、総合研究資料館の設置に関する特定の事項の調査研究のため、専門委員会が設置され、総合研究資料館の設置予定場所を理学部キャンパス内（現自然史標本館敷地）とすることが決定された。1974年7月1日、医学部、理学部、文学部等の標本類を収蔵していた東北大学標本室（片平キャンパス旧化学棟）の運営に関し、標本室運営委員会が設置された。

1994年度概算要求において、理学部自然史標本館の設置が認可され、1995年10月3日に開館した。標本館は、理学部地球科学系の資料標本を収蔵し、常設展示を行っている。

1996年6月11日、評議会のもとに「東北大学総合研究博物館（仮称）設置構想検討委員会」が設置され、既存の施設を含む総合博物館構想について概算要求がおこなわれた。1998年4月9日、総合学術博物館の組織設置が認可され、教官8名：教授2名、助教授3名、助手2名、外国人客員教授1名と、事務官1名（理学部・理学研究科）、事務補佐員1名の構成で発足した。その後2004年4月の東北大学法人化の際の配置定員整理にともない、助手は1名となった。

2006年4月、東北大学が所蔵する学術資料・標本、東北大学の歴史に関する資料および植物園の敷地内に生育する生物資源の保全、新たな学術資源の収集等の業務や学術資料および生物資源に関する研究を総合的に行える組織体制をつくるために、総合学術博物館、植物園および史料館の3者が組織統合し、学術資源研究公開センターを発足させ、総合学術博物館は同センターの業務組織として位置づけられた。この組織統合と情報シナジーセンターの組織改編にともない、新たに全学卒定員助手3名がセンターの教員として配置され、そのうち1名が総合学術博物館所属となった。その結果、現在の総合学術博物館配置教員は、教授1名、准教授3名、助教2名、外国人客員教授1名である。

総合学術博物館は、博物館建物について新築計画にもとづき概算要求を行ってきたが、2007年の東北大学創立100周年を期に、現50周年記念講堂を総合学術博物館として改装する方針が2004年4月に提出された。しかしながら、記念講堂改築も実現に至らず、展示事業等については理学部自然史標本館を共用して運営し、現在に至っている。

(2) 目的

総合学術博物館は、附属図書館・史料館・植物園などとともに、東北大学の学術を支援し、その生命基盤ともいえるべき、図書・情報技術・学術資料および史料などを運営する東北大学の共同教育研究施設（アカデミック・サービス）の重要な一部として、これらの貴重な知的財産を管理・保存し、データベース化を図り、新たな知的資源として現在と未来に活用できる環境を構築するための研究教育施設である。また、新たな資料・標本の発掘・収集につとめ、資料・標本に基づく研究教育の学内中核拠点となり、大学の知の発信基地としての役割を果たす。

総合学術博物館は、図書館－史料館－植物園などとの連携を図り、「東北大学」についての初年次教育を行う場として機能するとともに、東北大学の学生・スタッフであることのアイデンティティーを涵養し、大学の一員として共に発展をめざす共通の精神的基盤を与える場となる。また、学内構成員や来訪者の「集いの空間」となることを目指す。さらに、「開かれた大学」の窓として、東北大学100年の研究教育の歴史や現在おこなわれている研究を公開するとともに、蓄積された知的財産を展示やインターネット、講演会等により一般公開し、社会に還元する。

(3) 活動方針

総合学術博物館は、東北大学がその研究教育活動を通じて蓄積してきた学術資源の継承・保全、データベース化、それらの学術財産としての活用および学内外への公開につとめる。具体的には、以下の諸事業を企画し、実施する。

- ① 東北大学所蔵の資料標本等の収蔵・管理・利用等に関わる諸規程を整備し、東北大学の各部局に分蔵されている資料標本等を一括収蔵・保管・展示するとともに、これらを学内・学外の研究者や大学院生・学生の研究・教育の資源として利用できる体制を作る。

- ② 新たな資料標本等の発掘・収集につとめるとともに、資料標本に基づく研究教育の学内拠点となることをめざす。また、資料標本類のデータベースを構築して、研究者に情報を提供し、かつ膨大なデータに基づく新たな研究を行う。
- ③ ギャラリー展示・常設展示・特別展示・企画展示などを企画し、実施するとともに、インターネット・ホームページの公開などを行い、東北大学の研究教育の歴史や現状、東北大学が所蔵する学術資料標本等を一般公開する。また、博物館紀要・ニュースレターの発行、各種講演会・講座・体験学習会などの事業を行い、「開かれた大学」の窓として研究成果の社会への還元を図り、社会教育・生涯教育に寄与する。

(4) 組織と運営

総合学術博物館（以下博物館）は、館長、研究部および事務室から組織される。博物館は学術資源研究公開センターの業務組織として、センター運営専門委員会の議による基本方針に従い、業務を行う。総合学術博物館の具体的運営については総合学術博物館部会が審議する。

総合学術博物館には、教授 2 名、准教授 3 名、助教 2 名および客員教授 1 名が配置されている。総合学術博物館の日常的業務運営は、博物館教職員からなる博物館会議が担当する。また、関連する分野の兼務教員をセンターに置き、これらとともに研究テーマや研究分野ごとの研究グループを組織し、資料標本等に基づく研究を行う。本学の専任の教員以外の研究者等からなる協力研究員、本学の事務職員又は技術職員からなる協力調査員の協力を得て、事業を推進する。

総合学術博物館事務室は、専任（理学研究科）およびパート事務員から構成され、博物館業務の円滑な遂行を図るための管理・運営事務および資料標本のデータベース作成業務などを担当する。

(5) 施設

① 理学部自然史標本館

理学研究科附属自然史標本館を共用して運営している。自然史標本館の総面積は 1,747m² で、うち収蔵室面積 742 m²、展示室面積 498 m² である。収蔵室にはおよそ 600,000 点の生物、古生物、鉱物、岩石標本および古地図資料が収蔵されている。年末年始と休館日（休日の翌日）を除き、通年開館している。

② 総合学術博物館仮収蔵施設

各部局管理の資料標本類および自然史標本館収蔵以外の、総合学術博物館管理の資料標本類は、他部局から借用したスペースに収蔵・保管されている。それらの概要は以下のとおりである。

資料標本	点数	収蔵場所	面積
金属学・金属工学資料標本	約5,000点	理学部機械室	60 m ²
岩石・古生物・動物標本, 考古資料標本	28,500点	総合学術博物館三神峯標本収蔵室（プレハブ）	260 m ²
岩石・古生物・動物標本, 考古資料標本 + 金属学関係書籍	約19,000点 + 5,000冊	総合学術博物館片平標本収蔵室（多元物質科学研究所）	約200 m ²
計	約42,500点 + 5,000冊		約520 m ²

2. 活動概要

(1) 資料標本等収蔵関連事業（収蔵・データベース）

博物館は、自然史標本館に保管されている自然史関係（生物標本、古生物標本、鉱物標本、岩石標本、古地図など）の資料標本約 60 万点と、学内数カ所の借用スペースに保管されている約 15 万点の整理（データベースの作成を含む）、管理、貸出、展示に関わる、情報関連設備整備事業、収蔵資料標本登録事業、収蔵資料標本情報公開事業、収蔵関連設備整備事業の各事業を実施した。それらの概要は以下の通りである。

① 仮収蔵場所確保と標本移転

三神峯収蔵庫の復帰

三神峯キャンパスの収蔵庫については、電子光理学研究センター研究棟の改築工事のために研究スペースとして提供していたが、工事の完了に伴い、2014年8月21日に同キャンパス内の旧廃液物貯蔵庫に一時収蔵していた古生物標本・岩石標本・骨格標本等を戻し、元通りに利用できるようになった。

未登録標本の移転

自然史標本館に収蔵されている未登録の古生物・現生標本のうち約400箱（運搬箱）を旧青葉山ゴルフ場クラブハウス内の収蔵室に移転した。これにより新規登録標本ないし受け入れ標本等の保管場所を確保した。

② 資料標本の受入・収蔵（新規登録番号 111420～111507 の発行および移管等：資料標本件数；瓶は液浸ガラス瓶個数，箱は運搬箱個数）

- ・ 陸前高田産ペルム紀アンモナイト1点，腕足類新種化石20点，南三陸産三疊紀新種甲殻類化石57点，帝釈石灰岩産直角石8点，南三陸産アンモナイト2点
- ・ 的場保望氏研究の有孔虫標本一式（寄贈）
- ・ ガラス製放散虫模型2点（制作）
- ・ アメリカ産始生代および原生代岩石21点（寄贈）
- ・ 岩手県山田町津波堆積物剥ぎ取り標本2点（寄贈）

③ 資料標本等の学外からの利用件数

- ・ 古生物及び地球科学標本：33件
 - ・ 考古学資料：4件
 - ・ 人類学標本：4件
 - ・ 生物学標本：7件
 - ・ 金属学資料：3件
 - ・ 河口慧海資料：2件
- 計53件（2014.2.19～2015.3.31）

④ 標本管理データベース入力作業

- ・ 標本整理及び保管場所データ入力作業
青木コレクションのデータベース化
標本館に収蔵されている青木謙一郎名誉教授研究試料（マントルゼノリスならびに関連する岩石試料）について吉田武義協力研究員とともにデータベース化作業を進めた。
- ・ 未登録標本の内容確認作業
自然史標本館に収蔵されている未登録の古生物・現生標本の内容確認作業を進めた。約1100箱（運搬箱）について終了。

⑤ 収蔵資料標本情報（データベース）公開事業

- ・ 二枚貝類画像データベース公開事業
2013年9月に仮公開を開始した現生・化石二枚貝類標本のデータベースについて随時修正および追加作業を進めている。
- ・ 3D現生浮遊性有孔虫データベース構築
日本海洋研究開発機構と連携し，現生種，標本について3Dデジタル標本を作成しデータベース構築を進めた。

(2) 展示公開事業

常設展示の維持・更新のほか自然史標本館では小規模な企画展（ミニ展示）を開催した。総合学術博物館の開館に先立ち，東北大学が所蔵する貴重な資料標本類の学術コレクションを広く紹介する展覧会「東北大学総合学術博物館のすべて」を開催した。

① 自然史標本館に関連した活動

- ・『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2014』（7月20日）に地質学古生物学教室歴代教授標本展を「みちのく博物楽団」が開催した。
- ・神奈川県小田原市中高生「東日本大震災スタディツアー」が来館し、3D デジタルアーカイブを体験した（7月26日）。
- ・オープンキャンパス（7月30日～31日）の無料開放を実施した。
- ・開館記念日（10月3日）の無料開放を実施した。
- ・ホームカミングデー（10月11日）の標本館無料開放を実施した。
- ・常設展スタンプラリーを制作し、実施した。
- ・ミュージアム缶バッチの販売を実施した。
- ・理学部広報の依頼により「みちのく博物楽団」による展示案内を実施した。
- ・総合学術博物館・理学部自然史標本館入館者数（2014年4月～2015年3月）11,842名（内訳：大人：8,431名、小人：3,411名、パスポート入館者：1,018名）。

入館者数

有 料 者 数				無 料 者 数		合 計		
個 人		団 体						
大人	小 人	大人	小 人	大 人	小 人	大 人	小 人	計
5,050	1,180	66	129	3,315	2,102	8,431	3,411	11,842

入館料収入

有 料 者 数				合 計
個 人		団 体		
大人	小 人	大人	小 人	計
757,500	94,400	7,920	7,740	867,560

② ミニ展示（自然史標本館）

「復興 南三陸町・歌津魚竜館 ー世界最古の魚竜のふるさと」

③ 特別展・企画展等

- ・企画展「北川隆司鉱物コレクション展-教授を魅了した大地の結晶-

主催：東北大学総合学術博物館 共催：日本鉱物科学会・日本粘土学会、日本結晶学会

協力：国立科学博物館

内容：鉱物学専門の故北川隆司教授（広島大学）が生涯にわたって収集した個人鉱物コレクション約2,000点の中から、鮮やかな色や整った形を示す結晶など、自然の造形のすばらしさを感じることができる標本200点を選び展示した。

会場：東北大学理学部自然史標本館

期間：2014年3月1日から2014年4月12日

- ・国連防災世界会議関連行事

スミソニアン自然史博物館・東北大学共同企画「Unintended Journey (余儀なき旅路 被災地からの物語)」

会期：2015.3.14～3.18 会場：東北大学百周年記念会館展示ギャラリー

3D デジタル震災遺構アーカイブ体験展示

会期：2015.3.14～3.18 会場：東北大学百周年記念会館会議室倉庫

特別展「未来へと語り伝える大震災の記録」

会期：2015.3.14～3.18 会場：東北大学理学部自然史標本館展示室

④ 仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）等の地域連携

他博物館等の依頼により、展示企画等への助言や展示資料標本の貸出、展示会の共催などの事

業も行っている。

- ・ SMMA 実行委員会委員・運営委員会委員
- ・ SMMA クロスイベント「みんなでどろんこ！生きもの観察 in 地底の森」（総合学術博物館と地底の森ミュージアムによる企画）（2014年7月13・27日，9月15日実施）。
- ・ 仙台市生涯教育課、仙台市市民文化事業団に対応（2014年6月，7月）
- ・ NPO 法人 natural science による「学都仙台宮城サイエンス・デイ 2014」への参加，みちのく博物楽団による標本館展示（2014年7月20日）・サイエンス・デイ AWARD（7月25日）。
- ・ SMMA ミュージアムユニバース
参加在仙12館のミュージアムが集結する年一度の標記イベントにみちのく博物楽団とともに参加。内容：トークとイベント①「古代ローマのふしぎ～パクス・ロマーナ～」②「ミュージアムっておもしろい～大学生の活動紹介」③体験「フィールド顕微鏡でみる小さな世界」（協力：向井康夫助教）展示①「南三陸で採集されたアンモナイトなどの化石」展示②「みちのく博物楽団活動紹介」
会場：せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア
会期：2014年12月19日～20日（来場者数：1,768名）
- ・ 第3回国連防災世界会議における SMMA 展示，「旬の見験楽学便」，「新年度リーフレット」，および外国人向けパンフレット制作協力。

3. 教育・教育支援・普及教育事業

総合学術博物館は、学術資料・標本をあつかう教育・研究の拠点として、各部局と連携を図り、自然・人間・社会に関する広範な分野の研究教育をめざしている。活発な知の創造の拠点として、学術資料標本の学術的価値ならびにそれをあつかう知の継承と普及の拠点として、広い視野と高い専門性をもち行動力のある指導的人材の育成をめざしている。総合学術博物館は、東北大学でおこなわれる全学教育ならびに専門教育を学内教育共同研究施設として支援するために、多分野にわたる資料標本を展示のかたちで提供し、大学人としての幅広い教養の修得に貢献する。初年次教育の一環としての、博物館に収蔵されている学術資料標本などを通して東北大学における研究の成果にふれさせる講義や実習を支援し、学生の知的好奇心の拡大を図っている。また、他大学の博物館学実習等の教育支援も行なう。また、博物館教員はそれぞれの専門分野に応じて、関係する学部・大学院研究科の教育にたずさわっている。

(1) 学内教育への貢献

総合学術博物館所属教員（教授 2，准教授 3，助教 2）は全学教育や協力部局での専門教育，大学院教育に参加し，学内教育に貢献している。

① 学内教育への参加（担当延べ授業数：分担も1コマとして扱う）

全学教育科目		専門教育科目		大学院科目		他大学	計
講義	実習・課題 研究等	講義	実習・課題 研究等	講義	実習・課題 研究等		
3	0	9	11	6	3	0	33

② 学位審査等

卒業論文指導	修士学位審査			博士学位審査		
	主査	副査	最終試験 委員	主査	副査	最終試験 委員
6	4	10	30	1	1	1

(2) 学内教育・学外教育との連携 授業・実習等での博物館（自然史標本館）の利用

総合学術博物館（理学部自然史標本館）の常設展示は，学内の諸授業や県内・県外の小中高等学校および大学での授業の一環として，また，社会学級，子供会，教員の研修その他の活動の一環とし

て利用されている。

① 学内教育との連携 授業・実習等での博物館（自然史標本館）の利用

	講義での利用回数		実習・演習等での利用回数		その他	備考
	全学教育科目	専門教育科目	全学教育科目	専門教育科目		
2014年度	0	1	3	1	5	進化古生物学, 博物館学 I, II, グローバル安全学, 動物資源利用学等

② 学外機関の授業・実習等での博物館（自然史標本館）の利用

	オープンユニバーシティ	他大学授業等	高等学校・専門学校	中学校	小学校	その他（社会教育等）	計
利用回数（延べ人数）	7 (1,453)	6 (123)	3 (84)	61 (632)	45 (916)	8 (477)	144 (3,680)
地域等		宮教大, 山形大	県内, 福島	県内, 山形, 福島, 岩手, 北海道	県内, 秋田, 岩手, 山形, 青森		

② 大学博物館体験活動（公開活動後援）

かたちのふしぎ研究グループ主催による子ども夢基金「南三陸フィールドミュージアム」を東日本大震災による被災博物館の支援として9月20日・21日に南三陸町平成の森周辺を会場に実施した。

(3) 広報その他

常設展および企画展, 普及講演会, 普及事業等の広報のために, 総合学術博物館のホームページを制作・更新するとともに, ニュースレター等の印刷物制作と配布および新聞等への掲載依頼を積極的に行い, 活動の広報につとめている。

① ホームページ

- ・ 博物館（自然史標本館）ホームページ更新（2件）
- ・ 博物館ホームページアクセス数 202,264件（2014.4.1～2015.3.31）
- ・ 博物館標本データベースアクセス数 151,788件（トップページ: 96,224 デジタル標本: 13,575 チベット民俗: 5,906 河口恵海: 1,070 金属: 3,848 考古: 6,948 鉱物: 2,759 冬虫夏草: 8,858 植物: 651 有孔虫: 11,949）

② ニュースレター「Omnividens」（オムニヴィデンス）の発行

- ・ No.46（2014年11月発行）「ミュージアムを大学を中心にする」（於愛媛大学第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会参加の記）, 「北川隆司鉱物コレクション展—教授を魅了した大地の結晶—を開催」, 「みんなでどろんこ! 生きもの観察 in 地底の森を開催」, 「サイエンス・デイ 2014 参加」, 「新館長ごあいさつ」, 「離任のごあいさつ」, 「学生スタッフの博物館」, 「2015年3月に開催される国連防災世界会議に向けての取り組み」他。
- ・ No.47（2014年3月発行）「ミュージアムユニバース参加報告」, 「トークレビュー」, 「博物館実習報告」, 「南三陸フィールドミュージアムの構想」, 「博物館の魅力—二枚貝類化石標本データベース」, 「ふくしま震災遺産保存プロジェクトへの協力」他。

4. 研究活動の概要

総合学術博物館は、研究資料としての新たな資料標本等の発掘・収集につとめるとともに、資料標本にもとづく研究教育の学内拠点となることをめざしている。また、資料標本類のデータベースを構築して、研究者に情報を提供し、かつ膨大なデータにもとづく新たな研究を行う。その主要な目標は以下の通り。

- ・ 東北大学所蔵の貴重な学術資料標本等を集中的に保管し、これらを学内外の研究者が研究資源として有効に利用できる体制を作る。
- ・ 学内外の研究者・大学院生による、博物館収蔵資料標本および設備機器を使用した研究活動を支援する。
- ・ 収蔵資料・標本にもとづく基礎的研究を奨励し、学術資料標本のさらなる資源化を図るための方策を講ずる。
- ・ 豊富な原資料標本の詳細な記載にもとづく「かたち」の多面的研究を積極的に推進する。

(1) 学会及び教育活動

① 第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会への参加。

会期：2014年6月19日～20日

会場：愛媛大学情報メディアセンター（城北キャンパス）

口頭発表「東北大学総合学術博物館のすべて XIII「考古学からの挑戦」発案から実施まで」
ポスター発表「在仙 12 館のミュージアムによる知的情報資源の共有と地域への還元—SMMA（仙台・宮城ミュージアムアライアンス）と「みちのく博物楽団」」、②「新学芸員養成課程博物館実習としての被災ミュージアム復興支援活動」、③「東日本大震災3次元クラウドデータアーカイブ構築公開事業」

② Micropaleontological Reference Center への活動協力

- ・ J-DESC コアスクール・微化石コース（第7回）を8月3日～5日にかけて東北大学理学部地学棟において開催し、浮遊性有孔虫化石の講義・実習を行った。
- ・ MRC 研究集会を2014年3月1日～3日にかけて開催した。

(2) 博物館紀要

総合学術博物館では、所属教員や外国人客員教授および総合学術博物館兼務教員の資料標本等に関する研究成果を公表するために、総合学術博物館研究紀要（Bulletin of the Tohoku University Museum）を刊行している。

東北大学総合学術博物館研究紀要第14号の刊行について

投稿論文：

Early Permian (Asselian) orthoconic cephalopods from the Taishaku Limestone, Akiyoshi Belt, Southwest Japan pp.1～4

SHUJI NIKO, MASAYUKI EHIRO, OSAMU NISHIKAWA and ISAO NISHIKAWA

九州地方における洞穴遺跡の研究—長崎県福井洞穴第三次発掘調査報告書— pp.5～190

東北大学大学院文学研究科考古学研究室 東北大学総合学術博物館

福井洞穴第2次、第3次発掘の意義と調査方法について pp.191～200

大塚和義・鹿又喜隆

群馬県鶴ヶ谷東遺跡発掘調査の研究報告—日本前期旧石器時代の研究— pp.201～276

柳田俊雄（東北大学総合学術博物館）阿子島香（東北大学大学院文学研究科）

2015年3月26日頃発行（278ページ）

(3) デジタル工房／マイクロトモグラフィセンター

学内共同利用設備として学内5部局及び学外11研究教育組織と連携し、卒業論文、修士論文、博士論文の支援および指導、海洋酸性化・古生物学・火山岩石学・岩石破壊学・考古学・生物学など自然史科学に加え、医工連携など多様なテーマについて共同研究を実施した。また、民間企業との共同研究によるCT技術開発を進めたほか、進化古生物学（理学部）・博物館実習I（理学部）、集中講義（文学部）など学生教育に積極的に活用した。

- ・ 学内共同研究

理学研究科地球惑星物質科学科（火山岩等101件）

理学研究科地圏環境科学科（断層破碎岩32件・津波堆積岩10件・ストロマトライト9件）

- 文学研究科（土偶等 8 件）
- 附属植物園（考古資料等 11 件）
- 総合学術博物館（三葉虫 2 件・節足動物 6 件・テラコセファラ類 2 件・大沢層コア 23 件）
- 流体科学研究所（血管モデル等 29 件）
- ・ 学外共同研究
 - 日本海洋研究開発機構（浮遊性有孔虫 207 件・翼足類等 100 件・貝類 21 件）
 - 日本海洋研究開発機構（海綿動物 2 件）
 - 日本海洋研究開発機構（カイアシ類 4 件）
 - 東京大学／北西大学（中国）（胚化石等 12 件）
 - 北海道大学総合博物館（恐竜病変骨 6 件・恐竜胃石 4 件）
 - 弘前大学人文学部（土偶等 26 件）
 - 東京大学理学系研究科（コノドント 6 件）
 - 名古屋大学理学研究科（虫食い栗 10 件）
 - 神戸大学農学部（クモヒメハチ 1 件）
 - 神奈川大学理学部（ウミウシ類 5 件）
 - 琉球大学理学部（サンゴ骨格 1 件）
 - スミソニアン自然史博物館（微化石 6 件）
 - 宮城県多賀城市教育委員会（古銭 5 件）、宮城県山元町教育委員会（青銅鏡 1 件）
 - 産学協同等その他（コムスキャン 8 件）

(4) 図書館の業務に対する指導・支援

博物館に所属する、情報シナジーセンターから異動の教員は附属図書館協力研究員として活動してきたが、その活動はセンター異動後も継続している。主な活動は以下の通り。

小川知幸助教が行った附属図書館関係業務は以下の通り。

1. 貴重図書等委員会委員（2014年5月、6月、9月、2015年2月開催）。
2. ミュンスターベルク文庫照会・調査にかかる業務（2014年6月）。
3. 附属図書館協力研究員への助言と指導（2014年4月～）。
4. 狩野文庫蘭書の県重文指定への取組みにかんする照会対応（2014年5月）
5. 柳瀬文庫の保存にかんする助言（2014年5月）
6. 北青葉山分館特別閲覧室蔵書にかんする照会対応（2014年7月）
7. E・チーテルマン宛て書簡解読と解説（2014年9月～）
8. 附属図書館リニューアル記念展資料の監修・解題執筆（2014年9月～10月）
9. 電気通信研究所図書室・抜山文庫保存修復にかんする助言（2014年12月）
10. 第3回国連防災世界会議記念展示（於附属図書館本館）および展覧目録の監修（2015年1月～）
11. 附属図書館貴重図書パンフレット監修（2015年1月）
12. 東北大学附属図書館職員総合研修会講師（2015年2月）

(5) 教員及び協力研究員による研究活動

総合学術博物館所属教員（教授2名、准教授3名、助教2名）は、それぞれの研究分野において協力講座（理学研究科地学専攻自然史科学講座）、協力教員（文学研究科）として研究活動に加わっている。また、国内外での調査にもとづき、資料標本に関する研究を行い、学会等において積極的に発表するとともに、その成果を学会誌等に投稿・公表し、関連分野の科学的発展に貢献している。また、学会役員、学会誌編集委員や査読委員として、関連する学会活動に貢献している。これらの研究活動を遂行するために、科学研究費助成金や財団・民間等の競争的資金に積極的に応募している。

① 学術論文等（論文、著書、その他）（共著含む）

著書（分担執筆含む）	論文			報告書、その他	書評	計
	査読あり	査読なし	計			
0	21	0	21	11	0	22

② 学会講演（共同発表含む）

国際学会			国内学会			総計
招待	一般	小計	招待	一般	小計	
0	11	11	0	48	48	59

③ 国際研究集会への参加・海外渡航等

国際研究集会への参加	海外渡航(学術調査等)	計
0	0	0

④ 学会役員・編集委員・学外委員等

国内学会役員	国際研究組織委員	学会誌等編集委員	学外委員	研究集会・シンポジウムの組織委
10件	1件	1件	8件	4件

⑤ 研究資金受託状況

科学研究費受託状況

科学研究費助成金件数（当該年度補助金：千円）						計	
基盤 S	基盤 A	基盤 B	基盤 C		挑戦萌芽	代表	分担
分担	代表	代表	代表	分担	分担		
1 (260)	1 (4,940)	1 (4,420)	2 (2,860)	3 (585)	1 (520)	4 (13,325)	5 (1,365)

財団・民間等研究助成金，共同研究件数（該当年度補助金総額）

委託研究，財団・民間等研究助成金	共同研究	計
4 (2,270)	1 (2,794)	5 (5,064)
独立行政法人海洋研究開発機構，高知大学，カメイ社会教育振興財団，斉藤報恩会	コムスキャンテクノ	

⑥ 外国人客員教員の研究活動

博物館に外国人客員教授を招聘し，東北大学所蔵標本に関する研究や博物館教員との共同研究を行っている。招聘の客員教授とその研究テーマは以下のとおりである。

- ・ デウイット・ノリス教授

西 弘嗣教授と共に，ODPコアを用いて暁新世～始新世の浮遊性有孔虫群集の変化を明らかにした。

⑦ 協力研究員との連携教育・研究活動

- ・ 吉田武義東北大学名誉教授と連携し，青木岩石コレクションの整理をおこなった。
- ・ 東幹夫長崎大学名誉教授と連携し，長崎県諫早湾の調査研究を行った。
- ・ 永広昌之東北大学名誉教授と連携し，博物館実習Ⅰ（3 Semester）を実施した。南三陸町において被災ミュージアム支援活動として古生物調査および論文出版，普及活動「南三陸ワールドミュージアム」，南三陸町「ふるさと学習会」を実施した。
- ・ 長谷川四郎熊本大学名誉教授と連携し，浅野名誉教授・底生有孔虫コレクションの整理を進めた。

⑧ 研究機関等との連携構築

- ・ 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所での共同利用研究への参加。
- ・ 2014年6月1～6日 国立科学博物館と小笠原諸島の岩石鉱物を共同調査した。
- ・ 2014年7月12～15日 国立科学博物館と青森県奥戸鉱山の鉱物を共同調査した。

5. その他大学運営に関する活動等

博物館教員は、東北大学の広報や運営、他部局の運営等についても、各種委員会委員として貢献している。

- ・ 情報シナジー機構情報システム利用連絡会議委員
- ・ 埋蔵文化財調査研究センター運営委員会、同専門委員会委員
- ・ 青葉山キャンパス整備委員会委員
- ・ 青葉山北キャンパス WG 委員
- ・ 広報連絡会議委員
- ・ 理学部開講 100 周年事業準備委員会
- ・ 理学部安全委員会委員
- ・ 附属図書館協力研究員
- ・ 附属図書館貴重図書等委員会委員
- ・ 附属図書館古典資料等修復保存小委員会委員

6) 東日本大震災文化財等レスキュー事業等の被災地復興支援活動

博物館は、震災直後から被災ミュージアム支援と震災遺構アーカイブ構築に重点を置いた被災地復興支援を実施している。本年度は以下の事業を実施した。

① 被災ミュージアム復興支援活動

- ・ 宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営に幹事館として協力した。
- ・ 東日本大震災により被災した国指定天然記念物の復興事業に協力した。
- ・ 被災ミュージアム支援活動として、南三陸町において「博物館実習 I」の野外実習および普及活動「南三陸町フィールドミュージアム」を実施し、南三陸町小学校行事「ふるさと学習会」（10月7日）に協力した。また、南三陸町教育委員会と共同で歌津館浜地区周辺において「日本最古の軟甲綱化石、および日本最初のティラコセファラ類化石」等の調査を実施した。

② 東日本大震災・震災遺構 3次元ポイントクラウドデータアーカイブ構築事業

- ・ 全学的基盤経費および総長裁量経費による支援を受けて、以下の震災遺構等の 3次元レーザー測量等を実施し、アジア航測 2011年4月測量データ整形等を行った。
- ・ 宮城県南三陸町防災対策庁舎（10月28日）、宮城県東松島市野蒜駅跡（10月29日）、福島県富岡町富岡駅（2015年1月6～7日）、福島県富岡町子安観音・浪江町請戸漁港および漁協建屋（2月中旬）。
- ・ 標本館展示室において MR 設備による震災遺構の 3次元可視化デモンストレーションを 13回（小田原市スタディツアー・福島県博職員・ノーベル博物館館長・極地研職員・浪江町町長、報道取材、授業等）実施したほか、神奈川県立「生命の星・地球博物館」で開催されたシンポジウム、本学災害科学国際研究所落成式（11月10日）においてデモンストレーションを実施した。
- ・ 国連防災国際会議（2015年3月14～18日）の関連行事として「3D デジタル震災遺構アーカイブ体験展示」と特別展「未来へと語り伝える大震災の記録」を実施した。

③ その他の被災地復興支援活動

- ・ 宮城県の要請により宮城県気仙沼市唐桑下の台の縄文後期の遺跡において埋葬人骨の 3D撮影を実施した（2014年7月16日）。

III. 史料館

1. 組織概要

(1) 理念・目的と事業内容

東北大学史料館は、東北大学の歴史に関する資料の保存・公開をおこなう、東北大学のアーカイブズ（Archives＝文書館・公文書館）である。

発足間もない 2001 年度に当時の史料館運営委員会でまとめられた『東北大学史料館の将来構想』では、21 世紀の東北大学のアーカイブズとして史料館が果たすべき基本的な役割が、以下の 4 点に整理し明示されている。

- 一、大学における歴史的情報を学内外に公開し、現代的情報を対象とする情報公開制度との両輪で「開かれた大学」という理念を実現する。
- 二、大学自身の歴史的资料を、長期的な見通しに立った大学改革・大学評価の基礎となる材料として活用し、大学の発展に貢献する。
- 三、収蔵資料を基礎にした大学史に関する研究活動を行い、これを基礎にした大学教育・社会教育活動を行うことで学術研究や地域文化の発展に貢献する。
- 四、アーカイブズそのものに関する研究・教育活動及びその支援を行い、公文書館等各地の資料保存機関で活躍する人材の育成に貢献する。

ここ示された理念の実現のために、史料館では本部事務機構以下の学内諸部局や関係分野の教員との連携のもと、以下の事業を継続的に実施している。

- 1) 学内諸部局に散在する大学公文書を保存期間満了後に歴史的価値評価に基づいて選別集約し、同時に本学の歴史に関する個人文書等の調査・収集を行うことで、東北大学の歴史資料として価値を有する様々な記録資料の集約と保存を図る。
- 2) 史料館に集積された資料を一般の閲覧利用に提供し、同時にそのための利用環境の整備（資料調査・整理および目録・データベースの作成公開）を図る。
- 3) 常設展示や企画展示など東北大学の歴史に関する展示活動や広報誌の発行等を通じて、東北大学の歴史に関する社会教育・普及活動を実施する。
- 4) 東北大学の歴史や資料保存・公開等に関する調査研究活動を実施し、同時にこれらを基礎にした教育活動を行う。

(2) 沿革

東北大学史料館は、昭和 38 年(1963)7 月にわが国初の大学アーカイブズ「東北大学記念資料室」として設置されて以後、半世紀近くにわたって活動を続けている。その沿革は以下のようにまとめられる。

①『東北大学五十年史』編纂事業と東北大学記念資料室の発足

東北大学では、昭和 35 年(1960)に『東北大学五十年史』の編纂刊行を終了したのち、編纂事業において調査・収集した資料の保存公開の必要が認識され、1963 年(昭和 38)7 月、「本学の歴史に係る記念となる資料を収集、保存するとともに、これを公開活用して、もって本学及び学術の発展に寄与する」ことを目的とする「東北大学記念資料室」が設置された。当時国内にはこうした大学アーカイブズの設置例はまだなかったが、欧米の大学ではアーカイブズが多く設置され始めており、こうした事例を参考にわが国初の「大学アーカイブズ」として発足した。

当初この記念資料室は附属図書館内に設けられ、職員もまた図書館業務を兼務するなど実質的には図書館と一体的なかたちで運営されていた。しかし 1986 年 10 月からは片平地区の旧附属図書館本館閲覧室を単独で使用し、教員についても専任の教員が配置され、実質的にも図書館業務と独立した組織として運営されるようになった。

②いわゆる「情報公開法」の施行と東北大学史料館への改組

平成 12 年(2000)12 月、「東北大学記念資料室」は「東北大学史料館」へと改組された。この「史料館」への転換は、国立大学法人化に向けた学内改組の動きのなかで従来の「記念資料室」のありかたについて再検討を進めた結果、(1)いわゆる「情報公開法」の施行に伴う保存期間を満了した歴史公文書の保存公開体制整備、(2)『東北大学百年史』編纂事業の伸展に伴う資料受入・保存公開体制のさらなる整備、(3)本学を代表する一般公開施設としての整備充実、といった観点から必要な改革としておこなわれたものであった。とくに(1)については、翌年 4 月より保存期間を満了した歴史公

文書の評価を史料館が担当することが学内で正式に制度化され、以後歴史公文書にかかる業務が大きな比率を占めるようになった。

なお平成 18 年(2006)4 月には、総合学術博物館・植物園・史料館を「業務組織」として傘下に置く「東北大学学術資源研究公開センター」が設置され、史料館は以後同センターの業務組織となった。その結果博物館等との連携も強めているが、一方で事務担当部局は従来通り附属図書館とされ、図書館との関係も維持されている。

③「公文書等の管理に関する法律」施行と史料館公文書室の発足

平成 23 年(2011)4 月、「公文書等の管理に関する法律」の施行に伴い、国の行政機関や独立行政法人等における公文書管理制度の大幅な見直しがおこなわれることとなった。東北大学においても同法に対応する形で「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」が制定されるとともに、従来から実施してきた歴史公文書の史料館への移管制度をふまえ、同法が「特定歴史公文書等」の保存公開施設として定める「国立公文書館等」に相当する施設として、史料館に新たに「公文書室」を設置することとなった。

公文書室は学術資源研究公開センター史料館の一部門である一方で、総長の指名する副学長又は理事が委員長をつとめる「東北大学公文書管理委員会」のもとで本学の歴史公文書の管理公開を担当する組織としても位置付けられるなど特別な位置づけとなっている。またこうした位置付けに対応し、公文書室関係の事務に関しては総務部総務課が担当している。

また公文書室の設置と同時に、個人からの寄贈資料やその他の大学史にかかる多様な歴史資料を「特定歴史公文書等」と区分して管理・公開するため、「公文書室」と並ぶ室として「記念資料室」を設置し、以後この 2 室(2 部門)体制で、本学の歴史に関する資料の保存と公開をおこなっている。

(3) 収集・所蔵資料

「公文書等の管理に関する法律」および「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」にもとづき保存期間を満了した東北大学の歴史公文書の移管を受けるとともに、教職員・卒業生はじめとする関係者の記録など大学の歴史を跡づける多様な資料を収集・保存し公開している。

史料館が収集・管理する資料の概要(平成 26 年度末現在)

区分	主な内容(公開中のもの)
東北大学の歴史公文書	6,428 冊
東北大学および各部局・学内各種組織が発行する刊行物(学術誌を除く)	約 12,000 シリーズ
東北大学関係者の個人・関連団体資料	57 資料群
東北大学の歴史に関する写真・動画資料	写真資料 5,960 点 動画資料 3 点
東北大学の歴史に関する物品資料・記念品等	看板, 教育用器具, 絵画, 印章, 衣服, 記念品等

(4) 組織・スタッフ

①スタッフ(2014 年度)

1) 職員

館長(公文書室長・記念資料室長)

教育学研究科教授 八 鋏 友 広

教員等

准教授 永田 英明

助教 曾根原 理

助教 大原 理恵

教育研究支援者(公文書室) 加藤 諭 ※協力研究員兼務

事務職員・アルバイト

再雇用職員 川村 秀子

事務補佐員 高橋 早苗

事務補佐員(公文書室) 小林 由理

事務補佐員 小幡 圭祐

事務補佐員 大谷 瞭介

事務補佐員 王 陶陶

2) 兼務教員

文学研究科教授	安達 宏昭
高度教養教育・学生支援機構教授	羽田 貴史
高度教養教育・学生支援機構講師	中川 学
高等教育開発推進センター講師	串本 剛
高度教養教育・学生支援機構助教	高橋 禎雄

3) 協力研究員

秋田高等工業専門学校教授	吉葉 恭行
岩沼市史編纂室	伊藤 大介

②組織

1) 資料管理・公開業務にかかる組織

「東北大学史料館」全体として本学の歴史に関する資料の管理公開に取り組むと共に、平成 23 年度より「特定歴史公文書等」の管理を担当する公文書室と、「歴史的資料等」の管理を担当する記念資料室の 2 室を設置し管理公開業務をおこなっている。

公文書室

保存期間を満了し移管された本学の歴史公文書、および公文書に準じる性格を有するその他の資料を含む「特定歴史公文書等」の保存・公開等をおこなう。「公文書等の管理に関する法律」第二条第 3 項第二号に定める「国立公文書館等」としての指定を受けた施設。

記念資料室

退職教員・卒業生その他の個人等からの寄贈資料を中心とする、東北大学の歴史に関する多様な資料の保存、公開等をおこなう。「公文書等の管理に関する法律」第二条第 5 項第三号に定める「歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料」を管理する施設としての指定を受けた施設。

2) 事務担当組織

史料館にかかる諸種の事務事項のうち、公文書室に特有の事務については総務部総務課が、それ以外の事務については附属図書館事務部がそれぞれ担当している。

(5) 関係委員会等

①学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会

「東北大学学術資源研究公開センター規程」第 14 条にもとづき、学術資源研究公開センター運営専門委員会の下に設置された、史料館の運営に係る専門的事項の審議をおこなう委員会。

2014 年度委員名簿

委員長	史料館長・教育学研究科教授	八楸 友広
委員	文学研究科教授	柳原 敏昭
委員	高度教養教育・学生支援機構教授	羽田 貴史
委員	文学研究科教授	安達 宏昭
委員	農学研究科教授・附属図書館副館長	西尾 剛
委員	災害科学国際研究所准教授	佐藤 大介
委員	高度教養教育・学生支援機構講師	中川 学
委員	学術資源研究公開センター史料館准教授	永田 英明
委員	学術資源研究公開センター史料館助教	曾根原 理
委員	学術資源研究公開センター史料館助教	大原 理恵

②東北大学公文書管理委員会

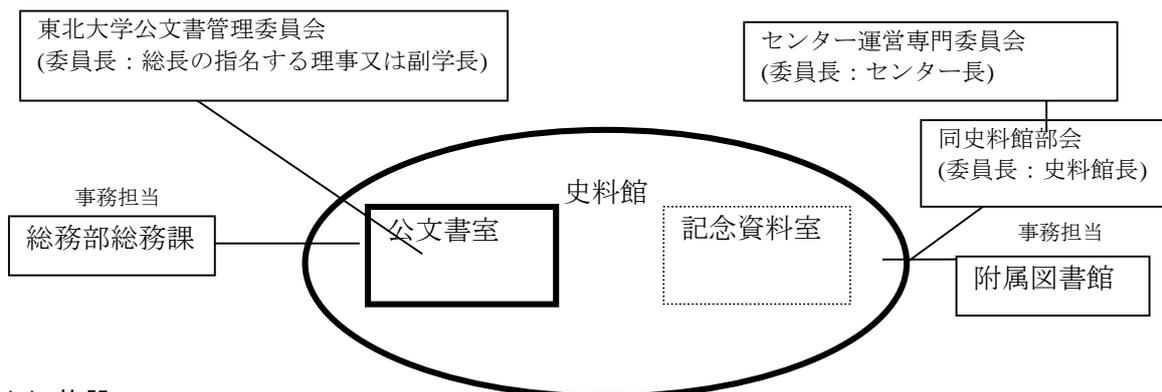
「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」第 8 条に基づき、本学の法人文書および「学術資源研

究公開センター史料館公文書室が保存する特定歴史公文書等」の管理に関する重要事項を審議する委員会。

2014 年度委員名簿

委員長	副学長	兵藤 英治
委員	法務・コンプライアンス部長	斎藤 仁
委員	史料館長・教育学研究科教授	八鍬 友広
委員	法務・コンプライアンス部法務課長	船田 正幸
委員	東北アジア研究センター教授	平川 新
委員	法学研究科教授	中原 茂樹
委員	学術資源研究公開センター准教授	永田 英明

史料館組織概念図



(6) 施設

史料館本館は 1924 年に旧附属図書館本館として竣工した鉄筋コンクリート二階建ての施設を使用している。総床面積は 1214 m²であるが、うち 52 m²は小田滋国際司法裁判所判事記念室に提供中である。またこのほかに、本部 1 号館 (旧理学化学科棟) 内の東側約 100 m²を歴史公文書庫として使用していたが、平成 26 年度における東北大学「知の館」新設工事に伴い該当建物が取り壊されることとなり、平成 26 年 3 月末で退去せざるを得なくなった。この部分については、代替スペースが確保されるまでの一時的な措置として、平成 26 年 4 月以降片平キャンパス内職員宿泊施設 (片平会館) の一部を臨時の保管場所として借用している。

なお本館については平成 24 年度から 25 年度初頭にかけて、東日本大震災による被災復旧を兼ねた耐震改修工事が実施された。

施設は全般的に狭隘な状況にあり、業務遂行に必要な施設の確保が課題となっている。特に資料収蔵スペースの確保は今後の業務の遂行に不可欠の課題となっている。

施設総面積の推移 (単位：m²)

	本館内						館外 倉庫	備考
	合計	執務	展示	閲覧	収蔵	他		
平成22年	909	117	332	28	255	157	104	執務室拡張 (旧百年史編纂室)
平成23年	1,162	145	437	100	287	193	104	閲覧室・展示室等整備 (旧法科大学院講義室等)
平成24年	1,162	145	437	100	287	193	104	
平成25年	1,129	163	406	78	273	209	104	耐震改修工事に伴う使用区分変更
平成26年	1,129	163	406	78	273	209	40	館外書庫は仮移転

史料館施設利用状況一覧 (平成 27 年 3 月現在)

1 階・地階	事務室	32	
	教員室 1	28	准教授室

	教員室2・ミーティング室	56	助教および教育研究支援者室
	資料研究室	28	協力研究員およびアルバイト作業室
	資料整理室	19	受入資料の荷解・一時保管室
	閲覧室・開架書庫	78	書架延長 195m
	書庫 A	56	書架延長 371m
	書庫 B	17	書架延長 114m
	書庫 C	21	書架延長 61m
	地下倉庫（階段含む）	16	物品資料保管室
	倉庫（階段含む）	23	
	廊下・便所	120	
2・3階	展示室	406	
	展示準備室	28	展示用品等の保管場所
	貴重資料室	18	美術資料その他の貴重品保管室
	書庫 D・E・F・G	79	書架延長 463m
	書庫 H・I	38	書架延長 140m
	廊下・階段室	89	
片平開館	公文書室書庫	40	

収蔵・保存環境

項目	内容	導入年度
紫外線対策	紫外線吸収膜付蛍光灯（館内収蔵庫等） 展示室外窓紫外線防止フィルム貼付	平成22年度 平成25年度
空調管理	別館収蔵庫空調機 本館内収蔵庫空調機 ワイヤレス式温湿度計	平成23年度 平成24年度 平成24-25年度
地震対策	別館内書庫耐震固定工事	平成23年度
火災対策	書庫内消火器の更新（二酸化炭素消火器）	平成22年度
保存措置用機器	メディカルフリーザー（冷凍燻蒸用） HEPAフィルター付業務用清掃機	平成22年度 平成22年度

収蔵書架延長の推移

	収蔵室書架延長 (m)	
平成22年度	1,470	旧百年史編纂室収蔵設備の移管による増加
平成23年度	1,570	開架閲覧室等の整備に伴う増加
平成24年度	1,570	
平成25年度	1,570	
平成26年度	1,149	館外書庫の転出による

公開設備

閲覧室・開架図書室	専用閲覧室の整備（閲覧室の拡張移転および閲覧机、書架、マイクロスキャナ等/広報課総長裁量経費）	平成23年度
	耐震改修に伴う専用閲覧室の再整備	平成25年度
展示室整備	展示室の増設に伴う魯迅記念展示室・企画展示室の整備（広報課総長裁量経費）	平成23年度
	耐震改修に伴う常設展示・魯迅記念展示・企画展示室の再整備（展示室の2階への集約）	平成25年度

2. 運営概要

(1) 組織・運営

① 関係委員会の開催

(1) 学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会

以下の2回にわたり同部会を開催した。

第1回（平成26年6月25日（水））

場 所 文学部3階中会議室

出席者 八鍬委員長（館長）、西尾（図・副館長）、柳原（文）、安達（文）、
佐藤（災害）、中川（高度教養）、永田（史料館）、曾根原（史料館）
大原（史料館）の各委員

欠席者 羽田（高度教養）

陪席者 加藤教育研究支援者（史料館）、菊地附属図書館総務課総務係員

議 題 (1) 平成25年度事業報告および決算報告
(2) 学術資源研究公開センター外部評価について
(3) 史料館書庫（特定歴史公文書書庫）の問題について
(4) 平成26年度事業実施状況および予算について

第2回（平成27年2月24日（火））

場 所 附属図書館1号館2階小会議室

出席者 八鍬 議長（館長）、西尾（図・副館長）、安達（文）、羽田（高度教養）、
中川（高度教養）、永田（史料館）、曾根原（史料館）、大原（史料館）

欠席者 柳原（文）、佐藤（災害研）

陪席者 加藤教育研究支援者（史料館）、菊地附属図書館総務課総務係員

議 題 (1) 平成26年度事業の実施状況について
(2) 平成27年度事業計画について
(3) その他

(2) 東北大学公文書管理委員会

開催日 平成26年7月25日（金）

場 所 本部本館1階法務課打合せ室

出席者 兵頭委員長、八鍬（史料館公文書室長）、船田（法務課長）、永田（史料館）

欠席者 中原委員（法学研究科）

陪席者 大友（法務課文書審査係長）、加藤（史料館公文書室）

議 事

[審議事項]

- (1) 法人文書に係る管理上の諸課題への対応(案)について
- (2) 史料館公文書室の特定歴史公文書専用書庫の仮移転の現状と今後の対応について

[報告事項]

- (1) 全国公文書館長会議等報告について
- (2) 平成25年度特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告について
- (3) 平成25年度法人文書の管理状況調査について

(2) 学内外からの事業資金獲得状況

平成25年度全学的基盤経費

学術資源研究公開センター配分経費のうち、史料館企画展・休日開館経費および東北大学デジタルアーカイブズ整備経費として合計1,500千円の配分を受けた。

3. 資料の管理・公開（アーカイブズ事業）

(1) 資料の受入・整理

- ① 公文書室所管資料（特定歴史公文書・刊行物）の受入・整理・公開
資料の受入・移管

1) 特定歴史公文書（保存期間満了後公文書室に移管された法人文書）

平成26年度末保存期間満了文書の評価数 計3,868ファイル（うち244点を移管指定）

平成26年度特定歴史公文書の受入数 計128冊（本部 / 部局 ）

平成 26 年度に受け入れた特定歴史公文書（移管元別内訳）

総長室	0	文学研究科	0
総務企画部総務課	12	教育研究科	29
総務企画部広報課	4	法学研究科	1
総務企画部法務課	3	経済学研究科	0
総務企画部コンプライアンス推進課	0	理学研究科	2
人事企画部	0	医学研究科	7
人事企画部環境安全推進室	2	医・保健学科	2
教育学生支援部学務課	2	歯学研究科	2
教育学生支援部教務課	4	薬学研究科	4
教育学生支援部入試課	5	工学研究科	2
教育学生支援部学生支援課	6	農学研究科	4
教育学生支援部留学生課	1	国際文化研究科	1
教育学生支援部キャリア支援事務室課	0	情報科学研究科	3
保健管理センター・学生相談所	0	サイクロ RI センター	6
財務部財務課	0	生命科学研究科	0
財務部資産管理課	0	環境科学研究科	0
財務部調達課	0	医工学研究科	0
財務部資金管理室	0	金属材料研究所	5
財務部旅費計算室	0	学際センター	0
財務部財務決算室	0	国際高等研究教育機構	0
研究推進部研究推進課	4	加齢医学研究所	0
研究推進部産学連携課	0	流体科学研究所	0
施設部計画課	5	電気通信研究所	5
施設部建築整備課	0	多元物質科学研究所	0
施設部設備整備課	0	災害科学国際研究所	0
情報部情報推進課	0	図書館	5
情報部情報基盤課	1	史料館	0
国際交流課	0	医学分館	0
監査室	0	病院	1
		未来科学技術共同研究センター	0
		WPI	0

②目録の整備・公表

特定歴史公文書の目録公開 計 2,323 点（累計 6,429 点）

平成 26 年度に公開を開始した主な特定歴史公文書

資料群名	冊数	主な内容・備考	利用制限
教育学部教授会議事録等	27	教官会議および教授会議の議事録。	要審査
法務課移管文書	10	法規制定関係の文書等。学部通則案起草委員会綴／各部局の関係規程綴／講座関係綴ほか	要審査
国際交流課移管文書	14	教職員の外国出張記録	要審査
留学生課移管文書	22	外国人留学生・研究員等名簿、留学生待遇関	要審査

		係	
施設部移管文書	105	学内施設・設備工事しゅん工写真アルバム	要審査
学務部移管文書	238	学友会、補導協議会、課外活動、学生運動ビラ集など	要審査
学生課移管文書	75	学生関係スクラップブック、学生運動関係資料など	要審査
学生課移管学籍関係資料	667	学生原簿、身上調書、入学者名簿、学生異動簿など	要審査
総務課移管文書	204	大学紛争関係、同窓会関係、大学改革関係、秘書関係、青葉山移転関係など	要審査
財務課移管文書	20	予算定員調、大学院重点化関係	要審査
人事課移管文書	150	学長選挙関係、外国人教師採用関係	要審査
附属図書館移管文書	55	図書受入関係、庶務・会計関係	要審査
第二高等学校生徒名簿	13	生徒名簿	要審査
二高勤労働員文書	5	船岡海軍火薬工廠への勤労働員に関する記録・日誌	要審査
仙台工専文書	13	実習報告および外国人学生関係	要審査
旧教養部文書	77	人事関係（異動・履歴関係）	要審査
広報課新聞スクラップ	525	広報課が収集した新聞記事	要審査
2014年度本部事務機構及び各部門移管文書	105		要審査

③資料複製・補修等

評議会議事要録綴 昭和51年度～昭和55年度の電子化 4,082コマ

② 個人・関連団体寄贈資料等（記念資料室所管）の受入・整理

新規資料の収集・受入

平成26年度における受贈資料群 14件

資料名	数量	概要・備考
細谷昂文書	4箱	大学紛争関係
大島正隆書簡等	一括	大島智夫寄贈
野口明書幅	2点	柴生田敦子寄贈
旧制二高生徒写真資料	1点	対馬英輔寄贈
岡崎文夫旧蔵書幅資料等	一括	金沢大学古畑教授を介し
財団法人科学計測振興会文書	一括	旧科学計測研究所関係
在外同朋救出仙台学生同盟関係資料	一括	
東北大学教育研究振興財団関係資料	一括	看板等
文学研究科関係写真資料	一括	羽賀徳彦名誉教授
森嘉兵衛旧蔵大島正隆関係資料	一括	柳原教授を介して
文学研究科院生会文書	一括	
道山閑一文書（旧二高）	一括	旧二高関係写真
佐藤慎一文書（元法学部教授／東京大学文書館長）	一括	大学紛争関係
本多良勝旧蔵写真	一括	医学部関係

②目録の整備・公表

平成26年度に目録を公表した資料群 2件

資料名	数量	概要・備考
ハンス・モーリッシュ関係資料（理学部生物）	140点	原稿類や書簡など

学科教員)		
野副鐵男関係資料 (理学部化学科教授)	86点	文化勲章、化学者サイン帳など

(2) 資料利用者への対応

資料利用状況

項目		人数	件数
閲覧室利用人数		148	—
＜公文書室＞ 特定歴史公文書等の利用 (閲覧ないし写しの利用)	1. 特定歴史公文書等利用	41	297
	うち審査により利用制限をおこなった件数	—	7
	① 閲覧利用	31	234
	② 写しの交付	15	63
	2. 移管元部局利用	2	14
＜記念資料室＞ 一般資料 (閲覧ないし複写利用)	1. 資料閲覧	59	—
	2. 複写申請	8	15
	3. 掲載許可申請	10	40
デジタルアーカイブ (複写利用のみ)	1. 複写申請	53	178
	2. 掲載許可申請	55	168

※件数は、請求書に記載された資料名(資料群名)ごとに1件とカウントしている。

※人数は、1日単位ののべ人数である。

4. 普及・社会教育事業

(1) 展示会および関連企画の開催

① 常設展示

「歴史のなかの東北大学」の公開と一時中断

平成17(2005)年4月1日より、東北大学の歴史をテーマにした常設展として公開している。平成26(2014)年10月から27年4月まで、エレベーター設置工事に伴い展示室を閉鎖した。

魯迅記念展示室常設展「魯迅と東北大学」の公開と一時中断

平成23(2011)年7月より、かつて仙台医学専門学校に留学生として在学した文学者魯迅(周樹人)の留学生生活を主テーマとする展示室として「魯迅記念展示室」を史料館本館1階に開設した。同室の整備は本部広報課との連携により取組み、関連資料の新規収集(魯迅自筆書幅)や展示ケースらの製作をおこなった。年間を通じて中国人来訪者等を中心に多くの見学者が訪れているが、同様に平成26年秋から一時閉室した。

② 企画展示

平成26年7月30日～8月31日まで、ノーベル財団ノーベル博物館と東北大学が主催する展示会 Sketches of Science at Tohoku University の企画の一環として、「東北大学とノーベル賞」展を実施した。Sketches of Science は、ノーベル博物館が世界各地を巡回して行っている展示会の一つで、東北大学では、片平キャンパス内エクステンション教育研究棟1階においてノーベル博物館のパネルを中心とした展示会を開催すると共に、東北大学とノーベル賞の歴史的な関わりを市民に紹介するオリジナル展示として史料館を会場に「東北大学とノーベル賞」展を企画実施することとなり、史料館がこれを担当実施した。展示期間中はお盆期間を除いて土日会館を実施し、期間中の来館者は約800名にのぼった。

③ その他の展示

新規公開資料の紹介を主眼とした「新公開資料速報展示」、いわゆる「モノ資料」の紹介を行う「コレクション紹介展」や、博物館実習VIの受講生による成果発表の展示会など計4回の小規模な「ミニ展示」を実施した。

展示開催状況

常設展示	歴史のなかの東北大学	常設展示室	4/1～9/30
	魯迅と東北大学	魯迅記念展示室	4/1～9/30

企画展示	東北大学とノーベル賞	第1企画展示室	7/30～8/31
ミニ展示	新入生のいる風景	第1企画展示室	4/4～25
	戦後東北大学と入学試験（新公開資料速報展）	第1企画展示室	5/7～7/4
	シリーズ学者の肖像 金山平三画「阿刀田令造先生像」（コレクション紹介展）	第1企画展示室	7/7～24
	看板から見る戦前戦後の学生生活（博物館実習の成果として）	第1企画展示室	9/5～30
館外展示	かわうち今昔ものがたり （埋蔵文化財調査室・植物園と共同）	川内萩ホール 展示ギャラリー	通年

(2) 展示室の利用状況

① 利用統計

平成26年度は、エレベーター設置工事に伴い10月1日から一般の利用を休止し、再開は4月20日となったため、展示室の年間公開日数は131日となった。

史料館展示室への入場者数 2,358人

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総計
公開日数	21	20	21	22	24	20	—	—	—	—	—	—	131
入場者合計	474	300	352	352	714	277	—	—	—	—	—	—	2358

※入場者数は、展示室入口においてカウントした

(2) 各種団体等による展示見学・視察への対応

平成26年度の対応件数 14件

見学団体の内訳

区分	件数	備考
国際交流団体等	7件	
その他一般	7件	各種文化施設・学会等主催行事による見学など
総計	14件	

主な見学団体

東北大学新入職員初任者研修／仙台高等工業学校卒業生／石巻市桃生中学校2年生／中国社会科学院日本研究所／広報課主催片平お散歩マップツアー／文系サマープログラム受講生／基礎ゼミ「伝統文化がつくった現代日本」受講生／北京林業大学・山形大学理学部／福建医科大学口腔医学院および歯学研究科／宮城県海外研修員／文学研究科・吉林大学日本語日本文化短期研修プログラム／中国国際貿易促進委員会青島市分会・東北経済連合会／名取市下増田放課後児童クラブ

(3) 他機関開催の展示会への出陳

- ① 「安井曾太郎の世界」（9/20～11/16 ふくやま美術館、11/22～12/25 佐倉市立美術館）
当館所蔵の「玉蟲先生像」（安井曾太郎画）を出陳した。
- ② 「文字がつなぐ古代の日本列島と朝鮮」（10/15～12/14 国立歴史民俗博物館）
当館所蔵の「井上秀雄収集古代朝鮮拓本資料」（壬申誓記石ほか）を出陳した。

5. 教育・研修・学習支援活動

(1) 教育・学習活動における史料館の利用

史料館を活用した授業・講習の実施 4件

2014年度における、当館施設を利用して実施した授業科目は、下記の通りである

--	--

全学教育	展開科目（カレントトピックス）	「東北大学のひとびと」
	基礎ゼミ	「日本近世史入門」
学部教育	文学部・文学研究科開講科目	「日本史実習」
	博物館実習VI	館園実習
留学生対象	東北大学サマープログラム	Time Travel Tohoku University

(2) 全学教育の担当

カレントトピックス科目「東北大学のひとびと」

史料館教員2名と文学研究科、高等教育開発推進センターの教員3名の共同で、全学教育科目（カレントトピックス科目群：第2セメスター）において「東北大学のひとびと」を開講した。

(3) 職員研修の担当

2014年度においては、以下の講義を担当した。

東北大学初任者オリエンテーションにおける講義

「東北大学の歴史」 2回 (4月1日／10月1日)
公文書管理研修（法務課と合同開催） (2月13日)

6. 調査・研究活動

(1) 学術出版物の発行

① 『東北大学史料館紀要』第9号の刊行（2014年3）

・調査研究

東北大学における教職員適格審査とその文書—人事課移管文書・石崎政一郎文書Ⅱ
小幡圭祐

明治期仙台医学専門学校における医学教育と解剖体需給

加藤 諭

第二次世界大戦終戦前後における財団法人斎藤報恩会による学術研究助成の実際

米澤晋彦

東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（三）

—昭和36年版『東北大学附属図書館別置本目録 増訂稿』刊行まで

大原理恵

・記録報告

展示記録 「東北大学とノーベル賞／Sketches of Science at Tohoku University」

第1回アーカイブズセミナー報告

2014年日中二国間学術交流セミナー「日中留学生研究の現状と課題」

・資料公開

2013年度に公開した法人文書

2013年度に公開した個人・団体文書

2013年度史料館事業年報

② 創立50周年記念シンポジウム記録『これからの大学と大学アーカイブズ』の刊行

2019年9月に開催したシンポジウムの記録を編集・刊行した。

(2) 研究会等の開催・後援

① 大学アーカイブズセミナーの開催

第1回：7/14 永田英明「東北大学の戦時動員体制と関係資料」

第2回：3/23 加藤諭「近代日本の医学教育と解剖体—仙台医学専門学校を中心に—」

② 日中二国間学術交流セミナー「日中留学生研究の現状と課題」への参加・後援

10月1～2日 北京外国語大学（北京市）、南開大学（天津市）にて開催

教員1名、教育研究支援者1名、協力研究員2名が参加

(3) 学会・研究会・研修会等への参加および報告

① 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会研究会

9月19日 東京大学山上会館 教員1名が報告

② 全国大学史資料協議会総会

10月8～9日 大阪大学 教員と教育研究支援者各1名が参加

③ 広島大学文書館創立10周年シンポジウム

7月8日 広島大学 教育研究支援者1名

(4) 科学研究費獲得状況

平成26年度における館員（協力研究員含む）の科学研究費獲得は合計4件となった。内訳は下記の通りである。

基盤研究（A）	分担2
基盤研究（B）	分担2
基盤研究（C）	代表2※ 分担2

※1名は5/1で転出

7. その他

(1) 広報・情報公開（ニュースレター・ホームページ）

① 『東北大学史料館だより』

平成26年度は下記の2回発行した。

21号（2014年9月）

巻頭コラム 沢柳総長の仙台着任－史料館所蔵の沢柳文書から－

大学アーカイブズの使命 東北大学史料館長 八鍬友広

大阪大学アーカイブズができるまでとできてから 大阪大学アーカイブズ 菅真城

企画展記録

当館所蔵史料の出品

資料の公開について

史料館のうごき

「東北大学とノーベル賞展」の開催

22号（2015年3月）

巻頭コラム 仙台におけるローマ字論争

旧制二高出身の二人の北京大学総長 中国社会科学院哲学研究所研究員 龔穎

日中二国間学術交流セミナー「日中留学生研究の現状と課題」について 永田英明

史料館のうごき

在外同朋救出仙台学生同盟－新収資料から－

② インターネット等を利用した情報発信

1) 史料館ホームページの改訂，13回の更新を行った

2) SNSによる情報発信，Twitterを利用した情報提供を29回にわたりおこなった。

IV. 植物園

1. 植物園の概要

(1) 沿革

現在の東北大学植物園は、宮城県仙台市青葉区に位置する本園と、青森県青森市に位置する八甲田山分園から成っている。両者は元々性格の異なる組織であり、さらに本園には異なった歴史的背景を持つ植物園標本館（津田記念館）が存在している。現在、これらは一体として運営されているが、混乱をさけるため、以下では必要に応じて3施設を別々に記すことにする。

① 植物園（本園）

1958年（昭和33年）4月	理学部附属青葉山植物園として開設。生物学教室より助手（後に助教授）1名を派遣。
1960年（昭和35年）4月	文部省令6号により植物園設置の告示。助手（全学流用定員）1名を配置。
1962年（昭和37年）4月	博物館法による博物館相当施設に指定。
1964年（昭和39年）5月	ヤナギ科植物標本館落成。
1972年（昭和47年）7月	敷地の約8割（385,153 m ² ）が国指定天然記念物「青葉山」となる。
1987年（昭和62年）4月	植物園記念館（津田記念館）落成。
1993年（平成5年）4月	旧教養部生物学教官のうち教授1名が配置された。
1996年（平成8年）3月	植物園本館落成。
1996年（平成8年）4月	生物学教室より助手1名派遣。
1996年（平成8年）10月	植物園本館落成記念式。
1997年（平成9年）3月	定年退職により生物学教室よりの助教授が引き揚げられる。
1998年（平成10年）3月	転出により生物学教室よりの助手が引き揚げられる。
2000年（平成12年）4月	大学院理学研究科附属植物園となる。
2003年（平成15年）8月	天然記念物指定範囲が国指定史跡「仙台城」の一部となる。
2004年（平成16年）4月	大学法人化に伴い、財務省用地（通称L地区）が植物園用地として加わる。
2005年（平成17年）4月	大学植物園となる。
2006年（平成18年）4月	学術資源研究公開センター植物園となる。
2006年（平成18年）12月	仙台城二の丸の杉並木が仙台市指定天然記念物となる。
2007年（平成19年）3月	青葉山キャンパス側に青葉山ゲートが新設される。
2009年（平成21年）4月	植物園開園50周年式典を挙げる。
2009年（平成21年）5月	もみじ庭（50周年記念園）がオープンする。

② 八甲田山分園

1929年（昭和4年）4月	東北帝国大学理学部生物学教室の附属施設「八甲田山植物実験所」として開設。
1952年（昭和27年）3月	博物館法による博物館相当施設に指定される。
1952年（昭和27年）4月	本学以外の大学の実習の受入を開始する。
1958年（昭和33年）4月	技官1名の定員が認められる。
1964年（昭和39年）4月	助手1名の定員が認められる。
1966年（昭和41年）4月	理学部の附属施設となる（文部省令第22号）。
1985年（昭和60年）6月	1984年末に竣工した新管理等の落成式が行われる。
1994年（平成6年）10月	実験棟の全面改修工事が完了する。
1999年（平成11年）10月	転出に伴い、助手（理学部持ち回り定員）1名が削減となる。
2000年（平成12年）4月	理学研究科附属となる。
2004年（平成16年）4月	理学研究科附属植物園八甲田山分園となる。
2005年（平成17年）4月	大学植物園八甲田山分園となる。

③ 植物園標本館（津田記念館）

津田記念館) 植物園記念館; Herbarium Tsudanum; Tsuda Memorial Herbarium

現在東北大学の植物標本が収蔵されている植物園記念館は、東北帝国大学第三講座出身（1944-45 年在学）の故津田弘氏の寄付金によって建設されたので、津田記念館の別名がある。落成式は津田氏の尊敬する牧野富太郎の誕生日にあわせ、1987 年 4 月 24 日に行われ、現在に至っている。

(2) 設立経緯と趣旨

① 設立趣旨

植物園は本園および八甲田山分園敷地内に棲息する植物及び動物を保護・保全してそれを長く子孫に伝えると共に、これを学術上の貴重な資料として保護管理にあたり、東北大学教職員及び学生の植物学研究に資し、一方広く開放して一般の植物学上の知識の進歩、発達とその普及を計る。また、この自然植物園に加えて、多数の植物を国内、国外より蒐集栽培し、本学の教育研究に資すると共に広く植物学の啓蒙の用に供することを目的とし、その基礎的学術研究をおこなう。これらの諸活動をとおして生物多様性保全、絶滅危惧植物保護、地球環境保全に寄与する。

② 経緯

本園

東北大学植物園は仙台市の中央部を東西に走る丘陵地である青葉山丘陵の東端に位置し、この地の森林の歴史は慶長 5 年（1600）伊達政宗が仙台城を造営し、敵からの防御として御裏林を保護し、一般人の侵入を禁止した事に始まる。

明治維新後は軍隊の管理する地となり、仙台鎮台、大日本帝国陸軍第二師団が置かれ、昭和 20 年（1945）に太平洋戦争が終結すると進駐軍による接収が行われ、やはり一般人の出入りは禁止された。昭和 33 年（1958）に進駐軍が引き揚げると共に東北大学の管理地となり、理学部附属植物園となった。

当植物園は東北大学理学部生物学教室五十年史に故木村有香名誉教授が記述しているように、農学部と理学部で共同運営してはどうかという事であったというが、諸般の事情により理学部附属植物園として発足した。発足の目的は運営が望ましいこと、植物園を市民に開かれた「東北大学の顔」として情報発信してゆくという考えから、総長を委員長とし、理学部、農学部長、事務局長らを委員、計部長、施設部長らを幹事とするなど、学部附属施設としては異例な運営委員会が設置されて運営・管理することとした。そして、平成 12 年に副総長制の発足に伴う総長、副総長の任務分担の区分に伴い、植物園運営委員会は総務担当副総長が担当することとなった。平成 17 年度からは、植物園が理学部から独立し、学内共同利用施設として教育基盤施設群に入ったため、植物園運営委員会は、植物園運営専門委員会に移行し、副学長が担当となった。さらに、平成 18 年度からは、総合学術博物館、史料館、植物園の 3 学内共同利用施設を統合し、「学術資源研究公開センター」が発足したことに伴い、その運営・管理は、学術資源研究公開センター運営専門委員会が担当することとなった。

植物園は青葉山を含む敷地約 49 万㎡のおおよそ三分の一を一般公開地域として、観察路を設置して広く学内外に開放し、大学の研究・教育に役立てると共に、一般の生涯教育に役立てることを主たる目的としている。そして、一般市民を対象とした啓発機関として博物館法による博物館相当施設に昭和 37 年（1962）に指定された。

植物園は自然植物園で、約 8 割が宮城県地方の丘陵地の気候的極相林とされるモミーイヌブナ林に覆われており、丘陵地の自然生態系が良好に保全されていることから昭和 47 年（1972）7 月に国指定の天然記念物「青葉山」に指定された。このように良好な生態系が維持されているため、丘陵地の鳥獣類も豊富であり、特別鳥獣保護区に指定されている。また、仙台城址が平成 15 年 8 月 27 日付けで国指定史跡に指定された。仙台城址の御裏林にあたる本植物園の天然記念物指定範囲（約 39ha）が指定地に含まれる。2007 年 2 月には、国指定天然記念物「青葉山」並びに国指定史跡「仙台城跡」指定地外にある 13 本のスギが新たに「仙台城二の丸跡南西境の杉並木(部分)」として仙台市指定文化財の指定を受けた。

植物園の建物は昭和 21 年（1946）に進駐軍のクラブハウスとして建築された棟などを展示室、押し葉標本庫、研究室等に使用してきたが、老朽化が激しくなり、平成 8 年（1996）ほぼ同様の場所に、本館が新築・落成した。

植物園の入園口としては、開園以来、川内キャンパス側のみであったが、工学部の要請により、2007 年 3 月に新たに青葉山ゲートが新設され、青葉山キャンパス側にも入園口が新設された。これに合わせ、仙台市の観光周回バス「るーぷる仙台」が青葉山ゲート付近に停車するようになり、入園者が大幅に増加した。

平成 21 年 4 月 29 日 (2009 年), 植物園は開園 50 周年を迎え, 同日, 東北大学川内萩ホールにて井上総長, 梅原仙台市長, 邑田植物園協会会長らご臨席のもと開園 50 周年記念式典を挙行了。またこの関連事業として, 植物園シンポジウム「青葉山の森を 22 世紀に伝える」, ミニ企画展「東北大学植物園の 50 年と青葉山」, 植物園ガイドブック「植物園に行こう」の発行を行った。またこれに合わせて総長裁量経費の配分を受け, 50 周年記念園「もみじ庭」を新設し, 絶滅危惧植物花壇を設置した。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災および同年, 翌年の台風により, 植物園では東屋の倒壊や本沢法面の土砂崩れなど, 甚大な被害が発生した。また, 標本庫のさく葉標本, 木材プレパレート標本も多数が被害を受けた。応急的な復旧作業により, 2011 年 5 月には一部園路を閉鎖したまま開園にこぎ着けたものの, 園内の復旧作業完了は 2013 年度末になる見込みである。その間, 長期間にわたり, 一部園路の閉鎖を余儀なくされた。

植物園では研究に必要な生きた植物を栽培し, 研究教育に供するために, 世界各地から植物を採集する必要があるが, 経費や時間の制約があるため, 相互扶助精神によってお互いの植物園が種子交換事業を行っている。当植物園では種子交換事業を昭和 42 年 (1976) に開始し, 世界各地の植物園及び研究機関と隔年おきに種子交換事業を行い, 現在 300 ヶ所に及んでいる。この事業で集められた種子は大学院理学研究科及び生命科学専攻の研究・教育に貢献している。

植物園は植物を生きた状態で保存することが重要な業務の一つである。当植物園ではヤナギ科植物の系統保存を行っており, 400 近い系統が保存されており, 世界一の規模を誇るヤナギ科植物のコレクションである。この系統保存樹から世界各地の植物園や研究機関に苗木の供給を行っている。

近年の野生植物の危機的な状況, そして, 植物園自然保護国際機構 (BGCI) が提唱する目標の一つ (地球上の絶滅危惧植物種の 50% を生育域外で保全) を受けて, 日本でも, 地方ごとに拠点園を設け, これらが連動しながら絶滅危惧種の種子を採集, 保存, 交換し, 保全を図る取り組みが始まった。本園も 2005 年に BGCI に加盟すると共に, 東北地区における保全拠点園として取り組みを開始し, 東北地区の絶滅危惧植物種子採集と種子交換事業に参加している。

また, 環境省が進めている日本の長期生態系観測のプロジェクト「モニタリングサイト 1000」に準コアサイト (森林) として 2006 年から参加し, 園内のモミ林 1ha のプロットにおいて樹木生長調査, 森林生産量調査, 地表性甲虫類調査, 繁殖鳥類調査を行っている。

一方, 本学の教員はもとより, 大学院生, 学生, 他大学, 各種研究機関の研究者等が本植物園を利用して行っている各種研究について, その成果を取り纏め, また, 研究成果の普及を計るために, 平成 9 年度より「植物園利用研究成果報告会」を開催し, 同時にそれらを「植物園利用研究成果報告書」として公表している。

平成 8 年 3 月に植物園本館落成に伴い展示内容の一新と充実を図った。天然記念物「青葉山」の自然林の成り立ち, 森を構成する樹木, そこに生息する動物, 季節の移り変わりを指標する花暦, 生物種の多様性と絶滅危惧植物の問題, 国際的に行われている種子交換事業の紹介と種子の行動など, 本植物園の特徴と植物を中心とした生物界の様子を, 大学での研究成果を踏まえて, 分かり易く展示している。

この他, 平成 9 年 (1997) に植物園ホームページ (<http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/index.html>) の開設 (2009 年にリニューアル) し, 2013 年には公式 Facebook ページも開設して, 情報発信を図っている。また, 社会教育として, 平成 10 年度 (1998) から市民向けの公開講座を開催, 平成 17 年度より, 逐次, 企画展を開催してきている。イベントとして, 5 月 4 日に「植物園の日」, 11 月 3 日「紅葉の賀」を実施するなど, 近年, 一般市民向けの社会教育活動を企画, 実施してきている。

八甲田山分園

東北大学植物園八甲田山分園は, 青森県青森市荒川の八甲田山西南側中腹にある酸ヶ湯温泉の南の台地上, 標高 875~908 m の場所に位置する。現在は八甲田山系の植物や自然環境に関わる様々な研究や教育の拠点として, 毎年 6 月から 10 月までの 5 ヶ月間開園しており, 日本各地の大学やその他の研究機関から長期滞在の研究者や学生実習を受け入れている。併せてその期間中に敷地 (東西約 400 m, 南北約 300 m, 面積約 7500 m²) 内を自然植物園として無料解放し, 一般の観光客に対して八甲田山系の自然に手軽に触れる場所を提供している。研究面では, 国際長期生態学研究ネットワーク (ILTER) の下部組織である, 日本長期生態学研究ネットワーク (JaILTER) の準コアサイトとして登録されており, 国内外の共同研究の場として利用されている。とくに, 近年の気候変動

の生態系影響に関しては成果をあげつつある。

前身である東北帝国大学附属八甲田山植物実験所は、1923年に東北帝国大学に開講された植物生態学講座に着任した吉井義次によって、八甲田山を日本における高山植物生態学研究の拠点とすべく1929年に開設された。この場所に実験所が設立された背景には青森県の精力的な誘致活動と、酸ヶ湯温泉の当時の湯主の子息であった京都帝国大学の郡場寛の働きかけがあった。そのため建物の建設は青森県よりの寄付によってまかなわれ、また設立後一貫して、日常生活は酸ヶ湯温泉の全面的支援に支えられてきている。大学側としても、これらの厚意に応えるべく、日本では当時絶無に等しかった自然植物園を、1927年から5年ほどかけて敷地内に整備して一般に解放した。これは同じコンセプトの仙台の本園が開設されるよりも30年近くも前のことであり、その当時ですら自然植物園の意義が広く理解されていなかったことを考慮すると極めて先進的な試みであったといえよう。この整備には広くヨーロッパの植物園を視察した吉井の意見が反映されたものである。

植物園標本館（津田記念館）

現在東北大学の植物標本が収蔵されている植物園記念館は、東北帝国大学第三講座出身（1944-45年在学）で故木村有香名誉教授の教え子に当たるヒマラヤ製菓社長故津田弘氏の寄付金によって建設されたので、津田記念館の別名がある。落成式は津田氏の尊敬する牧野富太郎の誕生日にあわせ、1987年4月24日に行われた。植物園記念館は押し葉標本庫を中心とし、貴賓室、ラウンジなどを備え、種々会議の場として利用されると共に、大学附属の植物標本館の単一の建物としては日本最大の規模を誇り、約80万点の植物標本を収蔵可能なように設計されている。また、標本の収蔵条件も最適な状態に保たれており、閲覧スペースも広くとられているために複数の研究者が同時に調査、研究を行うことができる。標本の収蔵スペースに余裕がなく収蔵条件も劣悪なものが多い日本の植物標本庫の中では極めて例外的な存在である。

記念館には、大正12年（1923）に東北帝国大学理科大学に開設された生物学教室の植物分類学教室を中心として収集されてきた押し葉標本（国際植物標本庫コード：TUS）と、理学部附属植物園の設立（1958年）と同時に設立され、当初は植物園内に自生するかまたは栽培されている植物の標本を収蔵するための標本（東北大学植物園植物標本室 国際植物標本庫コード：TUSG）が収蔵されている。両者は現在統合され一括管理されているが、ここでは個別に記述する。

東北大学植物標本室（TUS）

東北大学の植物標本は、現在、何時でも利用可能な状態に整理された押し葉標本約400,000点、木材標本約2,800点あり、目下整理中の標本が約250,000点ある。押し葉標本は植物園内にある植物園記念館（津田記念館）に分類学的順序に従って保管されており、維持管理の実務は主に植物園が行っている。本標本館はTUS（木材標本はTUSw）として知られている。TUSは国際植物分類学連合に登録され公示されている東北大学植物標本室の国際的な略称で、Herbarium Tohoku Universitatis Sendaiensisの頭文字から採ったものであり、木材標本のTUSwのwはwoodの略である。

本標本室に収蔵されている標本の主体をなすのは維管束植物の押し葉標本であり、現在約400,000点が整理された状態にある。特に、木村有香の研究したヤナギ科と、大橋広好の研究したマメ科が充実しており、96点の正基準標本（Holotype）を含む293点の基準標本（Ohashi et al. 2001にまとめられた数で2000年現在。その後20点ほど増加している）と論文の証拠標本多数が含まれている。藻類の押し葉標本は少数が存在するが、分類の専門家が不在であるために整理されていない。蘚苔類の乾燥標本は、樋口俊雄、湯沢陽一両氏から寄贈された福島県植物誌の証拠標本を中心に約10,000点が保管されている。本標本室の標本の採集地域を見ると、国内では東北地方のものが多く、東北地方以外では琉球諸島からの標本に重要なものが多い。国外では、台湾、中国南部およびチベット、ネパール、北アメリカ、オーストラリアで採集された標本が多く収蔵されている点が特色である。

木材標本（TUSw）は日本産の木本植物が中心であるが、中国（福建省）、ネパール、ニュージーランド、オーストラリア産等海外産のものも少数ながら含む。独立行政法人森林総合研究所から寄贈を受けたものについては、その木材標本番号（TWTw no.）で整理されており、それ以外のものについてはTUSw独自の番号が付されて整理され、いずれの標本とも、証拠標本の有無、ある場合はその標本番号や標本データ等が全てデータベース化されて管理されている。木材標本は、光学顕微

鏡観察用のプレパラート標本，樹皮つきの材鑑標本，および樹皮の無い板材に加工された標本に大別され，プレパラート標本はヤナギ館内に，他の標本は記念館内の植物標本庫内のキャビネットに保管されている。

東北大学植物園植物標本室（TUSG）

東北大学植物園の植物標本室は，理学部附属植物園の設立（1958年）と同時に設立され，当初は植物園内に自生するかまたは栽培されている植物の標本を収蔵するための標本庫であった。植物分類学連合に登録され公示されている国際的な略称は TUSG である。大場秀章（1970～1972 年在任）がスタッフとなって以後，標本室は拡充されて標本交換事業も行われるようになり，植物分類学的研究の拠点として整備された。大場の後は内藤俊彦（1971～2002 年在任）が標本庫の管理を引き継いだ。整理済みの標本約 20,000 点は植物園本館の 1 室に保管されていたが，2007 年度から標本を津田記念館の TUS の標本棚に順次移し，管理を一元化する作業を進めている。2009 年度は離弁花類の残りを移動する作業を行い，2010 年度から 2011 年度にかけて残された合弁花類を統合したことによって一元化作業は完了した。基準標本は 11 点確認されており，そのうち 2 点が正基準標本である。なお，未整理の標本が約 40,000 点あるが，標本データの不備等の影響もあって整理は進んでいない。

(3) 組織と運営

① 植物園内の組織

園長 1（本学専任の教授）

教授 1

助教 2（本園担当 1，分園担当 1）

技術職員 4，再雇用職員技術職員 1

時間雇用職員 2（事務，窓口担当），時間雇用職員 1（清掃担当）

② 植物園会議

園長，教員，技術職員にて構成

月 1 回開催

植物園の運営に関する実務についての連絡，実施等を行う

③ 非常時体制

植物園は 52ha という広大な敷地を抱えており，かつ市道に囲まれているため，データに示すように自然，人為による事故災害がたびたび発生している。これらは昼夜，時期を問わず発生するため，常時これらに備えておく体制を構築することが必要である。そのため，植物園ではデータにあるような非常連絡体制を整えるとともに，2009 年度までに事故災害対策マニュアルの策定を行っていたが，これらは，東日本大震災以降の災害にも有効に機能している。

施設，備品の故障も度々発生しているが，特に 2007 年 3 月に新設した青葉山ゲートに誤作動，入園者の誤操作が度々発生し，その対応が技術職員，事務員の大きな負担となった。その後，遠隔操作装置の設置を行い，トラブルは大幅に減少したものの，無人入園口であるため，土日のような勤務人数が少ない場合のトラブルが大きな負担になっている。

また，長年にわたり赤字が続いているため，老朽化が進んだ施設が多いこと，AED 設置がなされていないことなど，事故災害が起こる可能性が増大していることが憂慮される。

(4) 施設

① 本園

本園には，本館，記念館，ヤナギ館の 3 つの建物がある。いずれも施設としては十分なスペースが確保されている。また 2007 年 3 月には工学部側に無人の青葉山ゲートが新規に開設された。当植物園には温室を所有しておらず，植物の栽培には大きな制約がある。しかしながら，経済的な理由から実現は困難な状況にある。

2004 年 4 月の大学法人化に伴い，財務省用地（通称 L 地区）が植物園用地として加わった。植物園 50 周年を機に，総長裁量経費の配分を受け，絶滅危惧植物展示花壇などを備えた「もみじ庭」を約半分の面積を活用して新設したが，残り半分については，外柵は設置されたもののいまだ活用されていない。今後，早急な整備が望まれるが，経常費や施設営繕費が大幅に不足している現状では，実施は困難である。

データ

所在地 宮城県仙台市青葉区川内 12-2, 45-1, 45-2, 51, 川内山屋敷 50-2

敷地面積 496,347.98 m²

(うち国指定天然記念物「青葉山」及び国指定史跡「仙台城」範囲 385,153 m²)

植物園本館 S2 1996年(平成8年)竣工 1,883 m² (1階 1,212 m², 2階 671 m²)

植物園記念館(津田記念館) 1986年(昭和61年)竣工 鉄筋コンクリート2階建 建物面積 488 m², 延面積 1,117 m²

植物園標本室(ヤナギ館) 1963年(昭和38年)竣工 鉄筋コンクリート1階建 床面積 131 m²
(標本室 81 m², 研究室 25 m², 標本作製室 25 m²)

②八甲田山分園

概況

管理棟, 実験棟, 特別実験室の3つの建物が設置されている. このうち, 実験棟は老朽化が著しく, 床が沈下している. 早急な営繕または建て替えが望まれる.

データ

所在地 青森県青森市大字荒川字南荒川山 1-1

敷地面積 74988.94 m²

管理棟 S2 1984年(昭和59年)竣工(1985年から供用開始) 木造2階建 128.31 m²

実験棟 S1 1929年(昭和4年)建築, 1994年(平成6年)改修 木造平屋建 168.93 m²

新館(特別実験室) S1 1966年(昭和41年)竣工 木造平屋建 38.8 m²

2. 運営概要

(1) 補修・整備工事, 庶務報告等

① 本園

2014年

- ・ 4月1日 消費税増税に伴い、大人料金を230円に改訂した。
- ・ 4月7日 動物カメラの画像で、ツキノワグマが4月1日に2回、5日に1回確認された。
- ・ 4月16日 見晴台付近でカタクリを盗掘している入園者を発見し、厳重注意した。
- ・ 5月5日 車両事故により、市道沿いフェンスが破損した。
- ・ 6月1日 青葉山ゲート改札機内のバーコードリーダーが故障したため、後日交換を行った。
- ・ 5月28日 動物カメラでツキノワグマ1頭が確認された。
- ・ 5月29日 ツキノワグマ対策のため、市道青葉山亀岡線下の動物トンネルに電気柵が設置された。
- ・ 6月12日～14日 富山市で開催された植物園協会大会に中静園長、技術職員1名(ポスター発表)が参加した。
- ・ 6月30日 倒木の恐れのある樹木が見つかったため、モミノキ道を通行止めとした。
- ・ 7月1日 学術資源研究公開センター運営専門委員会が開催された。
- ・ 7月2日, 14日 東松島市で絶滅危惧植物移植作業を行った。
- ・ 7月15日～18日 技術職員が八甲田山分園の出張整備を行った。
- ・ 7月30日～31日 オープンキャンパスが行われ、高校生と保護者・教員は入園無料とした。入園者数207名。
- ・ 7月31日 ゲリラ豪雨により、本沢下流域の園路が一部が流失した。
- ・ 8月3日, 8月9日, 8月26日の3回、園内および周辺でツキノワグマが確認された。
- ・ 8月14日～17日 計画年休・夏期休業のため閉園した。
- ・ 8月23日 車両事故により、市道沿いフェンスが破損した。
- ・ 8月23日～25日 竜の口側フェンスにクマ侵入防止対策が施された。

- ・ 8月31日 電気設備点検に伴う全館停電断水のため、臨時休園した。
- ・ 9月11日 集中豪雨により、本館ホールでの雨漏り、園内各所の観察路で冠水や砂利の流失が起きた。
- ・ 10月6日 台風18号により園内外で落枝が多数発生した。
- ・ 10月14日 台風19号による豪雨で本沢護岸の流出、園路の冠水、本館ホールの雨漏りが発生した。
- ・ 10月30日 八甲田山分園への本部施設部の視察（施設部部長ほか4名）が実施された。
- ・ 11月6日、7日 職場体験の中学生2名（仙台二華中学校）を受け入れた。
- ・ 12月11日 学術資源研究公開センター運営専門委員会が開催された。
- ・ 12月16日 安全衛生に関わる事業場巡視が行われた。

2015年

- ・ 2月9日 植物園部会が開催された。
- ・ 3月4日 学術資源研究公開センター運営専門委員会が開催された。
- ・ 3月11日 植物園利用研究報告会が開催された。
- ・ 3月21日 開園。

植物園で発生した事故災害

2014年度に植物園で発生した事故のうち、重大な案件のみを以下で掲載した。例えば災害では物的被害で金額が大きいもの、事故では人的被害で入院や長期の加療が必要なもの、外部機関（警察、消防）へ通報したものを選んだ。

2014年4月～2015年3月

- ・ 5月5日 車両事故により、市道沿いフェンスが破損した。
- ・ 6月30日 倒木の恐れのある樹木が見つかったため、モミノキ道を通行止めとした。
- ・ 7月1日 学術資源研究公開センター運営専門委員会が開催された。
- ・ 7月31日 ゲリラ豪雨により、本沢下流域の園路が一部が流失した。
- ・ 8月23日 車両事故により、市道沿いフェンスが破損した。
- ・ 9月11日 集中豪雨により、本館ホールでの雨漏り、園内各所の観察路で冠水や砂利の流失が起きた。
- ・ 10月6日 台風18号により園内外で落枝が多数発生した。
- ・ 10月14日 台風19号による豪雨で本沢護岸の流出、園路の冠水、本館ホールの雨漏りが発生した。

② 八甲田山分園

- ・ 6月2日 開園。
- ・ 6月2日～4日 開園時(6/2)に管理棟脇の上水道の水道管の腐食のために水道が通じず、緊急工事が行われて4日に復旧した。
- ・ 7月、園内水源の沈砂池の蓋が永年腐食して問題になっていた部分の交換が行われた。
- ・ 7月15日～18日、本園技術職員による園内の整備が行われた(2名)。例年は2回行われるところが、今年は都合により1回のみとなった。
- ・ 7月31日、酸ヶ湯温泉周辺で温泉宿泊客の失踪事件が発生した。園内に迷い込んでいる可能性を考慮し捜索活動を行ったが、結局冬までに見つかっていない。
- ・ 10月23日、30日に基礎部分の腐朽が進んでいる実験棟東実験室について、理学研究科経理部による視察(10/23)および大学本部施設部による視察(10/30)が行われた。10/23の視察では、実験棟以外に園路の老朽化部分の視察も併せて行われた。
- ・ 10月31日 閉園。

(2) 植物園部会の開催

① 植物園部会

第1回

平成27年2月9日（月） 9：00～9：49

植物園長室

出席者：中静委員長（生命）、
高橋（生命）、西谷（生命）、杉山（キャンパス）、藤澤（埋文）、牧（学術資源）、
米倉（学術資源）、大山（学術資源）の各委員

議題

1. 報告事項

(1) 平成 26 年度植物園の諸活動

大山委員から、資料 1 に基づき、平成 26 年度の植物園の活動報告について、および、米倉委員から、資料 2 に基づき、八甲田分園の活動報告について報告があった。引き続き、大山委員から、資料 3 に基づき、入園者数について報告があった。

(2) 平成 26 年度植物園予算及び執行状況

大山委員から、資料 4 に基づき、平成 26 年度決算（見込み）について報告があった。

2. 審議事項

(1) 平成 27 年度植物園の諸活動計画

大山委員から、資料 5 に基づき、平成 25 年度事業計画について説明があり、中静委員長から諮り、これを承認した。

(2) 植物園長の選任について

中静委員長から、平成 27 年 3 月 31 日で現植物園長の任期満了に伴う次期植物園長候補者を選考するため、「植物園長選考に関する申し合わせ」に基づき、植物園長候補者選考委員会を設置したい旨の提案があり、これを承認した。

続いて、委員の選考を投票で行い、委員に牧、高橋、大山、西谷、杉山の各委員を選出した。

第 2 回

平成 27 年 2 月 9 日（月）9：50～9：52

共通講義室

出席者：牧、高橋、大山、西谷、杉山の各委員

議題

1. 審議事項

(1) 委員長の選出

委員の互選により、牧委員を推薦委員会委員長に選出した。

(2) 園長候補者の選出

審議の結果、中静委員を次期園長候補者として部会に推薦することとした。

(3) 学内外からの事業資金獲得状況

① 平成 26 年度全学的基盤経費

学術資源研究公開センターに配分された「学術資源研究公開センター公開事業に関わる経費」のうち、5,300 千円の交付を受けた。この経費は、天然記念物「青葉山」中心とする地域を保護管理しながら、一般に公開し、かつ各種社会教育事業を行うため使用された。具体的には、1) 「5 月 4 日は植物園の日、ふるさとの植物を守ろう」企画、2) 「紅葉の賀」企画、3) 一般公開に要する各種の維持管理・整備経費などに使用された。

② 学外助成金

1) 財団法人自然環境研究センターより 「学術研究の経費」1,463 千円 植物園が準コアサイトとして調査に参加しているモニタリングサイト1000の実施費用に用いられた。

2) 財団法人 カメイ社会教育振興財団より「社会教育等生涯学習の振興に関する活動に対する助成金」平成26年度東北大学植物園公開市民講座－ScholaBotanica2014－として190千円の助成を受けた。助成金は、講師旅費、広報などに使用された。

(4) その他

① 植物園会議

植物園の運営を協議する会議として、教員・技術職員・事務員で構成される植物園会議を原則として月 1 回開催している。平成 26 年度は、11 回の会議を開催した。

3. 収蔵・展示事業

(1) 資料標本等収蔵関連事業

東北大学植物標本室 (TUS) の 2014 年度における活動は以下の通りである。

① スタッフ

主任：中静 透，キュレーター：牧雅之（植物園本園），米倉浩司（八甲田山分園），大橋広好（名誉教授），根本智行（石巻専修大学），黒沢高秀（福島大学）

② 来訪者

2014 年度に植物分類・地理学，生態学，薬学などの研究のため本標本室に来訪し，利用した外来研究者はのべ 249 名(全て国内。上記キュレーターは含まない)あった。また，植物園スタッフを除く学内研究者はのべ 10 名あった。なお，上記外来研究者のうち 208 名は，2012 年 1 月から始まった宮城県植物誌作成のための標本調査に関わる宮城植物の会の会員である。

③ 標本の貼付状況

2014 年度には新たに 18,558 点の標本が貼付され標本庫に収められた。

④ 寄贈標本

2014 年度は以下の機関および個人より標本の寄贈を受けた。

- ・ 独立行政法人森林総合研究所：日本（岐阜県北部・福岡県北部）産木本植物の材鑑標本とその証拠標本計 360 点
- ・ 東京大学総合研究博物館 (TI)：ネパール産種子植物標本 210 点
- ・ 高知県立牧野植物園 (MBK)：ミャンマー産種子植物標本 381 点
- ・ 上野雄規（仙台市野草園）：東北地方おし葉展および宮城県おしば展出品標本 4,162 点
- ・ 池谷裕幸（独立行政法人果樹試験場）：日本産野生ナシ属植物 227 点
- ・ 鈴木三男（北海道標津町）：北海道産フクジュソウ属植物標本 15 点
- ・ 藤原陸夫（長野県自然保護研究所）：ミチノクサナギイチゴ基準標本 1 点
- ・ 薄葉満・根本秀一（福島県いわき市）：福島県産維管束植物標本 41 点
- ・ また，以下の機関に標本の寄贈を行った。
- ・ 国立科学博物館 (TNS)：日本および台湾産維管束植物標本 200 点

⑤ 標本交換

2014 年度は以下の国内 5 ヶ所，国外 1 ヶ所の研究機関から計 1,313 点の交換標本を受入れた。

- ・ West Virginia University (WVA)：103 点
- ・ 京都大学(KYO)：304 点
- ・ 大阪自然史博物館 (OSA)：282 点
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館(HYO)：182 点
- ・ 福井総合植物園(FUK)：286 点
- ・ 徳島県立博物館(TKPM)：156 点

以下の機関に交換標本の発送を行った。

- ・ 大本花明山植物園(OOM)：250 点
- ・ 京都大学総合博物館(KYO)：235 点
- ・ 兵庫県立人と自然の博物館(HYO)：480 点
- ・ 福井総合植物園(FUK)：500 点
- ・ 徳島県立博物館(TKPM)：200 点

⑥ 標本貸し出し

2014 年度は以下の機関に標本の貸し出しを行った。

- ・ 北京林業大学 (Prof. Z.-X. Zhang)：ヒマラヤ産ヤナギ科植物標本 8 点
- ・ Washington State University (Prof. L. Hufford)：スゲ属植物標本 164 点

(2) 展示関連事業

企画展

2014 年度は、新学術領域「植物細胞壁の情報処理システム」アウトリーチ活動への協力として、新学術領域「植物細胞壁の情報処理システム」（領域代表：西谷和彦 生命科学研究所教授）の出張

展示を4月25日～6月18日にかけて植物園展示室で開催した。期間中入園者数は、大人4769名、小人580名。

4. 教育・教育支援・普及教育活動

(1) 入園者統計等

① 本園

植物園では、通常3月の春分の日から11月30日にかけて本館の展示室および天然記念物「青葉山」を一般公開している。2014年は東日本大震災の復旧工事が3月に行われたため、4月1日からの開園となった。また復旧工事に伴い、震災(2011.3.11)以降一部を閉鎖して公開していた園路が全復旧した。またその後、危険木があったため7/1～8/6モミノキ道を閉鎖した。

この間、5/4植物園の日、6/7萩友会プレミアム懇談会(対象者のみ)、7/30～31オープンキャンパス(対象者のみ)、10/11ホームカミングデー(対象者のみ)、11/3紅葉の賀を無料開放とした。また8/14～17夏季休園、8/26(午後)クマ目撃情報による臨時閉園、8/11～14夏季休園、8/31設備点検による臨時休園とした。

植物園一般入園者数

有料入園者				無料入園者					合計
一般	団体	年間パス	小計	本学教職員学生	幼児	パスポート	青葉山その他	小計	
5,536	416	160	6,112	1,338	242	1,884	2,854	6,318	12,430

備考：無料入園者の「パスポート」は、植物園発行の「年間パスポート」・仙台市教育委員会発行の「どこでもパスポート」(青葉山ゲート入園を除く)、オープンキャンパスおよび校長より正式な依頼のあった「自主研修」による入場者を含む。

学内、学外の研究、教育などの利用を目的とした利用者を集計すると下表のようになる。

植物園利用者数

研究・教育・調査・資料調等		一般入園者	合計
学内利用者	学外利用者		
1,107	133	12,430	13,670

② 八甲田山分園

2014年度は、6月2日に開園し、10月31日に閉園した。この間、園内を無料で一般公開し、多数の入園者が訪れた。入園者の統計は無料入園でゲート等がないためにとることができない。また、後述する大学などの実習により以下のような研究者の利用があった。

2014年の利用研究者(のべ宿泊数)

実習(基礎ゼミも含む)教官:34名(うち東北大学18,以下()内は同じ)実習TA:10名(10)実習院生:5名(0)実習学生:125名(38)セミナー一般55名(0)セミナー学生2名(0)研究教官・PD:90名(72)研究院生:210名(208)研究学生:19名(17)技官他:6名(6)その他:0名(0)計603名(426)

(2) 学内教育との連携

① 本園

植物園は、植物園を舞台にしたフィールド調査、研究試料や研究情報の提供、講義・実習の場として、学内の研究者、学生に広く利用されている。2014年度においては、以下のような植物園の利用があった。

学内利用者数

研究・調査・資料調 等			講義・実習	合計
教員	大学院生	学生	学生 (延べ)	
5	0	1	1,101	1,107

植物園で実施された講義, 実習の科目名

科 目 名	人 数	備 考
理学部地学専攻 基礎ゼミ	200	20名×10回
教育学研究科 臨床心理学基礎実習	11	1回
高等教育開発推進センター 基礎ゼミ	11	1回
教育学部 社会教育主事講習	70	1回
文学研究科考古学専攻 集中講義	15	1回
理学研究科 博物館実習VI	8	1回
文学研究科心理学 卒論中間発表会	58	1回
史料館 日本の歴史・文化史講義	15	1回
文学研究科 心理学講座 卒論・修論発表会	60	1回
東北大学国際交流課異文化体験 プログラム (ロシア交流推進室)	13	1回
植物系統分類学分野セミナー	640	16名×40回
計	1,101	

② 八甲田山分園

2014年度は以下の学内の実習において八甲田山分園の利用があった。園内および八甲田山系の案内など実習支援を行った。

1. 東北大学植物生態学実習 7/26～7/30. 中静透教授, 彦坂幸毅教授, 黒川紘子助教. 学部3年次学生6名.
2. 東北大学植物分類学実習 8/4～8/6. 牧雅之教授, 大山幹成助教, 米倉浩司助教. 学部3年次学生7名.

(3) 学外機関の利用

① 本園

植物園は, 植物園を舞台にしたフィールド調査, 研究試料や研究情報の提供, 講義・実習の場として, 学外の研究者, 学生に利用されている。

学外利用者数 (延べ)

外来研究者	植物園関係者	計	その他	合計
29	0	29	104	133

【参考】: 外来研究者・植物園関係者・その他の所属機関等

区 分	所 属 機 関 等
外 来 研 究 者	北海道大学, 東北工業大学
植 物 園 関 係 者	—

その他	カメイ(株),バードリサーチ,仙台市交通局,一関市博物館,仙台市市民文化事業団,自然薬食微生物研究所 (NMI), 仙台市博物館,都市デザインワークス,東北大学環境保全センター, アジア航測, ブレック研究所
-----	--

また植物園では, 県内, 県外の小中高等学校の授業, および各種団体の研修などの協力依頼に対し, 園内および展示施設の解説・質疑応答等を適宜行っている。(遠足は除く)

利用区分	利用回数	利用人数	備考
オープンキャンパス	2	207	高校生
小学校	13	194	県内 5
中学校	8	105	県内 4
高等学校・専門学校	13	875	県内 5
その他	21	624	下記参照
計	57	2,005	

(内訳) 小学校：仙台市立人來田小学校 6 年 10 名、旭ヶ丘小学校 6 年 4 名、山形県長井市立長井小学校 6 年 9 名、岩手県花巻市立桜台小学校 6 年 5 名、岩手県紫波町上平沢小学校 6 年 10 名、鶴岡市立朝陽第六小学校 6 年 17 名、青森県おいらせ町立木下小学校 6 年 11 名、一関市立藤沢小学校 6 年 7 名、福島市立笹谷小学校 5 年 91 名、山形県庄内町立余目小学校 6 年 5 名、仙台市立幸町南小学校 6 年 7 名、仙台市立栗生小学校 8 名、仙台市立八乙女小学校 5 年 10 名

中学校：福島県猪苗代町立東中学校 2 年 6 名、福島県郡山市立第七中学校 2 年 6 名、利府中学校 1 年 6 名、福島県平野中学校 2 年 9 名、仙台市立郡山中学校 1 年 32 名、福島県天栄中学校 6 名、仙台市立山田中学校 1 年 38 名、仙台二華中学校 2 年 2 名

高等学校・専門学校等：仙台西高等学校 2 年 298 名、仙台コミュニケーションアート専門学校 5 名、仙台二華高校 2 年 256 名、東北文化学園こども未来科 27 名、尚絅学院高校 1 年 289 名

その他：里山の会 31 名、宮城県白石婦人会 39 名、ヤンググリーンスクール 20 名もえぎの会 10 名、東西線応援プロジェクト 209 名、NPO グリーンガーディアンズ 12 名、仙台広瀬市民センター 24 名、NPO 森林療法協会 27 名、NHK 文化センター福島教室 25 名、NHK 文化センター郡山教室 14 名、十和田市役所 10 名、太田・笹間振興センター山野草観察会 45 名、東北大生物学教室 OB 会 16 名、宮城教育大学 22 名、王子製紙 18 名、仙台市文化事業団イベント 20 名、東北会病院 30 名、JR 大人の休日倶楽部 17 名、水彩画こぶしの会 10 名、加瀬ウェルネスタウン 25 名

② 八甲田山分園

1) 他大学の実習

2014 年度は以下の他大学の実習において八甲田山分園の利用があった。園内および八甲田山系の案内・解説など実習支援を行った。

1. 弘前大学農学生命科学部生物学科生態環境コース実習 8/11-8/12. 石田清准教授. 大学院生(修士課程) 5 名.
2. 東京情報大学総合情報学部実習 8/24～8/28. 原慶太郎教授, 富田瑞樹准教授, S. Kevine 准教授. 学部 2 年学生 8 名, 3 年次学生 7 名.
3. 立正大学地球環境科学部実習 9/1～9/4. 米林仲教授. 学部 3 年次学生 9 名.

(4) 報道機関・一般社会人等への対応

① 報道機関への対応

- ・ 河北新報社 植物園ガイドウォーク掲載 2014年4月5日夕刊
- ・ 河北新報社 夕刊「まちかどブログ」の掲載 2014年4月23日夕刊
- ・ 仙台リビング社「仙台リビング」植物園の日 情報掲載 2014年4月26日
- ・ 河北新報社「仙台圏 Weekly」植物園の日 情報掲載 2014年4月29日
- ・ NHK、東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ 「植物園の日」取材 2014年5月4日放送
- ・ 河北新報社、朝日新聞社 植物園の日「ガイドツアー」掲載 2014年5月5日
- ・ 河北新報社「ガイドウォーク5月」募集案内掲載 2014年5月10日夕刊
- ・ 河北新報社「企画展：植物細胞壁のミクロの世界」掲載 2014年5月12日朝刊
- ・ 河北新報社「市民公開講座」募集案内掲載（津波震災関連）2014年5月23日朝刊
- ・ ミヤギテレビ「OH!バンデス」視聴者からの問合せ・回答 2014年9月4日放送
- ・ 河北新報 植物園の紹介 2014年11月夕刊掲載
- ・ ミヤギテレビ「OH!バンデス」視聴者からの問合せ・回答 2014年11月10日放送
- ・ 河北新報社「河北ウィークリー別冊」植物園情報掲載 2015年4月発行

② 一般社会人等への対応

- ・ JTBコミュニケーションズ 冊子「てくてくあおば」植物園掲載 2014年6月発行
- ・ リボンハーツクリエイティブ「レオパレス 21 会報誌」植物園紹介 2014年6月発行
- ・ 地下鉄東西線情報誌「まっくる」植物園紹介 Facebook への掲載 2014年10月
- ・ みやラボ！編集部 植物園紹介 HPにて掲載 2014年11月10日～
- ・ NHK「趣味の園芸」ビギナーズ 植物園施設紹介 2015年3月発行
- ・ せんだいメディアテーク発行「Diary」植物園の日イベント情報 2015年5月向け
- ・ 地下鉄東西線情報誌「まっくる」開園情報 Facebook への掲載 2015年3月20日

(5) 講演会・体験活動等

植物園が企画・実施または共催した企画と実施状況は以下の通りである。

① 植物園を利用したイベント

1) 植物園の日 「植物園に行こう」

平成26年5月4日 無料開園 参加者数：1,776名

奉納すずめ踊り、ミニ・コンサート、植物園ガイドツアー（午前の部・午後の部）
企画展示「植物細胞壁のミクロの世界」（4/25～6/19）

2) 植物園ガイドツアー「ガイドウォーク」（定員各10名×6回）参加者数：計62名

平成26年4月13日、5月18日、6月15日、9月14日、10月12日、11月16日

3) 植物園「こども植物観察会」平成26年8月10日実施 参加者数：9名（3組）

平成26年7月16日～7月31日（受付期間）

小学生を対象に植物のラベルやポスターを作成し、園内に掲示。

4) 植物園「市民公開講座」平成26年6月～11月

・ 自然史講座「津波が生物多様性に与えた影響」（全6回）参加者数：計298名

平成26年6月21日、7月19日、8月9日、9月20日、10月18日、11月15日

・ 植物画講座（各2日×2回）参加者数：38名（4日間延べ）

春の植物画講座 平成26年6月14日～15日、秋の植物画講座 10月25日～26日

5) 植物園・文学研究科共催 「紅葉の賀」

平成26年11月3日 無料開園 参加者数：278名

野点、尺八演奏、植物園内ガイドツアー、俳句会、公開講演会

② 植物園利用研究成果報告会

本学の教員、大学院生、学生、他大学、各種研究機関の研究者等が本植物園を利用して行っている各種研究について、その成果を取り纏め、また、研究成果の普及を計るために、平成9年度より「植物園利用研究成果報告会」を開催している。平成26年度は、H.27年3月11日に開催され、10件の研究発表が行われた。また、この利用研究発表会の要旨集である利用研究報告書には、

さらに4件の要旨掲載があった。

【プログラム】

日時：平成27年3月11日（水） 9：30～12：05

場所：東北大学植物園 講義室

9:30～9:35 開会の挨拶

9:35～9:50 盗蜜者がサワギキョウの蜜生産に及ぼす影響：盗蜜排除との比較から

*松原 豊¹・酒井聡樹¹

¹東北大・生命科学研究科

9:50～10:05 オクトリカブトにおける蜜分泌の花内ばらつき：雄期・雌期の花の分泌パターンとポリネーターの訪花行動

*安藤美咲¹・板垣智之¹・酒井聡樹¹

¹東北大・生命科学研究科

10:05～10:20 The effect of perianth existence after flower wilting on seed production in *Gentiana triflora* var. *japonica* (エゾリンドウにおける花期終了後の花被の存在の種子生産への影響)

*大場啓矢¹

¹東北大・生命科学研究科

10:20～10:35 環境条件によるブナ林の窒素循環の変動

*橋本桂佑¹、新井(田中)孝尚¹、黒川紘子²、中静透¹

¹東北大・生命科学研究科、²森林総研

10:35～10:50 多様な光環境に出現するキク科植物における、葉の形態と機能の関係

*見塩昌子¹・彦坂幸毅¹

¹東北大・生命科学研究科

10:50～11:05 葉緑体と核のマイクロサテライト解析を用いた八甲田山におけるスギのクローン繁殖の解明

*長谷川陽一¹・吉田明弘²・三嶋賢太郎³・米倉浩司⁴・高田克彦¹

¹秋田県大・木高研、²明大・黒耀石研究センター、³森林総研・林木育種センター、⁴東北大・植物園

11:05～11:20 東北大学植物園内を流れる小河川の晴天時における水質の経年変化

*水野俊¹・中山正与¹・木村浩大¹・井元将¹

¹東北工大・工学部

11:20～11:35 東北大学植物園内の亜炭を中心とする採掘坑調査

*伊達伸明¹・薄井真矢²

¹美術家、²(公財) 仙台市市民文化事業団

11:35～11:50 マドボタル (*Pyrocoelia*) の系統と琉球での異所的種分化

*遅沢壮一¹

¹東北大・理学研究科

11:50～12:05 ホタルと歩む暮らし 青葉山～広瀬川

松山正将¹・今野均²・*豊嶋純一³・菊地清文¹・阿部和正⁴

¹東北工大・工学部、²片平地区まちづくり会/片平地区連合町内会、³NPO法人都市デザインワークス、⁴榊秋元GC

【要旨のみ掲載】

・園内に発生するツクツクボウシタケをはじめとした冬虫夏草属

矢萩信夫¹・戸田真一¹・戸田真奈美¹

¹N. M. I. 自然薬食微生物研究所

・日本産の氷雪性クロロモナスの不動接合子の系統的位置と分類

松崎令¹・豊岡博子¹・原慶明²・野崎久義¹

- 1東京大・院理・生物科学、2山形大・基盤教育院
- ・八甲田山系における主要な土壌有機物分解者の分布パターン
小林真^{1,2}・黒川紘子³・新井(田中)孝尚³・三浦季子²・彦坂幸毅³・中静透³・金子信博²
- 1北大・北方生物圏フィールド科学センター、2横国大・環境情報研究院、3東北大・生命科学研究所
- ・平成26年度ライラック開花記録
門松昌彦¹
- 1北大・北方生物圏フィールド科学センター

(6) ニュースレター・ホームページ・出版

① 植物園ホームページ

2014 年度における植物園ホームページでは、季節の草花の写真、危険生物の情報、イベント開催の告知、参加者募集（例えば、「公開講座」「紅葉の賀」）などを随時掲載し、一般市民や東北大学教職員・学生が親しみを持って来園できるような広報活動を実施した。また、大雨警報発令時の臨時休園告知など、来園者への利便性を重視し、リアルタイムで植物園情報の発信を行った。

以下に 2014 年度に行われたホームページ管理・更新履歴を列挙する。

- [2014/4/1] 開園の告知を掲載。
- [2014/4/3] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/4/7] 春の植物園ガイドウォーク開催を告知。
- [2014/4/11] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/4/14] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/4/14] 5月4日（日）（みどりの日）に「植物園の日」の開催を告知。
- [2014/4/14] 企画展示「植物細胞壁のミクロの世界」の開催を告知。
- [2014/4/25] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/5/2] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/5/7] 園内の草花を更新しました。
- [2014/5/16] 2014 年度東北大学植物園公開市民講座の募集を告知。
- [2014/6/4] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/6/16] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/6/25] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/7/8] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/7/8] 8月10日（日）の「こども植物観察会」の開催を告知。
- [2014/7/8] 8月14日(木)～8月17日(日)および8月31日（日）の臨時休園を告知。
- [2014/7/28] 園内の危険生物情報を掲載。仙台七夕花火祭の交通規制に伴う開園時間の短縮を告知。
- [2014/8/11] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/9/1] 8月10日に開催された「こども植物観察会」の様子を「イベント報告」に掲載
- [2014/9/1] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/9/17] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/10/3] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/10/9] 11月3日（月）（文化の日）の東北大学市民キャンパス『紅葉の賀』開催を告知。
- [2014/10/29] 園内の草花の情報を更新。
- [2014/11/20] 冬期休園の告知。
- [2014/12/8] 平成 26 年 3 月 21 日（春分の日）より開園することを告知。
- [2015/3/23] 3/21（春分の日）から開園したことを告知。園内の草花の情報を更新。
- [2015/3/23] 5月4日（月）（みどりの日）「植物園の日」開催を告知。
- [2015/3/26] 春の植物園ガイドウォークを開催を告知。
- [2015/3/27] 「植物園の日」に合わせて本館で展示する植物画を一般公募を告知。

5. 全学・学部・大学院生への指導

(1) 授与した大学院学位

生命科学研究科博士前期課程（修士）（論文審査委員：主査）

木村拓真：広義アキノキリンソウ属の種内分化に関する分子集団遺伝学的研究

和氣勇介：栽培ギクとの交雑による野生キク属の遺伝子プール汚染

(2) 担当講義

① 全学教育

「生命科学概論」 第1 Semester 2 単位

「自然科学総合実験」 第2 Semester 2 単位 (12 回)

「博物館実習 IV」 集中講義 1 単位

② 学部専門教育（理学部）

「植物系統進化学」 第4 Semester 2 単位

「生物学へのアプローチ」 第2 Semester 1 単位の 1/12 (1 回)

「進化学実習」 第5 Semester 2 単位のうち、6 回

「生物学演習」 第6 Semester 2 単位のうち 1/2 (5 回)

③ 大学院教育（生命科学研究科）

「生態システム生命科学特論」 2 単位のうち 1/11 (1 回)

「生態学合同講義」 1 回

「植物系統分類学特論」 2 単位

6. 研究活動

(1) 研究支援活動

① 本園

1) 研究調査目的での利用研究申請

- ・ 自然環境変化に伴う昆虫相、蝶類分布の調査 亀井昭伍（カメイ株式会社）
- ・ インセクトイールドサイエンスの昆虫調査 遅沢壮一（東北大学大学院理学研究科）
- ・ ライラック開花観察 門松昌彦（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）
- ・ 環境省モニタリングサイト 1000 の準コアサイト調査の鳥類棲息状況調査 植田睦之（特定非営利活動法人 バードリサーチ）
- ・ 植物園内を流れる小河川および湧水の水質と流量の調査 中山正与（東北工業大学工学部）
- ・ 青葉山に分布するキク科およびアブラナ科草本種についての育成光環境の評価、葉の形態・機能的特性の調査 見塩昌子（東北大学大学院生命科学研究科）
- ・ 御清水湧水量調査 松山正将（東北工業大学工学部）
- ・ 地下鉄東西線事業に係る環境影響評価事後調査 高瀬朝子（仙台市交通局）
- ・ 森林土壌のメタン発生と吸収調査 野口拓水（東北大学理学部）
- ・ 東北大学植物園内の亜炭坑の調査 榎戸由樹（仙台市市民文化事業団）
- ・ 園内の冬虫夏草属の育成調査（N. M. I. 自然薬食微生物研究所）
- ・ 企画展「板木と和本の世界」展示のためのヤマザクラ材鑑標本の貸出（一関市博物館）
- ・ 特別展「樹木礼賛」展示絵画樹木同定他 遠藤俊行（仙台市博物館）
- ・ 青葉山公園で発見したホタルのいる沢の源流水質調査 豊嶋純一（都市デザインワークス）
- ・ スミヨシヤナギ、ロッコウヤナギ、ヒラオヤナギの苗木提供（一般財団法人住吉学園）

2) 技術職員による研究支援

- ・ 7月14日、植物系統分類学研究室の絶滅危惧植物移植（東松島市→本園内）に津久井孝博、関正典、小倉祐、大内匠が同行し技術支援を行なった。

3) ヤナギ園を利用した調査・研究

- ・ 9月2日から9月3日にかけて、植物系統分類学研究室に対しヤナギ科植物 60 種の葉を DNA

サンプルとして提供した。

4) 栽培植物受け入れ

一般公開用植栽植物の種苗育成のため以下の植物種子を受入れた。

ススヤアカバナ

採集地：宮城県

採集日時：2014年5月18日

採集者：牧 雅之 他

オトコエシ

採集地：岐阜県

採集日時：2014年6月23日

採集者：米倉浩司

ダイモンジソウ

採集地：岐阜県

採集日時：2014年6月18日

採集者：米倉浩司

イブキトラノオ

採集地：韓国慶尚南道

採集日時：2014年7月4日

採集者：米倉浩司

絶滅危惧植物の域外保全のため以下の植物苗を受入れた。

キクガラクサ

採集地：広島県

採集日時：2014年5月

採集者：牧 雅之

キブネダイオウ

採集地：京都府

カミコウチテンナンショウ

採集地：岐阜県

採集日時：2014年6月22日

採集者：米倉浩司

ハマサジ

採集地：宮城県

採集日時：2014年7月14日

採集者：小倉 祐, 他

ヒメバイカモ

採集地：宮城県

採集日時：2014年7月14日

採集者：小倉 祐, 他

② 八甲田山分園

1) 学内研究者

- ・ 中静 透 (教授) 高山生態系の脆弱性解明のための長期モニタリング
- ・ 黒川 紘子 (助教) 落葉分解における温暖化影響の予測
- ・ 田中 孝尚 (PD) 八甲田山の標高傾度による土壌窒素無機化の変化と温暖化影響の解析
- ・ 山本 希(准教授)：八甲田山系、特に地獄沼火口とその周辺の火山活動の長期モニタリング
- ・ 松原 豊(D3)：盗蜜者がサワギキョウの蜜生産に及ぼす影響：盗蜜排除との比較から
- ・ 大場 啓矢(M2)：The effect of perianth existence after flower wilting on seed production in *Gentiana triflora* var. *japonica* (エゾリンドウにおける花期終了後の花被の存在の種子生産への影響)
- ・ 安藤 美咲(M2)：オオヤマオダマキ・オクトリカブトにおける蜜分泌の花内ばらつき：雄期・雌期の花の分泌パターンとポリネーターの訪花行動

- ・ 関 色葉 (M2): 多雪山地における亜高山針葉樹林の個体群動態の制御要因
- ・ 橋本桂佑(M1) : The variation of nitrogen cycle in beech forest by environmental factor
- ・ 伊藤 美沙(B4):クゲヌマランの系統地理学的研究

2) 学外研究者

- ・ 野崎久義(東京大学,准教授) 日本産の氷雪性クロロモナスの不動接合子の系統的位置と分類
- ・ 高田克彦(秋田県立大学, 教授) 葉緑体と核のマイクロサテライト解析を用いた八甲田山におけるスギのクローン繁殖の解明
- ・ 長谷川陽一 ((秋田県立大学, PD) 本州北部地域におけるスギの系統地理学的研究
- ・ 吉田明弘(明治大学, PD) 本州北部高標高域におけるスギ異存個体群の歴史変遷の解析

(2) 研究活動

① 植物園及び植物系統分類学講座の研究教育活動 (教員の業績を除く)

1) 発表論文等

- ・ Yamada, T. and Maki, M. 2014. Floral morphology and pollinator fauna characteristics of island and mainland populations of *Ligustrum ovalifolium* (Oleaceae). *Botanical Journal of the Linnean Society* 174:489-501.
- ・ Yamada, T. and Maki, M. 2014. Relationships between floral morphology and pollinator fauna in insular and mainland populations of *Hosta longipes* (Liliaceae). *Plant Species Biology* 29: 117-128.
- ・ Hisatomi, H., Nakatani, Y., Takeuchi, K., Takahashi, F., Kataoka, H. 2014. Blue light-induced dimerization of monomeric aureochrome-1 enhances its affinity for the target sequence. *J Biol. Chem.* 289:17379-17391.
- ・ Kataoka, H. 2015. Gustav Senn (1875-1945): The pioneer of chloroplast movement research. *JIPB* 57: 4-13.
- ・ 小倉祐 2014. 東北大学植物園におけるヤナギ科植物系統保存についての現状報告. 日本植物園協会誌, 49, 97-102.
- ・ 岡崎智鶴子・小林和貴・三田直樹・金井豊・早坂英介・寺澤弘陽・米倉浩司・大山幹成・鈴木三男・吉光見稚代・毛利千香・御影雅幸 2014. マイクロ波と乾燥用特殊ユニットによる植物標本の迅速乾燥と吸水復元に関する解剖学的検討. ひがし大雪自然館研究報告, 1:9-14.
- ・ 小林和貴・鈴木三男 2014. 出土編組製品素材の同定方法. 国立歴史民俗博物館研究報告, 187 : 457-468.
- ・ 小林和貴・能城修一・佐々木由香・鈴木三男 2014. 良田平田遺跡出土編組製品の素材の植物種. 一般国道9号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XIV「良田平田遺跡」, 鳥取県教育委員会 : 453-456.
- ・ 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 2014. 一色青海遺跡出土編組製品等の素材の植物種. 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第186集「一色青海遺跡 III」, 愛知県埋蔵文化財センター : 144-151.
- ・ 小林和貴・鈴木三男 2015. 仙台中在家南遺跡から出土した樹皮製品等の植物種. 仙台中在家文化財調査報告書第434集「中在家南遺跡第6次調査ほか - 仙台市荒井西土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 -」, 仙台市教育委員会 : 91-97.
- ・ 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 2015. 三内丸山遺跡出土編組製品等の素材植物. 青森県埋蔵文化財調査報告書第557集「三内丸山遺跡42 - 旧野球場建設予定地発掘調査報告書15北の谷(2) -」, 青森県教育委員会 : 134-151.
- ・ 能城修一・佐々木由香・小林和貴・鈴木三男 2015. 神谷地遺跡から出土した木材の樹種. 横手市文化財調査報告第32集「神谷地遺跡・小出遺跡」, 横手市教育委員会 : 463-465.

2) 学会等での発表

- ・ 小倉祐 2014. 東北大学植物園におけるヤナギ科植物系統保存についての現状報告. 日本植物園協会第49回大会研究発表会, 富山, ポスター, 2014年6月13日.
- ・ 佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一 2014. 縄文・弥生時代遺跡出土編組製品素材の考古植物学的研究 - タケ・ササ類の加工. 日本文化財科学会第31回大会, 奈良, 口頭発

表、2014年7月5-6日。

- 鈴木三男・小林和貴・能城修一・佐々木由香 2014. 縄文時代の樹皮利用 - 桜皮と樺皮 - . 第29回日本植生史学会大会、鹿児島、口頭発表、2014年11月22-23日。
- 佐々木由香・米田恭子・小林和貴 2014. 遺跡出土鱗茎同定のための識別方法. 第29回日本植生史学会大会、鹿児島、口頭発表、2014年11月22-23日。
- 山田孝幸・國府方吾郎・牧雅之 2014. 隔離分布種モクレイシ（ニシキギ科）における分子系統地理. 植物学会第78回大会. 生田. 口頭発表、2014年9月12日。
- 木村拓真・山田孝幸・阪口翔太・伊藤元巳・牧雅之 2015. 伊豆諸島におけるアキノキリンソウ属植物の複数回移入と遺伝的分化. 日本植物分類学会第14回大会、福島、口頭発表、2015年3月6日。
- 和氣勇介・山城考・米倉浩司・牧雅之 2015. 栽培ギクとの交雑による野生キク属3種における遺伝子プールの汚染. 日本植物分類学会第14回大会、福島、口頭発表、2015年3月6日。
- 五十島賢太・辻田有紀・今市涼子・樋口正信・牧雅之 2015. ナンジャモンジャゴケは共生菌を持つか？-茎の内外に見られる密な菌感染. 日本植物分類学会第14回大会、福島、ポスター発表、2015年3月6-7日。
- 伊藤美紗・辻田有紀・遊川知久・牧雅之. 2015. 絶滅危惧植物クゲヌマランの地理的分化と共生菌相の解明. 日本植物分類学会第14回大会、福島、ポスター発表、2015年3月6-7日。

3) 招待講演・講師等

小林和貴. 第70回企画展「科学で読み解け！環境絵巻～氷河期の森から縄文の森へ～」関連ワークショップ. 仙台市富沢遺跡保存館. 2014年11月30日。

(2) モニタリングサイト1000

モニタリングサイト1000とは、平成14年に策定された新・生物多様性国家戦略に基づき環境省生物多様性センターが中心となって行っている調査で、全国1000カ所の調査サイトで長期にわたる継続的なモニタリングを行って、自然環境データを収集、蓄積し、そのデータを分析することにより、自然環境の移り変わりを捉え、迅速かつ適切な保全対策につなげることを目指している。天然記念物「青葉山」は、この調査における森林サイトの準コアサイトとして選定され、平成17年度より調査を開始した。平成26年度は、前年度に引き続いてリタートラップによる森林生産量の測定、ピットホールトラップによる昆虫の調査を行った。調査の概要は以下の通りである。

調査内容：リタートラップ調査	12回
ピットホールトラップ調査	4回
落葉層調査	1回

(3) 研究資金受託状況

鈴木 三男（名誉教授、協力研究員）

H25～27 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤（A））「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」代表者 9,360,000円（直接経費7,200,000円、間接経費2,160,000円）

H26 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤（A））「縄文時代前半期における森林資源利用体系の成立と植物移入の植物学的解明」研究分担（代表者 能城 修一森林総合研究所木材特性研究領域チーム長）260,000円（直接経費200,000円、間接経費60,000円）

H26 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤（A）海外学術調査）「中国における年の生成一良渚遺跡群の学術総合研究」研究分担（代表者 中村 慎一金沢大学教授（520,000円（直接経費400,000円、間接経費120,000円）

片岡 博尚（協力研究員）

H24～26 日本学術振興会学術研究助成基金助成金（挑戦的萌芽研究）「オーレオクロムが関与する褐藻の光反応の解明」代表者 1,237,537円（直接経費967,537円、間接経費270,000円）

V. 教員の研究教育活動

1. 総合学術博物館

柳田 俊雄（教授）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

全学教育：「基礎ゼミ」, 「現代学問論」

学部専門教育：「考古学各論」, 「考古学研究実習Ⅰ」, 「考古学研究実習Ⅱ」

大学院教育：「博物館資料論特論」, 「考古学研究実習Ⅰ」, 「考古学研究実習Ⅱ」

学芸員課程科目：「博物館学Ⅱ（博物館資料論）」

(2) 学生指導・授与した学位

文学研究科博士前期課程（修士）

（最終試験委員）1人

2. 研究活動

(1) 研究の概要

- 1) 大学院文学研究科考古学研究室の院生、学生を山形県新庄市白山E遺跡（2次調査）で旧石器調査の指導。
- 2) 日本列島内の前・中期旧石器時代の変遷を解明する研究（群馬県鶴ヶ谷東遺跡出土の石器群の分析と研究）。
- 3) 星野遺跡の旧石器資料の分析（栃木市にある星野遺跡記念館へ前期旧石器資料の調査と、関東地方の後期旧石器時代に先行する時期の研究をおこなうため、当地方のローム層と石器群の関係を整理する）。
- 4) 日本列島の地域性の解明研究のため、香川県埋蔵文化財センターと高知県埋蔵文化財センターで後期旧石器時代の資料を調査。

(2) 学術論文等

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

- 1) 群馬県鶴ヶ谷東遺跡発掘調査の研究報告－日本前期旧石器時代の研究－
『Bulletin of the Tohoku University Museum No. 15』 pp. 201-274
共著（文学研究科阿子島 香教授と共に）。
- 2) 「九州地方における洞穴遺跡の研究－長崎県福井洞穴第三次発掘調査報告書－」
『Bulletin of the Tohoku University Museum No. 15』 pp. 5-190
共著（文学研究科鹿又喜隆准教授他と共に）。
- 3) 「岩宿遺跡D地点最下層出土の石器」
『斬新考古－特集：芹沢長介先生没後10年－芹沢学の底流をゆく－第3号』 pp. 19～21

< 調査報告書など >

3. 大学運営，学会運営，社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 学術資源研究公開センター 博物館館長・運営委員
- 2) 総合学術博物館展示専門委員会：委員長
- 3) 総合学術博物館運営委員会，同収蔵専門委員会：委員
- 4) 東北大学総合学術博物館紀要 編集委員
- 5) 埋蔵文化財調査研究センター運営委員会，同専門委員会：委員

(2) 学外委員

- 1) 福島県教育委員会「福島県立博物館収集展示委員」：委員
- 2) 東北日本旧石器文化を語る会：世話人代表（会長）

- (3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動
- (4) 所属学会
日本考古学協会，東北史学会，東北日本の旧石器文化を語る会，宮城県考古学会，旧石器文化談話会
- (5) その他
1) 宮城県気仙沼市台ノ下貝塚の3D撮影に参画
(宮城県教育委員会文化財保護課の調査)

西 弘嗣 (教授)

1. 教育活動

- (1) 学内教育への参加 (協力教員，兼務教員を含む)
 全学教育科目：地球環境変遷特論 (分担)，博物館実習 VI
 専門教育科目：日本の地質誌，島弧の進化と環境 (分担)，博物館学 II (分担) 「セミナー」 (分担)，課題研究
 大学院科目：地球環境科学概論，セミナー (分担)，課題研究

(2) 学生指導・授与した学位

理学部卒業論文指導

- 品田 拓真：ニューファンドランド沖コアの浮遊性有孔虫化石・炭素同位体比統合層序と白亜紀の気候変動

理学研究科博士前期課程 (修士)

(論文審査委員：主査)

- 木原 辰之：定量 X 線 CT 法を用いたセジメントトラップ試料解析にもとづく浮遊性有孔虫 *Globigerina bulloides* の殻成長・溶解度モデル

(論文審査委員：副査)

- 加藤ひかる：異なる地質体に属する複数のチャートセクションにおける後期三畳紀コノドントの生層序学的研究
 小川 草平：フランスボコンチアン堆積盆地に露出する海洋無酸素事変 OAE1b の高分解能解析
 尾松 圭太：北海道白亜系蝦夷層群における底生有孔虫化石群集解析
 條 将太：上部白亜系久慈層群の炭素同位体比層序と U-Pb 年代
 小形 優加里：ベトナム北部における後期デボン紀大量絶滅時近傍の炭素同位体比層序と古環境変動
 山田 憲司：南中国湖北-湖南地域におけるエディアカラ紀とその前後の海洋環境変動

(最終試験委員)

- 梅田 朋佳：下北半島尾駁沼の海跡湖沼堆積物による古環境復元
 小沢 光幸：Contact Electrification Generated by Crack Propagation in Semiconductor Minerals (半導体鉱物内のクラック進展に伴う接触帯電)
 佐藤 哲郎：A New Magnetic Relaxation Dating and Mobilization Frequency for Tsunami Boulders of Corals (新しい磁気緩和による年代決定法・移動周期決定とそのサンゴ礁起源の津波石への応用)
 玉井 速汰：Contact States of Microcracks in Rocks and Elastic Wave Velocity (岩石のクラックの接触状態と弾性波速度)
 新村 碧：奄美大島産ミドリイシ属サンゴの系統分類と形態との比較
 平田萌々子：Frictional Instability of Simulated Fault Gouge Based on Rowe's Theory (Rowe の法則に基づく模擬断層ガウジの摩擦不安定性)
 三國屋しおり：月アナログ岩石の誘電特性と月面地下構造探査への応用

理学研究科博士後期課程（博士）

（論文審査委員：主査）

小安 浩理：Cretaceous Radiolarian Biostratigraphy in the Northwest Pacific Ocean（北西太平洋における白亜系放射虫化石層序）

（論文審査委員：副査）

齊藤 諒介：Biotic and Ocean-redox Changes in the Aftermath and Recovery Following the End-Permian Mass Extinction（ペルム紀末大量絶滅直後から回復期における生物と海洋酸化還元状態の変動）

2. 研究活動

(1) 研究概要

① 白亜紀～第四紀の古環境変動

ニューファンドランド沖，赤道太平洋，南海トラフ等のIODP コア試料を用いて，各種微化石（浮遊性有孔虫，底生有孔虫，石灰質ナノ化石，渦鞭毛藻シスト化石など）の群集解析を行い，白亜紀から第四紀に至る海洋環境変動の研究を行った。

② 白亜系～第四系の層序学的研究

北海道の白亜系蝦夷層群，白亜系～古第三系根室層群，古第三系音別層群および幌内層群，岩手県の白亜系久慈層群，フランス Vocontian Basin の白亜系に対して，各種微化石層序（浮遊性有孔虫，底生有孔虫，石灰質ナノ化石，渦鞭毛藻シスト化石など），炭素同位体比層序，オスミウム同位体比層序，凝灰岩のU-Pb年代測定を行い，高精度の年代モデルを構築した。

③ 震災遺構の3次元クラウドデータに関する研究

岩手県および宮城県各地の東日本大震災の被災遺構に対して3次元クラウドデータ化を行い，バーチャルリアリティシステム上に再現する事業を行った。

(2) 学術論文等

（論文）

< ISI 登録誌 >

- 1) K. M. Matsuzaki, H. Nishi, H. Hayashi, N. Suzuki, B. R. Gyawali, M. Ikehara, T. Tanaka, R. Takashima (2014): Radiolarian biostratigraphic scheme and stable oxygen isotope stratigraphy in southern Japan (IODP Expedition 315 Site C0001). *Newsletters on Stratigraphy*, vol. 47/1, p. 107–130.
- 2) K. M. Matsuzaki, H. Nishi, N. Suzuki, G. Cortese, F. Eynaud, R. Takashima, Y. Kawate, T. Sakai (2014): Paleooceanographic history of the Northwest Pacific Ocean over the past 740 kyr, discerned from radiolarian fauna. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, vol. 396, p. 26–40.
- 3) K. M. Matsuzaki, H. Nishi, N. Suzuki, Y. Kawate, R. Takashima, T. Saka (2014) *Cycladophora davisiana* abundances as a paleooceanographic and stratigraphic tool in high latitude siliceous sediments. *Marine Micropaleontology*, vol. 106, p. 1–9.
- 4) H. Palike, M. W. Lyle, H. Nishi, I. Raffi (2014): The Pacific Equatorial Age Transect: Cenozoic ocean and climate history (Integrated Ocean Drilling Program Expeditions 320 and 321. In Ruediger Stein, Donna K. Blackman, Fumio Inagaki and Hans-Christian Larson eds. Earth and Life Processes discovered from seafloor environments. *Developments in Marine Geology*, vol. 7, p. 329–357, Elsevier.（査読あり）

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

- 1) 西 弘嗣 (2014), IODP Expedition 320/321--赤道太平洋 Age Transect 航海 (Pacific Equatorial Age Transect: PEAT) の成果--地球, 号外, 統合国際深海掘削計画 (IODP) --2003 年から 10 年の成果--: 上巻, , 64, 119–130, 海洋出版.
- 2) 西 弘嗣・梅津慶太・川幡 穂高 (2014), 深海掘削計画のこれまでの総括と今後の展望, 地球,

(3) 学会講演

<国際会議>

- 1) Nishi, H., Takashima, R., Yamanaka, T., Orihashi, Y., Hayashi, K. (2014), Integrated Stratigraphy and U-Pb ages of the Cretaceous Yezo Group, exposed in Hokkaido, Japan. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.
- 2) Du Vivier, A. D. C., Selby, D., Condon, D. J., Takashima, R., Nishi, H. (2014), High-resolution $^{187}\text{Os}/^{188}\text{Os}$ isotope stratigraphy and $^{206}\text{Pb}/^{238}\text{U}$ zircon geochronology reveal and verify the global occurrence of OAE 2: Yezo Group, Hokkaido, Japan. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.
- 3) Ando, T., Sawada, K., Takashima, R., Nishi, H. (2014), Primary producer community during the mid-Cretaceous oceanic anoxic events (OAEs) evaluated from algal biomarkers in sediments deposited in the Vocontian Basin, SE France. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.
- 4) Magtoto, C. Y., Fernando, A. G. S., Takashima, R., Nishi, H., Tomosugi, T. (2014), Calcareous nannofossil biostratigraphy of the Cenomanian-Turonian Oceanic anoxic event 2 (OAE 2) record in California, USA. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.

<国内会議>

- 1) 西 弘嗣・小川 草平・高嶋 礼詩・桑原 義博 (2014), 海洋無酸素事変 1b 発生時の環境変動. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 2) 高嶋 礼詩・桑原 里・折橋 裕二・西 弘嗣 (2014), 重鉍物化学組成を用いた白亜紀凝灰岩の対比. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 3) 中村 英人・沢田 健・安藤 卓人・高嶋 礼詩・西 弘嗣 (2014), 北海道朱鞠内川セクションの Cenomanian-Turonian 境界イベント層準で見出された負の $\delta^{13}\text{C}$ エクスカーションにともなう陸上植生変動. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 4) 安藤 卓人・中村 英人・沢田 健・高嶋 礼詩・西 弘嗣 (2014), 北海道苫前地域に分布する蝦夷層群 Cenomanian/Turonian 境界堆積岩の有機地球化学分析による堆積環境・海洋生産変動の復元. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 5) 安藤 卓人・沢田 健・高嶋 礼詩・西 弘嗣 (2014), 南東フランス、白亜系海洋無酸素事変層準の黒色頁岩のパリノモルフ分析--海洋基礎生産者に注目して-- . 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 6 月 29 日, 鹿児島.
- 6) 西弘嗣・高嶋礼詩・山中寿朗・折橋裕二・林圭一 (2014), 北海道の白亜系~漸新統の微化石・炭素同位体比層序・U-Pb年代と温室期北西太平洋の古環境イベント. 日本古生物学会, 2014年6月29日, 福岡.
- 7) 白井孝明・鈴木紀毅・高嶋礼詩・西弘嗣・井龍康文・小川草平・高柳栄子 (2014), 南東フランス・Vocontian堆積盆地における下部-上部白亜系境界付近の放散虫生層序の検討. 日本古生物学会, 2014. 6. 29, 福岡.
- 8) Matsuzaki, K. M., Suzuki, N., Nishi, H., Takashima, R. (2014), Middle to Late Pleistocene radiolarian biostratigraphy and new species descriptions in the north-eastern margin of Japan. 日本古生物学会, 2014. 6. 29, 福岡.
- 9) 西弘嗣・高嶋礼詩・山中寿朗・折橋裕二・林圭一・金綱将也 (2014), 北西太平洋における白亜系-古第三系の層序と古環境変動の復元における意義, 2014 年地球惑星連合大会, 4 月 28 日, 横浜.

(4) 国際研究集会等・共同研究への参加

【学術調査・渡航】

【共同研究実施状況】

- 1) 北海道大学・サンクトペテロブルク州立大学（露）：北海道の白亜紀堆積物およびフランスの白亜紀海洋無酸素事変に関する共同研究および白亜紀・第四紀コケムシ化石の共同研究.
- 2) 国立プラハ博物館（チェコ）：暁新世～鮮新世における日本とヨーロッパのコケムシ化石群集の比較に関する共同研究.
- 3) パリ第11大学（仏）・ブレーズパスカル大学（仏）：北海道の白亜系凝灰岩の Ar/Ar 年代に関する共同研究.
- 4) ダラム大学（英）：北海道の白亜系のオスミウム同位体比に関する研究.
- 5) 岡山大学：日本の白亜系堆積物の炭素同位体変動に関する共同研究.
- 6) 東京大学地震研究所：日本の白亜系の U-Pb 年代に関する共同研究.
- 7) 北海道教育大学釧路校：白亜系篠山層群の統合層序に関する共同研究.
- 8) 熊本大学：白亜系姫浦層群の統合層序およびベトナムのデボン紀・石炭紀境界に関する共同研究.
- 9) ゲーテ大学（独）：フランスの白亜紀石灰質ナノ化石に関する共同研究.

【外国人研究者受入状況】

- 1) 平成26年4月2日～6月30日にかけて、スクリプス海洋研究所の Richard D. Norris 教授を学術資源研究公開センター客員教授として受け入れた.

(5) シンポジウム・研究集会の開催など

- 1) 2015年1月17日：神奈川県立生命の星・地球博物館において「地震津波シンポジウム・特別企画展示～かながわ発！地震・津波から命を守る～」を実施.
- 2) 2015年3月14-17日：国連防災会議において震災遺構の特別展を実施.

(6) 研究資金受託状況

- 1) 基盤研究A（一般） 代表, 「北太平洋における極限温室期の全環境復元」. 直接経費 3,800,000 円. 間接経費 1,140,000 円. 課題番号：24244082.
- 2) 基盤研究S, 分担, 「地球表層システムにおける海洋酸性化と生物大量絶滅」 直接経費 200,000 円. 間接経費 60,000 円. 課題番号：22224009
- 3) 受託研究 独立行政法人海洋研究開発機構, 「Expedition 320, 321 による新生代以降の赤道太平洋の古環境・古気候の変遷の解明」. 1,499,906 円.

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 学術資源研究公開センター センター長
- 2) 広報戦略会議委員
- 3) 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員
- 4) 総合学術博物館部会委員
- 5) 理学部附属自然史標本館館長

(2) 学外委員

- 1) 日本古生物学会・評議員
- 2) 日本古生物学会・常務委員
- 3) 日本地質学会代議委員
- 4) Island Arc 編集委員
- 5) 地球惑星連合財務委員会委員
- 6) 地球惑星連合理事
- 7) 日本地球掘削科学コンソーシアム (J-DESK) 会長
- 8) 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 IPA 小委員会 委員
- 9) 日本学術会議連携会員

(3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動

- 1) 2014年3月16日, 東北大学片平さくらホールにおいてシンポジウム「震災残すべき記憶とかた

ち～震災の経験・記憶をどのように伝えいくか～」を実施した。

- 2) 2014年3月23日、高知県立高知追手前高校芸術ホールにおいて、防災シンポジウム「高知から南海・東南海地震を考える」震災に対して国土を強靱化するにはどうすべきかーを実施した。
- 3) 2014年7月29日 神奈川県小田原市の東日本大震災スタディーツアーに協力。

(4) 所属学会

日本地質学会, 日本古生物学会, 日本堆積学会, 東京地学境界, 日本地球惑星科学連合学会,
Geological Society of America, American Geophysical Union

佐々木 理 (准教授)

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

専門教育: 「地球の科学」(分担), 「地圏情報解析学」(分担), 「地圏情報解析学実習」(分担), 「野外実習 II」, 「進化古生物学」(分担), 「セミナー」(分担), 「地学実験」(分担), 「課題研究」
大学院教育: 「群集進化学特論」(分担), 「セミナー」(分担), 「課題研究」
その他: 短期留学生プログラム (分担)

(2) 学生指導・授与した学位

理学部卒業論文指導 (副)

兼子 義高: 日本と韓国における化石ハマグリ類の貝殻形態解析

小原 健: 仙台地域の名取層群における高精細テフノロジー層序の確立

理学研究科博士前期課程 (修士)

(論文審査委員: 副査)

木原 辰之: 定量 X 線 CT 法を用いたセジメントトラップ試料解析にもとづく浮遊性有孔虫 *Globigerina bulloides* の殻成長・溶解度モデル

(最終試験委員)

梅田 朋佳: 下北半島尾駱沼の海跡湖沼堆積物による古環境復元

小形優加里: ベトナム北部における後期デボン紀大量絶滅時近傍の炭素同位体比層序と古環境変動

小川 草平: フランスボコンチアン堆積盆地に露出する海洋無酸素事変 OAE1b の高分解能解析

小沢光幸: Contact Electrification Generated by Crack Propagation in Semiconductor Minerals(半導体鉱物内のクラック進展に伴う接触帯電)

尾松 圭太: 北海道白亜系蝦夷層群における底生有孔虫化石群集解析

加藤ひかる: 異なる地質体に属する複数のチャートセクションにおける後期三畳紀コノドントの生層序学的研究

佐藤 哲郎: A New Magnetic Relaxation Dating and Mobilization Frequency for Tsunami Boulders of Corals (新しい磁気緩和による年代決定法・移動周期決定とそのサンゴ礁起源の津波石への応用)

條 将太: 上部白亜系久慈層群の炭素同位体比層序と U-Pb 年代

玉井 速汰: Contact States of Microcracks in Rocks and Elastic Wave Velocity (岩石のクラックの接触状態と弾性波速度)

新村 碧: 奄美大島産ミドリイシ属サンゴの系統分類と形態との比較

平田萌々子: Frictional Instability of Simulated Fault Gouge Based on Rowe's Theory (Rowe の法則に基づく模擬断層ガウジの摩擦不安定性)

三國屋しおり: 月アナログ岩石の誘電特性と月面地下構造探査への応用

山田 憲司: 南中国湖北-湖南地域におけるエディアカラ紀とその前後の海洋環境変動

2. 研究活動

(1) 研究概要

1) デジタル標本システムデータベース「e-Foram Stock」の開発

95年のInternet元年以降、急速なInternet技術の発展と普及により、あらゆる情報環境を急激に変化させつつある。総合学術博物館では、博物館発足以来、博物館における標本研究の新しいコア技術として次世代型標本システムの開発とそれを用いた分類研究法の研究を行ってきた。08年度はデジタル標本のインターネット配信のための実験サイト「e-Foram Stock」を構築し、実験公開 (<http://webdb2.museum.tohoku.ac.jp/e-foram/index.html>) を開始した。システム構築では、主にデジタル標本ソフト配信方法、デジタル標本規格及び著作権調整、WWW ページデザイン、データベース検索ソフト開発、デジタル標本製作とデジタル標本データベース構築を行った。

2) マイクロフォーカス X 線 CT 断層像の高画質化法の開発

X 線 CT 装置による標本撮影法を確立するために、断層像の画質を空間解像度、コントラスト及びノイズの評価アルゴリズムを検討した。特に、X 線検出器のノイズ特性及び S/N 比に注目し、ノイズ発生原因を検討し、その低減法を提案した。

3) 浮遊性有孔虫殻形態計測法の開発

現生浮遊性有孔虫の分子生物学的研究は、このグループの少なくない形態的種から複数の遺伝的に異なる隠蔽種を報告している。このことは、従来の形態種の再検討が必要であることを示している。形態種の再検討のため、CT 断層像スタックデータに基づく分類形質の 3 次元形態計測法を開発し、浮遊性有孔虫 *Globoconella* 属と *Neogloboquadrina* 属の進化系列を対象として、その有効性の評価を行った。

4) X 線 CT 技術を用いた海洋の炭酸イオン濃度指標の確立

X 線 CT を用いて浮遊性有孔虫・翼足類の殻密度、特に、成長・殻形成・溶解等による密度変化の定量計測法の開発のための基礎的研究を行い、北極海及び北太平洋における海洋酸性化の影響の定量評価を行った。

5) エディアカラ紀・カンブリア紀産動物胚化石の内部構造解析

X 線 CT 及び CG を用いて動物胚化石内部構造を解析し、動物進化初期の動物胚発生過程の再構築を行った。

6) 考古遺物等の内部構造解析

X 線 CT 及び CG を用いて土偶等の考古遺物の内部構造を解析し、その製作過程の再構築を行った。

7) 火成岩等岩石の内部構造解析

X 線 CT 及び画像解析を用いて火成岩等岩石の内部構造を解析し、その成因について考察した。

8) 岩石堆積構造の 3 次元構造解析

X 線 CT 及び画像解析を用いて頁岩の堆積構造を解析し、その成因について考察した。

(2) 学術論文等

<ISI 登録誌>

1) S. Okumura and O. Sasaki, 2014

Permeability reduction of fractured rhyolite in volcanic conduits and its control on eruption cyclicality. *Geology*, doi:10.1130/G35855.1

<ISI 登録誌以外の査読付き学術論文>

1) 片岡太郎・上条信彦・鹿納晴尚・佐々木理・柳澤和明 2015

宮城県大崎市根岸遺跡出土籃胎漆器の製作技法：X 線 CT 分析を使った構造調査，東北歴史博物館研究紀要，16 号 (p. 53 - 58)

(3) 学会発表・講演等

<国際会議>

1) T. Nakamoto, E. Takahashi, A. Tsuda, K. Nishida, W. Okui, T. Yokoyama, Y. Yanagida, S. Okumura, M. Nakamura, and O. Sasaki, Three-dimensional external shape and internal structure of chondrules in Allende CV3 chondrite. *77th Annual Meteoritical Society Meeting*, Casablanca, 2014.9.8-9.13

2) Uno, H., Kawabe, S., Kaneko, N., H. Kanou and O. Sasaki “Description on the middle ear cavity of

Desmostylus (Mammalia: Afrotheria) using high-resolution x-ray micro CT scan” *Society of Vertebrate Paleontology, 74th Annual Meeting*, Berlin, November 2014

- 3) L. Charrieau, P. L. Schoon, M. Chierici, J. Groeneveld, K. Kimoto, E. Kritzberg, K. Ljung, O. Sasaki, T. Toyofuku, and H. L. Filipsson, Zombie foraminifera reveal impacts of ocean acidification in the Baltic Sea. *Aquatic Sciences Meeting* 2015, Granada, 2015.2.22-27

<国内会議>

- 1) 中村美千彦・奥村聡・吉田武義・佐々木理・高橋栄一、マントル捕獲岩中の粒間流体形状：岩石物性に対する効果。 *日本地球惑星科学連合2014大会*, 横浜, 2014.4.28-5.2
- 2) 岩崎晋弥・木元克典・佐々木理・鹿納晴尚・本多牧生・岡崎裕典, X線CTを用いた浮遊性有孔虫殻 *Globigerina bulloides* の溶解プロセス。 *日本地球惑星科学連合2014大会*, 横浜, 2014.4.28-5.2
- 3) 山田 稜・岡本 敦・最首花恵・中村美千彦・奥村 聡・佐々木理・土屋範芳, 地殻流体からのシリカ析出によるき裂閉塞：水熱実験とモデリングからの考察。 *日本鉱物科学会2014年年会*, 熊本, 2014.9.17-19
- 4) 大槻静香・中村美千彦・奥村聡・佐々木理, 表面張力によるメルトフォームの組織緩和実験：試料サイズ依存性。 *日本火山学会2014年度秋季大会*, 2014.10.28-11.5
- 5) 柏木晴香・木下峻一・佐々木理・梶村 恒, 森林性ネズミの虫害堅果選好性を解明する新たな試み—CT スキャンによる内部状態の非破壊的解析に基づく供試実験—。 *第126回日本森林学会大会*, 札幌, 2015.3.26-3.29

(4) 研究資金受託状況

- | | |
|------------------------|-------------|
| 1) 科学研究費補助金・基盤研究(C)・分担 | 200,000 円 |
| 2) 共同研究・コムスキャンテクノ | 2,794,000 円 |
| 3) 研究助成金・カメイ財団 | 300,000 円 |

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動など

(1) 学内委員等

- ・広報連絡会議委員
- ・情報シナジー機構情報システム利用連絡会議委員
- ・学術資源研究公開センター運営専門委員会委員
- ・総合学術博物館部会委員

(2) 学外委員等

- ・仙台市文化財保護審議委員
- ・南三陸町天然記念物歌津魚竜化石・産出地整備委員
- ・宮城県被災文化財等保全連絡会議・幹事

(3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動

- 1) 子どもゆめ基金助成事業自然観察会「南三陸町フィールドミュージアム」9月20日～21日, 南三陸町平成の森コミュニティ図書館・魚竜
- 2) 南三陸町教育委員会主催：ふるさと学習会講師。南三陸町歌津。10月7日。
- 3) 国連防災会議関連スミソニアン自然史博物館共催展示「余儀なき旅路」, 3月14日～18日。

(4) 所属学会

日本古生物学会, 日本地質学会, 日本進化学会, 日本博物科学会, 日本昆虫学会, 日本博物科学会

長瀬 敏郎 (准教授)

1. 教育活動

- (1) 学内教育への参加

専門教育科目：造岩鉱物学（分担），鉱物結晶学，地球物質科学概論（分担），野外調査実習（分担），課題研究（分担）
大学院科目：鉱物構造論特論 I，鉱物成因論特論 I，鉱物学特選講義 II（分担）

2. 研究活動

(1) 研究概要

低温熱水から生成するアモルファス・結晶中間体の構造と挙動鉱物の微細組織の観察・解読

- ・ カルセドニーならびにめのう組織の多様性と微細構造
- ・ 黒鉱中のウルツ鉱の生成過程の解明を目指した微細組織の観察
- ・ 千葉石の多形に関する研究（国立科学博物館との共同研究）
- ・ 小笠原諸島に産する鉱物の記載（国立科学博物館との共同研究）

(2) 学術論文等

< ISI 登録誌 >

- 1) Evidence for biogenic graphite in early Archaean Isua metasedimentary rocks. [Nature Geoscience, 7, (2014), 25-28] Y. Ohtomo, T. Kakegawa, A. Ishida, T. Nagase and M. T. Rosing.
- 2) Observation of pressure-induced phase transition of δ -AlOOH by using single crystal synchrotron X-ray diffraction method. [Physics and Chemistry of Minerals, 41, (2014), 303-312] T. Kuribayashi, A. Sano-Furukawa and T. Nagase.
- 3) 岩手県田野畑鉱山から発見された新鉱物・田野畑石.[岩石鉱物科学, 43(1), (2014), 37-39] 長瀬敏郎.

< 紀要・実験報告書等 >

- 1) 低対称化した鉱物結晶に観察される秩序-無秩序構造に関する研究 [金属材料研究所平成 25 年度研究部共同研究報告書, (2014) p158.] 栗林貴弘, 長瀬敏郎, 中村友梨江, 杉山和正
- 2) 新規に合成された Al に富む高压含水相の結晶構造解析. 愛媛大学, GRC, PRIUS2014 年度研究成果報告書 (2014)] 栗林貴弘, 長瀬敏郎, 井上徹
- 3) スコレス沸石の高温その場単結晶 X 線結晶構造解析 [東京工業大学 共同利用研究報告書 2013 - 2014, 18, (2014) 64-65] 栗林貴弘, 内田貴大, 長瀬敏郎
- 4) Single-crystal X-ray diffraction study on Al, H-bearing MgSiO₃. [Photon Factory Activity Reports 2013 Part B, 31 (2014) 299.] T. Kuribayashi, T. Inoue, K. Fujino and T. Nagase
- 5) Crystal structure analysis of postd-AlOOH at 8.2 GPa. [Photon Factory Activity Reports 2013 Part B, 31, (2014) 310.] T. Kuribayashi, T. Inoue, K. Fujino and T. Nagase

(3) 学会講演等

< 国内会議 >

- 1) 中村 友梨江 栗林 貴弘 長瀬 敏郎 三斜晶系ガーネットの構造分域間での陽イオン秩序配列, 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)~9 月 19 日(金), 熊本大学
- 2) 栗林 貴弘 井上 徹 藤野 清志 長瀬 敏郎, Al と H に富む Mg-bridgmanite の放射光 X 線単結晶構造解析, 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)~9 月 19 日(金), 熊本大学
- 3) 井上 徹 矢吹 智美 柿澤 翔 藤野 清志 坂本 尚義 栗林 貴弘 長瀬 敏郎, Al と H に富む Mg-bridgmanite の合成とキャラクターリゼーション, 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)~9 月 19 日(金), 熊本大学
- 4) 長瀬 敏郎 門馬 綱一 栗林 貴弘 宮本 毅 山田 亮一, 国内産玉髄・瑪瑙の形成過程, 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)~9 月 19 日(金), 熊本大学
- 5) 門馬 綱一 池田 卓史 長瀬 敏郎 栗林 貴弘 本間 千舟 西久保 勝己 高橋 直樹 高田 雅介 松下 能孝 宮脇 律郎 松原 聰 新鉱物 房総石(bosoite) 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)~9 月 19 日(金), 熊本大学
- 6) 松原 聰 宮脇 律郎 門馬 綱一 重岡 昌子 徳本 明子 石橋 隆下 林 典正 長瀬 敏郎 紀伊半島南部海岸に見られる銅・亜鉛・鉛の二次鉱物(II) 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年

9月17日(水)～9月19日(金), 熊本大学

- 7) 石橋 隆 下林 典正 松原 聡 門馬 綱一 宮脇 律郎 重岡 昌子 徳本 明子 長瀬 敏郎 紀伊半島南部海岸に見られる銅・亜鉛・鉛の二次鉱物 (I) 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)～9 月 19 日(金), 熊本大学
- 8) 高谷 舞 長瀬 敏郎 栗林 貴弘 クリソベリルの結晶構造と双晶の形成 日本鉱物科学会 2014 年年会, 2014 年 9 月 17 日(水)～9 月 19 日(金), 熊本大学
- 9) 長瀬敏郎, 野崎達生, 石橋純一郎, 山田亮一, 高井研, 川口慎介, 栗林貴弘 沖縄トラフ zero-age chimney でのウルツ鉱の組織と形成過程 資源地質学 2013 年度年会学術講演会, 2013 年 6 月 25 日 (水)～27 日 (金), 東京大学小柴ホール
- 10) 内田貴大・栗林貴弘・長瀬敏郎 スコレス沸石における加熱脱水に伴う相変化に関する研究, 地球惑星関連連合大会, 横浜, 2014.4.28-5.2..
- 11) 栗林貴弘, 井上徹, 藤野清志, 長瀬敏郎 Mg 端成分 Bridgmanite, $MgSiO_3$ 構造中への Al^{3+} と H^+ の置換機構 平成 25 年度日本結晶学会年会, 平成 26 年 11 月 1-3 日, 東京大学
- 12) 中村友梨江, 栗林貴弘, 長瀬敏郎 三斜晶系ガーネットの{211}c 構造領域の結晶構造解析, 平成 25 年度日本結晶学会年会, 平成 26 年 11 月 1-3 日, 東京大学.
- 13) 栗林貴弘, 井上徹, 藤野清志, 長瀬敏郎 Al と H を含有する $MgSiO_3$ ペロプスカイト, bridgmanite の結晶構造の精密化, 平成 26 年 11 月 22-24 日, 徳島大学
- 14) 井上徹, 矢吹智美, 柿澤翔, 藤野清志, 坂本尚義, 栗林貴弘, 長瀬敏郎 含水 bridgmanite の合成とキャラクターゼーション, 平成 26 年 11 月 22-24 日, 徳島大学
- 15) 栗林貴弘, 井上徹, 藤野清志, 長瀬敏郎 Al と H を固溶した $MgSiO_3$ ペロプスカイトの単結晶 X 線回折実験, 物構研サイエンスフェスタ, 平成 27 年 3 月 17-18 日, つくば

(4) 研究資金受託状況

- 1) 科学研究費基盤研究(C) (継続) 「低温熱水から生成するアモルファス・結晶中間体の構図と挙動」(研究代表者)(代表:長瀬敏郎 (東北大学))
- 2) 科学研究費基盤研究(A) (継続) 東北日本弧プレート境界面の力学特性解明を目指した実験的研究(研究分担者)(代表:長濱 裕幸 (東北大学))
- 3) 科学研究費基盤研究(B) (継続) 初期海洋環境における一次生産者の特定 (研究分担者)(代表:掛川武 (東北大学))
- 4) 高エネルギー加速器研究機構放射光共同利用研究(新規) PAC.No.2014G081 代表
- 5) 高エネルギー加速器研究機構放射光共同利用研究(継続) PAC.No.2013G127 代表

3. 大学運営, 学外委員, 社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 総合学術博物館運営専門委員会委員
- 2) 総合学術博物館部会委員
- 3) 理学部安全委員会委員

(2) 学外委員

- 1) 日本鉱物学科学会編集委員会委員
- 2) 日本鉱物学科学会評議委員
- 3) 日本鉱物学会行事委員
- 4) 仙台市天文台・協議会委員
- 5) 仙台市科学館・協議会委員

(3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動

企画展の開催:「北川隆司鉱物コレクション展—教授を魅了した大地の結晶—」

共催: 総合学術博物館, 日本鉱物科学会

協力: 斉藤喜美子, 軽井沢高原文庫, 世田谷文学館, 東北大学史料館, 附属図書館医学分館

内容: 鉱物学専門の故北川隆司教授(広島大学)が生涯にわたって収集した個人鉱物コレクション約 2,000 点の中から, 鮮やかな色や整った形を示す結晶など, 自然の造形のすばらしさを感じることができる特に興味深い標本 200 点を選び展示します。

会場: 総合学術博物館 (理学部自然史標本館)

期間：2014年3月1日から2014年4月12日

(4) 所属学会

日本鉱物科学会，資源地質学会，Mineralogical Society of America

高嶋 礼詩（准教授）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加（協力教員，兼務教員を含む）

共通科目：博物館実習 VI

専門教育：地質調査法実習，野外実習 II，地殻岩石学実習 II

大学院教育：地球科学特別講義 I

(2) 学生指導・授与した学位

理学部卒業論文指導

有元 純：岩手県久慈市北方に露出する白亜系の地質と年代

細萱 航平：北海道白糠丘陵に露出する白亜紀／古第三紀境界層の高精度古環境解析

小原 健：仙台地域の名取層群における高精細テフロジー層序の確立

理学研究科博士前期課程（修士）

（論文審査委員：主査）

小川 草平：フランスボコンチアン堆積盆地に露出する海洋無酸素事変 OAE1b の高分解能解析

尾松 圭太：北海道白亜系蝦夷層群における底生有孔虫化石群集解析

條 将太：上部白亜系久慈層群の炭素同位体比層序と U-Pb 年代

（論文審査委員：副査）

加藤ひかる：異なる地質体に属する複数のチャートセクションにおける後期三畳紀コノドントの生層序学的研究

山田 憲司：南中国湖北－湖南地域におけるエディアカラ紀とその前後の海洋環境変動水上 拓也：白亜紀/古第三紀境界近傍における森林火災，海洋還元，植生の崩壊と回復：堆積有機分子からの証拠

小形 優加里：ベトナム北部における後期デボン紀大量絶滅時近傍の炭素同位体比層序と古環境変動

（最終試験委員）

木原 辰之：定量 X 線 CT 法を用いたセジメントトラップ試料解析にもとづく浮遊性有孔虫 *Globigerina bulloides* の殻成長・溶解度モデル

久保 洋人: Origin for Palaeomagnetic Signals of Hematite-Ilmenite Solid Solutions studied using X-ray Photoemission Electron Microscopy（X線光電子顕微鏡によるヘマタイト-イルメナイト固溶体をもつ古地磁気記録の原因）

梅田 朋佳：下北半島尾駮沼の海跡湖沼堆積物による古環境復元

小沢 光幸：Contact Electrification Generated by Crack Propagation in Semiconductor Minerals（半導体鉱物内のクラック進展に伴う接触帯電）

佐藤 哲郎：A New Magnetic Relaxation Dating and Mobilization Frequency for Tsunami Boulders of Corals（新しい磁気緩和による年代決定法・移動周期決定とそのサンゴ礁起源の津波石への応用）

玉井 速汰：Contact States of Microcracks in Rocks and Elastic Wave Velocity（岩石のクラックの接触状態と弾性波速度）

新村 碧：奄美大島産ミドリイシ属サンゴの系統分類と形態との比較

平田萌々子 : Frictional Instability of Simulated Fault Gouge Based on Rowe's Theory
(Rowe の法則に基づく模擬断層ガウジの摩擦不安定性)

三國屋しおり : 月アナログ岩石の誘電特性と月面地下構造探査への応用

2. 研究活動

(1) 研究概要

1) 白亜系—古第三系の年代対比に関する研究

北海道・蝦夷層群, 根室層群, 音別層群において野外調査を実施し, サンプルングを行うと共に, 浮遊性有孔虫の抽出, 炭素同位体の測定 (岡山大学との共同研究), Os 同位体比の測定 (英・ダラム大学との共同研究), 凝灰岩の $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$, U-Pb 年代の測定 (仏・パリ第 11 大学, ブレーズパスカル大学, 東京大学地震研究所との共同研究) を行い, 詳細な国際年代対比と年代モデルの構築を行った。

2) 白亜系陸成層の年代対比に関する研究

岩手県久慈層群 (岡山大学との共同研究) において野外調査を実施し, 植物の炭素同位体比の変動と, 凝灰岩の U-Pb 年代から白亜紀の恐竜・哺乳類の産出する層準の年代対比を検討した。

3) 白亜紀古環境変動に関する研究

フランスポコンチアン堆積盆地に露出する白亜紀海洋無酸素事変 OAE1b, OAE2 の黒色頁岩の微化石, 化学組成, 堆積粒子, 堆積相の解析および粘土鉱物分析から, 当時の古環境の変動を検討した (北海道大学・九州大学との共同研究)。

4) 古い時代のテフロクロロジーの研究

白亜系蝦夷層群に挟まる凝灰岩からアパタイト・黒雲母を抽出し, その化学組成を測定することにより, 古い時代の凝灰岩の広域対比を行った。また, 奈良県の中新世火砕流堆積物である, 室生火砕流堆積物からもアパタイトを抽出し, その微量元素組成を測定した結果, 室生火砕流堆積物の最下部部分が, 奈良市北方の石仏凝灰岩と対比可能なことを明らかにした。

5) コケムシの研究

日本の白亜系～新第三系からコケムシ化石を採集し, その分類学的検討を行った (北海道大学, サンクトペテロブルグ州立大学, 国立プラハ博物館, 熊本大学との共同研究)。

6) ベトナムにおける古生界の層序学的研究

ベトナム・ハーザン省に露出するデボン系～三畳系の炭素同位体層序の研究を行った (熊本大学との共同研究)。

(2) 学術論文等

(論文)

< ISI 登録誌 >

- 1) K. M. Matsuzaki, H. Nishi, H. Hayashi, N. Suzuki, B. R. Gyawali, M. Ikehara, T. Tanaka, R. Takashima (2014): Radiolarian biostratigraphic scheme and stable oxygen isotope stratigraphy in southern Japan (IODP Expedition 315 Site C0001). *Newsletters on Stratigraphy*, vol. 47/1, p. 107–130.
- 2) K. M. Matsuzaki, H. Nishi, N. Suzuki, G. Cortese, F. Eynaud, R. Takashima, Y. Kawate, T. Sakai (2014): Paleooceanographic history of the Northwest Pacific Ocean over the past 740 kyr, discerned from radiolarian fauna. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, vol. 396, p. 26–40.
- 3) K. M. Matsuzaki, H. Nishi, N. Suzuki, Y. Kawate, R. Takashima, T. Saka (2014) *Cycladophora davisiana* abundances as a paleooceanographic and stratigraphic tool in high latitude siliceous sediments. *Marine Micropaleontology*, vol. 106, p. 1–9.
- 4) T. Komatsu, S. Kato, K. Hirata, R. Takashima, Y. Ogata, M. Oba, M., H. Naruse, O. Ta, P. D. Ngyuen, H. T. Dang, H. H. Nguyen, S. Sakata, K. Kaiho, P. Koenigshof, (2014): Devonian-Carboniferous transition containing a Hangenberg Black Shale environment in the Pho Han Formation on Cat Ba Island, northeastern Vietnam. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*. DOI: 10.1016/j.palaeo.2014.03.021.
- 5) T. Komatsu, H. Naruse, Y. Shigeta, R. Takashima, T. Maekawa, H. T. Dang, T. C. Dinh, P. D. Nguyen, H. H. Nguyen, G. Tanaka, M. Sone (2014): Lower Triassic mixed carbonate and siliciclastic setting with

Smithian-Spatian anoxic to dysoxic facies, An Chau basin, northeastern Vietnam. *Sedimentary Geology*, vol. 300, p. 28-48.

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

(3) 学会講演

< 国際会議 >

- 1) Nishi, H., Takashima, R., Yamanaka, T., Orihashi, Y., Hayashi, K. (2014), Integrated Stratigraphy and U-Pb ages of the Cretaceous Yezo Group, exposed in Hokkaido, Japan. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.
- 2) Du Vivier, A. D. C., Selby, D., Condon, D. J., Takashima, R., Nishi, H. (2014), High-resolution $^{187}\text{Os}/^{188}\text{Os}$ isotope stratigraphy and $^{206}\text{Pb}/^{238}\text{U}$ zircon geochronology reveal and verify the global occurrence of OAE 2: Yezo Group, Hokkaido, Japan. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.
- 3) Ando, T., Sawada, K., Takashima, R., Nishi, H. (2014), Primary producer community during the mid-Cretaceous oceanic anoxic events (OAEs) evaluated from algal biomarkers in sediments deposited in the Vocontian Basin, SE France. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.
- 4) Magtoto, C. Y., Fernando, A. G. S., Takashima, R., Nishi, H., Tomosugi, T. (2014), Calcareous nannofossil biostratigraphy of the Cenomanian-Turonian Oceanic anoxic event 2 (OAE 2) record in California, USA. The second International Symposium of IGCP 608, "Cretaceous Ecosystems and their responses to paleoenvironmental changes in Asia and Western Pacific" 2014年9月4日, 東京.

< 国内会議 >

- 1) 西 弘嗣・小川 草平・高嶋 礼詩・桑原 義博 (2014), 海洋無酸素事変 1b 発生時の環境変動. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 2) 高嶋 礼詩・桑原 里・折橋 裕二・西 弘嗣 (2014), 重鉍物化学組成を用いた白亜紀凝灰岩の対比. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 3) 中村 英人・沢田 健・安藤 卓人・高嶋 礼詩・西 弘嗣 (2014), 北海道朱鞠内川セクションの Cenomanian-Turonian 境界イベント層準で見出された負の $\delta^{13}\text{C}$ エクスカーションにともなう陸上植生変動. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 4) 安藤 卓人・中村 英人・沢田 健・高嶋 礼詩・西 弘嗣 (2014), 北海道苫前地域に分布する蝦夷層群 Cenomanian/Turonian 境界堆積岩の有機地球化学分析による堆積環境・海洋生産変動の復元. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 9 月 15 日, 鹿児島.
- 5) 安藤 卓人・沢田 健・高嶋 礼詩・西 弘嗣 (2014), 南東フランス、白亜系海洋無酸素事変層準の黒色頁岩のパリノモルフ分析--海洋基礎生産者に注目して--. 日本地質学会第 121 年学術大会, 2014 年 6 月 29 日, 鹿児島.
- 6) 西弘嗣・高嶋礼詩・山中寿朗・折橋裕二・林圭一 (2014), 北海道の白亜系~漸新統の微化石・炭素同位体比層序・U-Pb 年代と温室期北西太平洋の古環境イベント. 日本古生物学会, 2014 年 6 月 29 日, 福岡.
- 7) 白井孝明・鈴木紀毅・高嶋礼詩・西弘嗣・井龍康文・小川草平・高柳栄子 (2014), 南東フランス・Vocontian 堆積盆地における下部-上部白亜系境界付近の放散虫生層序の検討. 日本古生物学会, 2014. 6. 29, 福岡.
- 8) Matsuzaki, K. M., Suzuki, N., Nishi, H., Takashima, R. (2014), Middle to Late Pleistocene radiolarian biostratigraphy and new species descriptions in the north-eastern margin of Japan. 日本古生物学会, 2014. 6. 29, 福岡.
- 9) 西弘嗣・高嶋礼詩・山中寿朗・折橋裕二・林圭一・金綱将也 (2014), 北西太平洋における白亜系-古第三系の層序と古環境変動の復元における意義, 2014 年地球惑星連合大会, 4 月 28 日, 横浜.

(4) 国際研究集会への参加・海外渡航

【学術調査】

2014年7月15日～25日：北海道の白亜系調査

【共同研究実施状況】

- 1) 国立プラハ博物館（チェコ）：暁新世～鮮新世における日本とヨーロッパのコケムシ化石群集の比較に関する共同研究.
- 2) パリ第11大学（仏）・ブレーズパスカル大学（仏）：北海道の白亜系凝灰岩の Ar/Ar 年代に関する共同研究.
- 3) リール第一大学（仏）：北海道の白亜系放射虫化石層序に関する共同研究.
- 4) ダラム大学（英）：北海道の白亜系のオスミウム同位体比に関する研究.
- 5) 岡山大学：日本の白亜系堆積物の炭素同位体変動に関する共同研究.
- 6) 東京大学地震研究所：日本の白亜系の U-Pb 年代に関する共同研究.
- 7) 熊本大学：白亜系姫浦層群の統合層序およびベトナムのデボン紀・石炭紀境界に関する共同研究.
- 8) 大阪府立大学：北海道の白亜系の古地磁気に関する共同研究.
- 9) ゲーテ大学（独）：フランスの白亜紀石灰質ナノ化石に関する共同研究.

【外国人研究者受入状況】

平成26年4月2日～6月30日にかけて、スクリプス海洋研究所の Richard D. Norris 教授を学術資源研究公開センター客員教授として受け入れた。

(5) シンポジウム・研究集会の開催など

- ・2015年1月17日：神奈川県立生命の星・地球博物館において「地震津波シンポジウム・特別企画展示～かながわ発！地震・津波から命を守る～」を実施.
- ・2015年3月14-17日：国連防災会議において震災遺構の特別展を実施.

(6) 研究資金受託状況

- 1) 基盤研究（B）：研究代表者，白亜系における高解像度国際標準年代尺度とテフロクロロジーの樹立（平成26年度 直接経費 3,100,000円，間接経費 930,000円）
- 2) 基盤研究（A）：分担研究者（代表：西弘嗣），北西太平洋における極限温室期の全環境復元（平成26年度 100,000円）

3. 大学運営，学会運営，社会的活動等

(1) 学内委員

- ・学術資源研究公開センター運営専門委員会委員
- ・総合学術博物館部会委員
- ・青葉山キャンパス整備委員会委員
- ・安全衛生委員会委員
- ・埋蔵文化調査室運営委員会委員

(2) 学外委員

(3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動

- 1) 2014年7月29日：神奈川県小田原市の東日本大震災スタディツアーに協力.
- 2) 2014年10月17日：前橋女子高において出前授業実施.
- 3) 2015年2月19日：国土交通省国土技術政策総合研究所主催の津波災害の伝承に関する勉強会において「最新技術で伝える被災地の記憶」を講演.
- 4) 2015年3月28日：富良野市博物館講演会「夕張・芦別山系のエゾナキウサギ」において招待講演.

(4) 所属学会

小川 知幸 (助教)

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

- ・ 文学研究科兼任
- ・ 博物館実習 VI 担当, 2014 年 9 月 1—5 日
- ・ 東北大学附属図書館職員総合研修会講師, 2015 年 2 月.

(3) 社会教育

1) 仙台宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) と連携した企画とイベントの実施

1. SMMA クロスイベント「みんなでどろんこ! 生きもの観察 in 地底の森」(総合学術博物館と地底の森ミュージアムによる企画), 2014 年 7 月 13, 27 日, 9 月 15 日.

2. SMMA ミュージアムユニバース 2014 に, みちのく博物楽団とともに参加.

内容: トークとイベント①「古代ローマのふしぎ〜パクス・ロマーナ〜」②「ミュージアムっておもしろい〜大学生の活動紹介」③体験「フィールド顕微鏡でみる小さな世界」(協力: 向井康夫助教), 展示①「南三陸で採集されたアンモナイトなどの化石」②「みちのく博物楽団活動紹介」

会場: せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

会期: 2014 年 12 月 19 日, 20 日 (来場者数: 1,768 名)

3. 第 3 回国連防災世界会議における SMMA 展示, 「旬の見験楽学便」, 「新年度リーフレット」, および外国人向けパンフレット制作協力.

2) 東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス] 編集発行 (No. 46, 47).

3) 仙台市生涯教育課・仙台市市民文化事業団からの依頼対応, 2014 年 6 月, 7 月.

4) NPO 法人 natural science による「学都仙台宮城サイエンス・デイ 2014」への参加, みちのく博物楽団による標本館展示, 2014 年 7 月 20 日, サイエンス・デイ AWARD, 同 7 月 25 日.

5) 東北大学附属図書館と連携した活動

1. ミュンスターベルク文庫の照会・調査にかかる業務, 2014 年 6 月.

2. 附属図書館協力研究員への助言と指導, 2014 年 4 月〜.

3. 狩野文庫蘭書の県重文指定への取組みにかんする照会対応, 2014 年 5 月.

4. 柳瀬文庫の保存にかんする助言, 2014 年 5 月.

5. 北青葉山分館特別閲覧室蔵書にかんする照会対応, 2014 年 7 月.

6. エルンスト・チーテルマン (チーテルマン文庫) 宛て書簡解読と解説, 2014 年 9 月.

7. 附属図書館リニューアル記念展資料の監修・解題執筆, 2014 年 9 月〜10 月.

8. 電気通信研究所図書室・抜山文庫保存修復にかんする助言, 2014 年 12 月.

9. 第 3 回国連防災世界会議記念展示 (於附属図書館本館) および展覧目録の監修, 2015 年 1 月〜.

10. 附属図書館貴重図書パンフレット監修, 2015 年 1 月.

11. 東北大学附属図書館職員総合研修会講師, 2015 年 2 月.

2. 研究活動

(1) 研究概要

1) ヨーロッパ活版印刷初期における筆写工房の研究

ヨーロッパ近世の「知」は, とりわけ 15 世紀においてきわめて緊張を孕んだ状態にあった.

その革新的表象が, 活版印刷術の成立を契機として制作されたインキュナブラであり, 50 年間に 2 万 7 千冊が印刷され流通したことは長いあいだ研究者の注目を集めてきた. しかしこのような印刷本の革新性は, 手写本が羊皮紙の上で作り上げてきた技術と販売網, 読書のハビトゥス, なかなく 15 世紀に各地に現れた世俗の筆写工房による大量生産システムを基盤にしていたといえる. 本研究は, 当時最大規模を誇ったエルザスのディーボルト・ラウバー筆写工房に注目して, 写本制作の歴史的・社会的背景およびその影響を解明しながら, 手写本がいかに印刷本普及の基

盤を整備し、「知」の社会状況を変化させるにいたったかを考察する。

2) ヨーロッパ近世における学環の成立の研究

知の情報が狭い分野に秘匿される状態、すなわち専門家たちのコミュニティ内部にのみ発信されることを「インパブリッシュ」とよび、これが特定のコミュニティを超え、外部へと発信されることを「アウトパブリッシュ」とよぶ。コミュニティ外部への知の普及はコミュニティそのものを社会的に強化し、その駆動力となる。つまりこのような知的エリートのコミュニティ＝社会間のオープン・コミュニケーション（学環）が誕生したのは、具体的には15世紀後半から16世紀にかけての出版界においてであったのではないか。本研究はこれをおもにオルテリウスの『世界の舞台』（Theatrum Orbis Terrarum）のテキストおよび図版の収集と分析によって解明することを目的とする。

3) (共同研究) 世界史教育と外国史研究との連携・協働に向けた総合研究—岩手県における世界史教育の現状と課題—

(2) 学術論文等（論文、著書）

(記事)

- 1) ミュージアムを大学を中心にする 於愛媛大学第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会参加の記、東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス]、東北大学総合学術博物館、No. 46 (2014. 11), 2—3頁。
- 2) みんなでどろんこ！生きもの観察 in 地底の森を開催しました、東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス]、東北大学総合学術博物館、No. 46 (2014. 11), 4頁。
- 3) SMMA ミュージアムユニバースに総合学術博物館とみちのく博物楽団が参加しました、東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス]、東北大学総合学術博物館、No. 47 (2015. 3), 2—3頁。
- 4) トークレビュー：古代ローマのふしぎ～パクス・ロマーナ～、東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス]、東北大学総合学術博物館、No. 47 (2015. 3), 4頁。
- 5) 博物館実習 VI を実施しました、東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス]、東北大学総合学術博物館、No. 47 (2015. 3), 5頁。
- 6) ミュージアムの種を蒔く（前編）、東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス]、東北大学総合学術博物館、No. 47 (2015. 3), 6—7頁。

(3) 学会講演

- 1) 小川知幸 (2014), 東北大学総合学術博物館のすべて XIII 「考古学からの挑戦」発案から実施まで, 第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会, 於愛媛大学情報メディアセンター (城北キャンパス), 2014年6月19日, 20日。
- 2) 小川知幸 (2014), 在仙12館のミュージアムによる知的情報資源の共有と地域への還元—SMMA (仙台・宮城ミュージアムアライアンス) と「みちのく博物楽団」 (ポスター発表), 第17回大学博物館等協議会・第9回博物科学会, 於愛媛大学情報メディアセンター (城北キャンパス), 2014年6月19日, 20日。
- 3) 小川知幸 (2014), 古代ローマのふしぎ～パクス・ロマーナ～, SMMA ミュージアムユニバース 2014, 於せんだいメディアテーク, 2014年12月19日。

(4) 国際研究集会への参加・海外渡航

(5) シンポジウム・研究集会の開催など

(6) 研究資金受託状況

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 附属図書館協力研究員
- 2) 附属図書館貴重図書等委員会委員
- 3) 附属図書館古典資料等修復保存小委員会委員
- 4) 総合学術博物館部会委員

(2) 学外委員

- 1) SMMA (仙台宮城ミュージアムアライアンス) 運営委員会委員

(3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動

- 1) 仙台宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) と連携した企画とイベントの実施
 1. SMMA クロスイベント「みんなでどろんこ！生きもの観察in 地底の森」(総合学術博物館と地底の森ミュージアムによる企画), 2014年7月13, 27日, 9月15日.
 2. SMMA ミュージアムユニバース2014に, みちのく博物楽団とともに参加.
内容: トークとイベント①「古代ローマのふしぎ〜パクス・ロマーナ〜」②「ミュージアムっておもしろい〜大学生の活動紹介」③体験「フィールド顕微鏡でみる小さな世界」(協力: 向井康夫助教), 展示①「南三陸で採集されたアンモナイトなどの化石」②「みちのく博物楽団活動紹介」
会場: せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア
会期: 2014年12月19日, 20日 (来場者数: 1,768名)
 3. 第3回国連防災世界会議における SMMA 展示, 「旬の見験楽学便」, 「新年度リーフレット」, および外国人向けパンフレット制作協力.
- 2) 東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnividens [オムニヴィデンス]編集発行 (No. 46, 47).
- 3) 仙台市生涯教育課・仙台市市民文化事業団からの依頼対応, 2014年6月, 7月.
- 4) NPO 法人 natural science による「学都仙台宮城サイエンス・デイ 2014」への参加, みちのく博物楽団による標本館展示, 2014年7月20日, サイエンス・デイ AWARD, 同7月25日.
- 5) 東北大学附属図書館と連携した活動
 1. ミュンスターベルク文庫の照会・調査にかかる業務, 2014年6月.
 2. 附属図書館協力研究員への助言と指導, 2014年4月〜.
 3. 狩野文庫蘭書の県重文指定への取組みにかんする照会対応, 2014年5月.
 4. 柳瀬文庫の保存にかんする助言, 2014年5月.
 5. 北青葉山分館特別閲覧室蔵書にかんする照会対応, 2014年7月.
 6. エルンスト・チーテルマン (チーテルマン文庫) 宛て書簡解読と解説, 2014年9月.
 7. 附属図書館リニューアル記念展資料の監修・解題執筆, 2014年9月〜10月.
 8. 電気通信研究所図書室・抜山文庫保存修復にかんする助言, 2014年12月.
 9. 第3回国連防災世界会議記念展示 (於附属図書館本館) および展覧目録の監修, 2015年1月〜.
 10. 附属図書館貴重図書パンフレット監修, 2015年1月.
 11. 東北大学附属図書館職員総合研修会講師, 2015年2月.

(4) 所属学会

日本西洋史学会, 西洋史研究会, 博物科学会, ヨーロッパ構造史研究会, 中世アフリカ史研究会

永広昌之 (協力研究員)

1) 学術論文等

- 1) Ehiro, M., Nishikawa, O and Nishikawa, I., 2014, Early Permian (Asselian) ammonoids from the Taishaku Limestone, Akiyoshi Belt, Southwest Japan. *Paleontological Research*, vol. 18, p. 51-63.
- 2) Ehiro, M., 2014, Early Permian ammonoid *Prostacheoceras* from the Nakadaira Formation in the Nakadaira area, South Kitakami Belt, Northeast Japan. *Saito Ho-on Kai Museum of Natural History, Research Bulletin*, no. 78, p. 99-105.

2) 学会講演等

- 1) 永広昌之, 2014, 南三陸(南三陸町～石巻市)の地質・化石資源の特長. 南三陸海岸ジオパーク, ジオサイト整備研究会(仙台市戦災復興記念館, 2014年8月16日).
- 2) 永広昌之, 2014, 南三陸のジオサイト: 南三陸～石巻の巨石めぐり. 南三陸海岸ジオパーク, ジオサイト整備研究会(仙台市戦災復興記念館, 2014年8月16日).
- 3) 永広昌之・南三陸海岸ジオパーク準備委員会, 2014, 南三陸の巨石めぐり. 日本地質学会第120年学術大会(鹿児島大学, 2014年9月13日～15日).
- 4) 橋本智雄・伊藤太久・磯前沙也加・永広昌之・関博充・佐藤悦郎・白土豊, 2014, ジオサイト「館ヶ崎角岩岩脈」の追跡調査. 日本地質学会第119年学術大会(鹿児島大学, 2014年9月13日～15日).
- 5) 永広昌之・佐々木理, 2014, ミュージアム活動と地域社会—東北大学総合学術博物館の被災ミュージアム支援活動を例として—. 日本地質学会第120年学術大会夜間小集会 大学博物館と地域の博物館(鹿児島大学, 2014年9月14日).
- 6) 永広昌之, 2015, 南部北上古陸の形成と発展—2015年3月版—(シンポジウム「東北地方のテクトニクス」; 招待講演). 日本地質学会東北支部2014年度総会, シンポジウムおよび個人講演会(岩手大学, 2015年3月7日～8日).
- 7) 永広昌之, 2015, 南部北上帯ペルム系産の並はずれて大きいノーチロイド *Tainoceras*. 日本地質学会東北支部2014年度総会, シンポジウムおよび個人講演会(岩手大学, 2015年3月7日～8日).

2. 史料館

永田 英明 (准教授)

1. 教育活動

- (1) 東北大学での教育活動
(全学教育)

- 1) カレントトピックス科目「東北大学のひとびと」(第2 Semester) 授業担当(分担)

- (2) 他大学等での教育活動

- 1) 放送大学

- ①客員准教授として 宮城学習センターにおける学生指導を担当

- ②面接授業「交通史から見た日本の古代」2014年5月31—6月1日

- (3) 研修会・公開講演会等の講師

- 1) 東北大学初任者オリエンテーション「東北大学の歴史」講義, 2014年4月1日, 10月1日, 2015年1月5日

- 2) 公文書管理研修「公文書管理法制と法人文書・歴史公文書」, 2015年2月13日

2. 研究活動

- (1) 研究概要

- 1) 大学アーカイブズの研究

東北大学の歴史的公文書等を素材に, 大学におけるアーカイブズの特色や, その適切な保存・公開のあり方について研究している。

- 2) 帝国大学学生史の史料学的研究

大学アーカイブズの資料を活用した, 戦前期および戦中期を中心とする学生史の研究をおこなっている。

- 3) 交通史の観点から見る古代国家・古代王権論

古代の駅馬・伝馬制度や関所の制度を題材に, 日本の古代国家がどのような交通・通信システムによって日本の国土支配を実現していたのかを研究している。

- 4) 東北古代史の研究

交通史・交流史の視点から, 古代国家の辺境支配と地域社会との関係を考える。

(2) 学術論文等

- 1) 永田英明「文献からみた古代「官道」論の課題」『国史館考古学』6, 2014年5月, pp.138-150

(3) 総説・資料集等

- 1) 『岩沼市史5 資料編I 古代中世(古代)』(徳竹亜紀子氏と共著), 2015年3月

(4) 学会報告・公開講演等

- 1) 「国立大学法人と公文書管理法—東北大学の事例から」全国歴史保存利用連絡協議会関東部会企画研究会, 2014年9月19日, 於東京大学山上会館
2) 「陸奥国の古代官道一道から考える東北古代史—」, 東北歴史博物館友の会歴史講座, 2014年10月26日, 於東北歴史博物館
3) 「帝国大学と中国人留学生」, 二国間交流セミナー「日中留学生研究の現状と課題」, 2014年11月1日, 於北京外国語大学日本学研究センター

(5) 研究資金受託状況

- 1) 「帝国大学における研究者の知的基盤に関する基礎的研究」(研究代表者吉葉恭行), 基盤研究(C), 2013-2015年度, 340,000円
2) 「黒田チカの生涯—最初的女子学生の教育, 研究, 人間, 社会」(研究代表者黒田光太郎), 基盤研究(C), 2014-2016年度, 400,000円

3. 大学運営, 学外委員, 社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 学術資源研究公開センター運営専門委員会 委員
2) 学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会 委員
3) 東北大学公文書管理委員会 委員
4) キャンパス整備委員会片平部会 委員
5) 東北大学埋蔵文化財調査室運営 委員

(2) 学外委員

- 1) NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 監事
2) 山形県教育委員会 駒籠楯跡指導検討委員
3) 宮城歴史科学研究会 委員
4) 東北史学会 評議員

(3) 所属学会

日本アーカイブズ学会, 大学史研究会, 日本史研究会, 史学会, 歴史科学者協議会, 東北史学会, 宮城考古学会, 木簡学会, 大阪歴史学会, 続日本紀研究会, 条里制古代都市研究会

曾根原理 (助教)

1. 教育活動

(1) 東北大学での教育活動

- 1) 全学教育: カレントトピックス科目群「東北大学のひとびと」(第2 Semester) 授業担当(分担)
2) 全学教育: 基礎ゼミ「伝統文化が作った現代日本—国際共修ゼミ—」(第1 Semester, 外国人留学生等特別課程 PH5 と合同) 授業担当
3) 全学教育: カレントトピックス科目群「日本の歴史と伝統文化—国際共修ゼミ—」(第2 Semester, 外国人留学生等特別課程 PH5 と合同) 授業担当

(2) 他大学等での教育活動

- 1) 東北薬科大学薬学部講師(非常勤)「文章の表現 I・II」(前期・後期) 担当

2. 研究活動

(1) 研究概要

1) 日本近世において宗教秩序の頂点にたった東照宮を対象とし、①近世社会における権威やコスモロジー、②それに深く関わる仏教や神道その他の教義・思想の研究を行った。それらの成果について、国内外の学会等で口頭発表を実施する準備を進めた。

2) 近世思想形成の前提となる中世の論義・談義の研究のため、日本各地の史料保存機関において、現地調査を実施した(科研費使用)。あわせて東北大学所蔵の古典資料(文書、典籍、聖教類など)の整理と調査を進めた。

3) 東北大学の歴史に関わった研究者について、史料の整理や分析を進めた。

(2) 学術論文等

(論文)

1) 曾根原理, 伊勢神宮と東照宮, 島藺進・高埜利彦・林淳・若尾政希編『将軍と天皇』春秋社, 2014年9月, pp.55-79.

(その他)

1) 曾根原理, 「修験道」項目担当, 『仏教の事典』朝倉書店, 2014年4月, pp.342-350.

2) 曾根原理, 近世宗教研究の今後とサマーセミナー, 日本宗教史懇話会編『日本宗教史研究の軌跡と展望』岩田書院, 2014年9月, pp.135-137.

(3) 国際研究集会への参加, 海外渡航

1) 研究会講演: New Blueprint for Japanese Early Modern Intellectual History (近世思想史の新たな見取り図), ハイデルベルク大学「アジア・欧州クラスター講演会」, 2014年4月29日, ドイツ.

2) 学術交流: ルーバン・カトリック大学訪問など, 2014年6月14-19日, ベルギー.

3) 研究会参加: Multidisciplinary Workshop “Prospects for Overcoming Sectarian Boundaries in Japanese Buddhism (日本仏教における宗派の壁を乗り越える可能性をめぐって)”, 2014年10月25日, ハワイ大学, ホノルル; 米国.

4) 研究打ち合わせ: ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS), 2015年3月17-18日, ロンドン; 英国.

5) 研究打ち合わせ: ノボテル北京新橋, 2015年3月19日, 北京; 中華人民共和国.

(4) 研究資金受託状況

1) 科学研究費, 基盤研究(C), 日本近世の神仏習合とその展開(代表: 曾根原理), 26年度1100千円(直接経費)

2) 科学研究費, 基盤研究(A), 多分野複合の視角から見た日本仏教の国際的研究(代表: 大久保良峻), 26年度配分300千円(直接経費)

3) 科学研究費, 基盤研究(A), 「書物・出版と社会変容」研究の深化と一般化のために(代表: 若尾政希), 26年度配分100千円(直接経費)

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 学内委員

1) 附属図書館・貴重図書等選定委員会委員

2) 附属図書館・協力研究員

3) 学術資源研究公開センター・運営専門委員会史料館部会委員

4) 東北アジア研究センタープロジェクト研究部門プロジェクト研究ユニット評価委員

(2) 学外委員

1) 日本仏教総合研究学会・理事

2) 日本山岳修験学会・理事(編集委員)

3) 日本思想史学会・評議員(大会委員)

4) 日本文芸研究会・委員(編集委員長)

5) 仏教文学会 委員

(3) 所属学会

神道宗教学会・中世文学会・天台学会・東北史学会・日本アーカイヴズ学会・日本古文書学会・日本山岳修験学会・日本史研究会・日本思想史学会・日本仏教総合研究学会・日本文芸研究会・仏教史学会・仏教文学会

(4) 講演会など

1) 曾根原 理, 天海の思想形成と徳川家康神格化, 会津美里町教育委員会「天海大僧正歴史講演会」, 会津美里町公民館, 2014年10月4日.

2) 曾根原 理, 漱石との交流・漱石門下の人々, 企画展「中村不折一僕の歩いた道」ギャラリートーク, 台東区立書道博物館, 2015年2月15日.

大原 理恵 (助教)

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

文学研究科 (国文学) 兼務

2. 研究活動

(1) 研究の概要

- 1) 日本古典文学の研究. 特に平安時代物語を中心とする.
- 2) 和漢書古典籍に関する研究.

(2) 学術論文等

1) 大原理恵「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (三) 一昭和63年 貴重図書選定委員会設置まで」東北大学史料館紀要 10 東北大学史料館 2015年3月 43-62頁

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 学内委員

附属図書館貴重図書等委員会委員

(2) 所属学会

中古文学会

3. 植物園

牧 雅之 (教授)

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

(全学教育)

「生命科学概論」 第1セメスター 2単位

(理学部)

「植物系統進化学」 第4セメスター 2単位

「植物系統分類学実習」集中講義 1単位

「生物学へのアプローチ」 第2セメスター 1単位の1/12 (1回)

「進化学実習」 第5セメスター 2単位のうち, 5回

「生物学演習」 第6セメスター 2単位のうち1/2 (5回)

(生命科学研究科)

「生態システム生命科学特論」 2単位のうち1/11 (1回)

「生態学合同講義」 1回

「植物系統分類学特論」 2単位

(2) 学生指導

生命科学科博士前期課程（修士）

（論文審査委員：主査）

木村拓真：広義アキノキリンソウ属の種内分化に関する分子集団遺伝学的研究

和氣勇介：栽培ギクとの交雑による野生キク属の遺伝子プール汚染

2. 研究活動

(1) 研究概要

科学研究費補助金（基盤研究（B））「外来侵入植物による遺伝的汚染-ギシギシ属在来主の危機的実態の解明」に基づき、在来種のギシギシ属植物と外来種との交雑の現状を国内広くにわたって解析を行った。また、科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「風穴植物の系統地理学-低地に氷河期の足跡を探る」を遂行するために、風穴地に特有な植物の地理的遺伝分化を解析した。そのほか、島嶼における植物の遺伝的分化、高山植物における適応的遺伝子の検出、キク属栽培種の遺伝的流失、菌と植物の共生に関する研究などを進めた。

(2) 学術論文等

1) 発表論文

Yamada, T. and Maki, M. 2014. Floral morphology and pollinator fauna characteristics of island and mainland populations of *Ligustrum ovalifolium* (Oleaceae). *Botanical Journal of the Linnean Society* 174:489-501.

Yamada, T. and Maki, M. 2014. Relationships between floral morphology and pollinator fauna in insular and mainland populations of *Hosta longipes* (Liliaceae). *Plant Species Biology* 29: 117-128.

Yu, X.-Q., Maki, M., Drew, B. T., Paton, A. J., Li, H.-W., Zhao, J.-L., Cornan, J. G. and Li, J. 2014. Rapid radiation in the Gengduan Mountains region and into Africa with allopolyploidy of *Isodon* (Lamiaceae). *Molecular Phylogenetics and Evolution* 77: 183-194.

牧雅之 2014. 植物を対象とした分子系統学の初歩. 日本植物園協会誌, 49, 17-20.

藤井伸二・牧雅之・國井秀伸. 2014. 島根県新産植物3種の記録（シログワイ, ノダイオウ, ヒメタデとアオヒメタデに関するノート）. 分類 14 : 169-176.
ク:189-194

(2) 学会講演

山田孝幸・國府方吾郎・牧雅之 2014. 隔離分布種モクレイシ（ニシキギ科）における分子系統地理. 植物学会第78回大会. 生田. 口頭発表, 2014年9月12日.

木村拓真・山田孝幸・阪口翔太・伊藤元巳・牧雅之 2015. 伊豆諸島におけるアキノキリンソウ属植物の複数回移入と遺伝的分化. 日本植物分類学会第14回大会, 福島, 口頭発表, 2015年3月6日.

和氣勇介・山城考・米倉浩司・牧雅之 2015. 栽培ギクとの交雑による野生キク属3種における遺伝子プールの汚染. 日本植物分類学会第14回大会, 福島, 口頭発表, 2015年3月6日.

五十島賢太・辻田有紀・今市涼子・樋口正信・牧雅之 2015. ナンジャモンジャゴケは共生菌を持つか?-茎の内外に見られる密な菌感染. 日本植物分類学会第14回大会, 福島, ポスター発表, 2015年3月6-7日.

伊藤美紗・辻田有紀・遊川知久・牧雅之. 2015. 絶滅危惧植物クゲヌマランの地理的分化と共生菌相の解明. 日本植物分類学会第14回大会, 福島, ポスター発表, 2015年3月6-7日.

(3) 研究資金受託状況

H24~27年 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B））「外来侵入植物による遺伝的汚染-ギシギシ属在来主の危機的実態の解明」代表 2,860,000円（直接経費2,200,000円, 間接経費660,000円）

H24~26年 日本学術振興会科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「風穴植物の系統地理学-低地に氷河期の足跡を探る」代表 1,120,000円（直接経費910,000円, 間接経費210,000円）

H26~28年 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B））「外来侵入植物による遺伝的汚

- 染-ギンギン属在来主の危機的実態の解明」研究分担（代表者 藤井伸二人間環境大学准教授） 3,900,000 円（直接経費 3,000,000 円，間接経費 900,000 円）
- H26～28 年 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「繁殖干渉による形質置換がもたらす植物の生態分化」研究分担（代表者 堂園いくみ東京学芸大学准教授） 390,000 円（直接経費 300,000 円，間接経費 90,000 円）
- H24～28 年 文部科学省創生プログラム 「生態系生物多様性に関する気候変動リスク情報の創出」研究分担（代表者 中静透東北大学教授） 2,600,000（直接経費 2,000,000 円，間接経費 600,000 円）
- H26 年 新技術開発財団植物研究助成「津波被災地における絶滅危惧植物種の集団維持・回復・保全に関する研究」 1,500,000 円（直接経費 1,500,000 円）

3. 大学運営，学会運営，社会的活動等

(1) 学内委員

総合技術部運営委員会委員

(2) 学外委員

1) 植物園協会植物多様性保全委員会委員

2) Population Ecology, Editor

(3) 所属学会，学会運営など

1) (社) 日本植物学会会員

2) 日本植物分類学会会員

3) 種生物学会会員

4) 日本生態学会会員

5) 植物地理・分類学会会員

6) Botanical Society of America 会員

7) International Association for Plant Taxonomy 会員

8) American Society of Plant Taxonomists 会員

大山 幹成（助教）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

(全学)

「自然科学総合実験」 第2セメスター 2単位の1単位（6回）

「博物館実習Ⅳ」 集中講義 1単位

(理学部)

「植物系統分類学実習」集中講義 1単位

「生物学演習」 第6セメスター 2単位のうち1/2（5回）

2. 研究活動

(1) 研究概要

樹木は、周囲の環境の影響を受け年々広狭の年輪を形成する。この性質を利用し、年代測定および古環境の復元などの研究を行う分野が年輪年代学である。東日本においては、この分野の研究及び年輪データの蓄積は不十分な状態にあり、当該地域における木質文化財の年代測定、木材産地推定および古気候復元の基礎データとするため、スギ、ヒバなどを中心とした標準年輪曲線（標準的な年輪幅変動パターン）の構築および古気候復元の研究を進めている。また、今年度は新たに採択された科学研究費「年輪幅・年輪同位体比・DNA マーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討」により、年輪幅に加えて、近年乾湿の指標として注目が集まっている酸素安定同位体比を用いたアスナロの標準年輪曲線構築に着手した。今年度、主に進めた研究は以下の通りである。

- ・三重県の中世遺跡から出土した曲物の年輪計測を実施し、同地方における中世の年輪幅標準年

輪曲線構築に着手した。

- ・ヒバ分布北限域における近世～明治期の年輪幅データ収集と古建築の年代測定を目的として、昨年に引き続き、函館市・旧相馬邸、江差町・旧中村家住宅の調査を実施した。この調査により、両建造物の使用木材について木材組織学に基づく知見を得ると共に、旧相馬邸については、年輪年代測定を実施し、建築年代に関する情報を得ることができた。
- ・東北地方北部の現生ヒバ試料の安定同位体比を測定し、複数個体間での高い同調性が認められることを確認した。

(2) 学術論文等

1) 発表論文

- 吉田明弘・佐々木明彦・大山幹成・箱崎真隆・伊藤晶文. 2014. 晩氷期の鳥海山における植生復元およびグイマツの立地環境. , 23(1): 21-26
- 岡崎智鶴子・小林和貴・三田直樹・金井豊・早坂英介・寺澤弘陽・米倉浩司・大山幹成・鈴木三男・吉光見稚代・毛利千香・御影雅幸. 2014. マイクロ波と乾燥用特殊ユニットによる植物標本の迅速乾燥と給水復元に関する解剖学的検討. ひがし大雪自然館研究報告, 1: 9-14

2) 著書

- 大山幹成・米延仁志. 2014. 樹木の年輪から見た近世の社会と環境変動. 青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土（編）「文明の盛衰と環境変動 マヤ・アステカ・ナスカ・琉球の新しい歴史像」, 32-33. 岩波書店, 東京

3) その他

- 岡田靖・大山幹成・門叶冬樹・加藤和浩. 2014. 仏像の保存と修復における年代測定の意義. 平成 25 年度東北芸術工科大学 文化財保存修復研究センター紀要, 4:19-40, 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター
- 大山幹成. 2014. 高間 (1) 遺跡出土木材の年輪年代測定. 青森市埋蔵文化財報告書第 116 集-3 石江遺跡群発掘調査報告 VII-石江土地地区画整理事業に伴う発掘調査-, 第 3 分冊: 新田(1)・(2)遺跡本文編, 石江遺跡群補遺編・分析編 5・総括編, 154-157, 青森市教育委員会

(3) 学会講演

- 坂下 渉, 横山 祐典, 宮原 ひろ子, 阿瀬 貴博, 米延 仁志, 大山 幹成, 星野 安治, 中塚 武: マウンダー極小期の太陽磁場サイクルに対する中部日本・台湾の気候応答, 日本地球惑星連合大会 2014 年大会, 千葉, 2014.5.2. (口頭発表)
- 大山幹成, 岡田靖, 宮本晶朗: 山形県白鷹町相応院蔵・笈の年輪年代測定, 日本文化財科学会第 31 回大会, 奈良, 2014. 7.5-6. (ポスター発表)
- 鈴木伸哉, 妹尾淳史, 大山幹成, 山田昌久, 森美加: 臨床用 MR 装置を用いた出土木材の非破壊年輪計測, 第 29 回日本植生史学会大会, 鹿児島, 2014. 11. 23. (ポスター発表)
- 箱崎真隆, 中村俊夫, 大山幹成, 木村淳一: ^{14}C -spike matching による青森県新田 (1) 遺跡アスナロ材の年代決定, 第 29 回日本植生史学会大会, 鹿児島, 2014. 11. 23. (ポスター発表)

(4) シンポジウム・講師など

- 大山幹成: 年輪年代学研究における材鑑標本の活用とデータベース化に向けた取り組み, 第 248 回生存圏シンポジウム, 宇治, 2014. 3.10 (口頭発表, 招待講演)

(5) フィールド調査

- ・5月10日から5月15日にかけて、中国・浙江省田螺山遺跡にて、出土木材の年輪調査、樹種調査を行った。
- ・5月26日～29日、函館市旧相馬邸、江差町旧中村家住宅に於いて年輪年代試料調査を行った。
- ・8月12日～29日にかけて、エジプト・大エジプト博物館保存修復センターに於いて、第2回木材修復研修 (JICA 大エジプト博物館保存修復センター (GEM-CC) プロジェクト) を実施した。
- ・9月25日～26日にかけて、三重県埋蔵文化財センターに於いて、年輪年代試料調査を行った。

- ・9月27日～30日にかけて、福岡県福岡市周辺にて木材採集会が行われ、鈴木三男、大山幹成、米倉浩司、小林和貴が参加した。
- ・12月12日～23日にかけて、ペルー・ナスカ地方に於いて、年輪試料収集を行った。
- ・1月5日～9日にかけて、安定同位体比測定を実施した。
- ・2月27日～3月10日にかけて、グアテマラ・ペテシュバトゥン湖で、コア掘削調査および現生植生調査を行った。

(5) 研究資金受託状況

- H26～27年 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B））「年輪幅・年輪同位体比・DNAマーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討」代表者 4,290,000円（直接経費：補助金 2,700,000円、基金 600,000円、間接経費 990,000円）
- H26 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（A））「年輪年代学の総合的研究—文化財科学における応用的展開をめざして」研究分担（代表者 鳴門教育大学准教授 米延 仁志）1,300,000円（直接経費 1,000,000円、間接経費 300,000円）
- H26 日本学術振興会科学研究費補助金（新学術領域）「古代アメリカ文明の高精度編年体系の確立と環境史復元」研究分担（代表者 鳴門教育大学准教授 米延 仁志）6,500,000円（直接経費 5,000,000円、間接経費 1,500,000円）
- H26 佐賀県佐賀市長からの受託研究「東名遺跡出土植物性遺物調査」代表者 848,640円（直接経費 652,800円、間接経費 195,840円）
- H26 （財）静岡県埋蔵文化財センターからの受託研究「平成24年度埋蔵文化財発掘調査（木製品保存処理）に伴う樹種調査」代表者 2,311,218円（直接経費 1,777,860円、間接経費 533,358円）

3. 大学運営，学会運営，社会的活動等

(1) 学内

植物園部会委員

(1) 学外

JICA 大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）プロジェクト 派遣専門家

(3) 所属学会，学会運営など

日本木材学会会員

日本植生史学会会員

日本森林学会会員

日本文化財科学学会会員

東北植物学会会員

IAWA (International Association of Wood Anatomists) 会員

Tree-ring society 会員

年輪研究会会員

北海道，東北保存科学研究会会員

日本植物園協会ホームページ委員会委員長

米倉 浩司（助教）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

(全学)

「自然科学総合実験」 第2 Semester 2単位の1単位（6回）

「博物館実習Ⅳ」 集中講義 1単位

(理学部)

「植物系統分類学実習」集中講義 1単位

「生物学演習」 第6 Semester 2単位のうち1/2（5回）

2. 研究活動

(1) 研究概要

岩手県で発見され、宮城県気仙沼市で栽培されているクジャクシダの1型について、この地域で分化した新品種であることを認め、発見者と共著でケセンクジャクの新和名と共に発表した（米倉・佐々木 2014）。

イネ科のササガヤの北日本に分布する変種キタササガヤについて、2012年に裸名のまま提案した新組合せが誤りであることをフランスのパリに保管されている基準標本の調査を通して明らかにし、正しい学名の組合せを提案すると共に、国内における分布図を標本調査によって示した（Ibaragi and Yonekura 2015）。

従来存在は知られていたものの新分類群とはみなされてこなかったヤナギ科ヤナギ属の2新雑種を記載した。また、従来独立種とされてきた中国産のペキンヤナギを、栽培種シダレヤナギの野生型とみなし、変種として組み替えた（Ohashi and Yonekura 2005）。

環境省が作成したレッドリストの改訂に伴って、2003年に出版した絶滅危惧植物の図鑑に新たに加わった種の解説を分担した（矢原ほか（監修）2015）。

宮城県東松島市の宮戸島において、東日本大震災の津波によって生じた環境の変化を調べるべく、2014年度を通じて現地調査を行い、過去の標本や文献も調べ直した上で、植物相と津波や復旧工事の影響について報告書にまとめた（米倉・牧 2015）。

(2) 学術論文等

1) 発表論文

米倉浩司, 佐々木敬三 2014. クジャクシダの1新品種ケセンクジャク（イノモトソウ科）. 植物研究雑誌 89(5): 360–361.

Ohashi, H. and Yonekura, K. 2015. Additions and Corrections for Salicaceae of Japan 3. The Journal of Japanese Botany 90(1): 1–14.

Ibaragi, Y. and Yonekura, K. 2015. A new combination for Japanese *Leptatherum* (Poaceae). The Journal of Japanese Botany 90(1): 66–72.

2) 著書、その他

米倉浩司(分担執筆) 2015. オオアカバナ, イワアカザ, アラゲタデ, ダイトウサクラタデ. 矢原徹一ほか（監修）絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ. 増訂改訂新版: 236, 413, 440. 山と溪谷社.

米倉浩司・牧雅之 2015. 宮戸島の植物相と東日本大震災による津波と地盤沈下によるそれへの影響. 宮戸島 - 人・歴史・自然 2.

(3) データベース

Yonekura, K. and Kajita, T. BG Plants 和名 - 学名インデックス (Ylist)

<http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/> (2003.7~) [2015年4月より URL は <http://ylist.info> に変更]

(4) 海外調査等

東北大学の牧研究室の学生と共に、日本と韓国に共通に分布する植物の系統地理学的研究のため、2014年7月3日から7月9日までの期間で韓国の各地を調査し、サンプリングを行った。

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 所属学会, 学会運営など

日本植物分類学会会員

同 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員

同 植物データベース専門委員会委員

同 国際植物命名規約邦訳委員会委員

同 Acta Phytotaxonomica et Geobotanica (APG)編集委員

ヒマラヤ植物研究会会員

植物研究雑誌編集委員

(2) 学外委員など

青森県環境影響評価審査会委員 (2010.3～)

青森県生物多様性地域戦略検討委員会委員 (2012. 10～)

背表紙

東北大学学術資源研究公開センター
二〇一四年度
年次報告

二〇一五年
三月